

平成 29 年度消費者庁支出委任費

食物アレルギー ひやりはつと 事例集 2018

FOOD ALLERGY

はじめに

この度、消費者庁からの委託業務として「食物アレルギーひやりはっと事例集 2018」を発刊することになりました。第1版は平成19年（2007年）に開催された第44回日本小児アレルギー学会（会長：宇理須厚雄）の記念誌として出版されました。その後も、毎年改訂しており、今年度も改訂版を出すことになりました。

「ひやりはっと事例集」は、園・学校、託児所、児童相談所、キャンプ、レストラン・ホテル、航空機、病院など食事を提供する施設・場面から報告された食物アレルギーに関するインシデント・アクシデントを整理したものです。インシデント・アクシデントから多くのことを学び、未然に誤食などの事故が生じないように注意を払うことができます。また、園・学校や病院などの施設では自分たちのマニュアルのブラッシュアップに生かすことができます。

最近、食物アレルギーを食育にとりいれている学校が増えてきました。

食物アレルギーをもった子どももいずれは自己管理ができるようになるべきです。自己管理ができておれば避けられた原因食品誤食事例もいくつかあります。加工食品のアレルゲン表示の見方、誤食の回避、緊急時のエピペン注射を含めた緊急時薬の投与などを実践できるようになることです。そのための教育用の参考書の作成ならびにエピペン自己注射を含む研修会の開催が必要です。

食物アレルギー患児が自己管理できるようにする参考書として本書を利用いただければ幸いです。

また、食物アレルギーのない子どもにも食物アレルギーに関する食育が行われ始めています。食物アレルギーに関する知識の教育だけではなく、患児の安全確保のための協力依頼です。牛乳アレルギーの子どもの代わりに牛乳の配膳をするなど給食準備作業での配慮だけではなく、万が一事故が起きた時の連絡係りなどなどです。

昨年、イギリスロンドンで起きてはならない目を疑うような事件が発生しました。

食物アレルギー（牛乳、鶏卵、小麦、グルテン、ナッツ類）と気管支ぜん息をもった13歳の男児。同じ学校の子どもにTシャツの中にチーズを投げ込まれ、その直後から、呼吸困難と全身じんま疹を発症（アナフィラキシー）。

学校職員によって、抗ヒスタミン薬内服、エピペン注射、気管支拡張薬の吸入などが施されたが意識・呼吸状態は回復せず。電話連絡から7分後に到着した救急隊によってアドレナリン注射など救急処置がなされたが、10日後、病院で死亡。

加害者は殺人未遂容疑で逮捕されたが、最終的には起訴されなかった。

起訴されなかったということは、犯罪ではなかったということでしょうか。また、食物アレルギーと知ったうえでのいじめではなく、患児の食物アレルギーを知らずに行っていたずらであったと信じたいところです。この子どもも含め、学校の子どもたちに対して常日頃から食物アレルギー対応に関する食育が行われておれば起きなかった事件かもしれません。

日本でも学校でのいじめ問題が取りざたされています。食物アレルギー対応にもいじめ対策が求められる時代でしょうか。大切なことは子どもたちに分断ではなく共生社会の大切さを教えることです。

食物アレルギー診療ガイドライン2016が発刊され、それに伴い、「各場面に共通する基礎知識」も改訂しました。

ひやりはっと事例集が、食物アレルギーに伴う事故を未然に防ぐことに役に立つことを願っています。

最後に、事例収集のために協力して頂いたNPO法人アレルギー支援ネットワークの関係各位、ならびに、アンケートに回答して頂きました方々に心から深謝申し上げます。

平成30年12月16日

宇理須 厚雄 うりすクリニック 名誉院長

藤田保健衛生大学医学部 客員教授

共通

1. 症状誘発するアレルゲン量に関する基礎知識	p12
1) アレルギーを誘発するアレルゲンの量には個人差があります	
事例 1 これくらいは大丈夫よ、きっと… (鶏卵・牛乳)	
2) ごくわずかな量で症状を起こすこともあります	
事例 2 コップに残っていたミルクで大変なことが… (牛乳)	
事例 3 卵の調理した鍋を洗わなかったための混入 (鶏卵)	
事例 4 ジュースのノズルから牛乳が混入 (牛乳)	
事例 5 触っただけなら大丈夫と思ったのに… (牛乳)	
事例 6 スプーンが一緒だっただけに… (魚)	
事例 7 同じ袋に入っていただけに… (ピーナッツ)	
事例 8 入院中、風船で遊んだら… (鶏卵)	
3) 体調によって誘発量が若干変わることがあります	
事例 9 いつも食べているので大丈夫と思って… (ジャガイモ)	
2. アレルゲン含有量とアレルギーの起きる原因	p14
1) 同種類の加工食品でもアレルゲン含有量には差があります	
事例 10 このパンは大丈夫と思ったら… (鶏卵)	
事例 11 原材料が同じで似ている食品だからと… (小麦)	
事例 12 紙袋に残っていた大豆の粉で喘息発作が… (大豆)	
2) 食物アレルゲンは接触や吸入でも起きます	
事例 13 小麦ねんどは、小麦だよ！ (小麦)	
事例 14 触った手で眼をこすってしまい… (鶏卵)	
事例 15 肌着の素材にアレルゲンが… (牛乳)	
事例 16 卵のついたトングを触って… (鶏卵)	
3. アレルギー検査	p16
1) 血液検査で陽性と判断されたすべての食品を除去する必要はありません	
事例 17 血液検査の結果で、除去、除去といわれ続けて、体重が… (牛乳、鶏卵、小麦)	
2) 血液検査 (IgE) の値の低い食品の安全性が高いとは限りません	
事例 18 うどんならいいかなと思い、試してみたら… (小麦)	
4. 学童期以降に発症することが多い食物アレルギーの特殊型	p17
1) 花粉症を合併する患者にみられることが多い果物や野菜の口腔アレルギー症候群	
事例 19 いつも食べていたトマトなのに… (トマト)	
事例 20 味噌、醤油、豆腐は食べていたのに… (大豆)	
2) 運動で悪化するまたは運動後に誘発される食物アレルギー	
事例 21 これまで小麦は大丈夫だったのに、どうして… (小麦)	
5. 急性症状への対応	p18
エピペン [®] 注射に関する事例	

- 事例 22 エピペン[®]注射、子どもの反応は「打たないで」… (牛乳)
- 事例 23 エピペン[®]注射のタイミング、消防署の救急救命士に相談しました… (小麦)
- 事例 24 主治医の救急外来へ相談、医師の指導で母が注射… (鶏卵)
- 事例 25 予期せぬ食品でアナフィラキシー、養護教諭が適切な判断でエピペン[®]を注射 (カシューナッツ)
- 事例 26 給食で小麦入り料理を食べて縄跳びをしたらアナフィラキシー、本人がエピペン[®] (小麦)

6. 除去食と誤食予防 …………… p20

- 事例 27 病院の医師に少しずつ解除しましょうといわれ、ヤクルトを飲ませたところ… (牛乳)

1) 母乳を介する食物アレルギーの治療で気をつけることは

- 事例 28 母乳栄養はアレルギーを起こさないって聞いていたのに… (鶏卵)

2) 牛乳アレルギーには、アレルギー用ミルクを使用してください

- 事例 29 粉ミルクを自宅で飲ませたら… (牛乳)

3) 治る年齢には個人差があります

- 事例 30 「1歳半頃になると食べられるようになる。」と言われて… (牛乳)

7. 経口免疫療法 …………… p21

1) 食べて治す治療を自分の判断だけで行うことは危険です

- 事例 31 食べて治す本を読んで… (鶏卵)
- 事例 32 食べて治す治療を自宅で進めていたら… (鶏卵)
- 事例 33 自宅でちょっと食べてみるのは、ちょっと… (鶏卵)

2) 経口免疫療法にひそむひやりはっ

- 事例 34 経口免疫療法中に加工食品を食べてじんま疹が出現 (牛乳)
- 事例 35 食べた後のプロレスごっこで大変なことに… (小麦)
- 事例 36 毎日食べていないと耐性が… (鶏卵)
- 事例 37 外出する時には、緊急時薬を忘れずに (牛乳)

8. 誤食を防ぐための教育 (自己管理能力を身につける) …………… p24

年齢が大きくなったら自己管理能力を身につけさせましょう

- 事例 38 「食べられない」ということを言えなかったために… (鶏卵)

9. 調理法とアレルギー性 …………… p24

- 事例 39 たこ焼きを食べたら、卵の加熱が… (鶏卵)
- 事例 40 ゆで卵の卵黄の取り出し時間で症状がでるなんて (卵)
- 事例 41 自己判断で小麦を摂取したら (小麦)
- 事例 42 乳糖が大丈夫とは限らない

10. 医薬品、医薬部外品、化粧品 …………… p25

1) 石鹸によっておこる食物アレルギーがあります

- 事例 43 お風呂の石鹸で… (牛乳)
- 事例 44 肌にやさしい石鹸と思って使用していたら… (小麦)

2) 牛乳や卵アレルギーでは避けた方がよい薬があります

- 事例 45 病院でもらった下痢止め (タンナルビン) だから安心と思ったのに… (牛乳)

- 事例 46 お医者さんから処方された整腸剤で… (牛乳)
- 事例 47 アレルギーの治療薬のつもりが、ソル・メドロール 40mg の注射で… (牛乳)
- 事例 48 鼻に軟膏をぬったら、全身が真っ赤に… (鶏卵)
- 事例 49 目薬を差したら… (鶏卵)
- 事例 50 歯科検診の歯磨きで… (牛乳)

3) インフルエンザワクチン接種前に卵を食べさせて確認する必要はありません

- 事例 51 インフルエンザワクチンを受けたくて自宅で卵をちょっと試してみたら… (鶏卵)

1 1. 皮膚への接触で発症 …………… p28

- 事例 52 衣服に付着した小麦粉で… (小麦)

1 2. 吸入で発症 …………… p29

- 事例 53 お菓子の食べカスが舞って… (小麦、牛乳)

1 3. アレルゲンの食品表示 …………… p29

1) 必ず毎回表示を確認しましょう

- 事例 54 ついうっかり原材料表示を見逃して… (鶏卵)
- 事例 55 個包装の確認不足で… (鶏卵)
- 事例 56 本人が大丈夫と言っても… (鶏卵)
- 事例 57 友人から頂いたお菓子で… (小麦)
- 事例 58 海外のお土産で… (クルミ)
- 事例 59 味付き肉には気をつけて、牛タンにカゼインが使用 (牛乳)
- 事例 60 表示の解釈は慎重に… (小麦)
- 事例 61 見た目がいっしょでも気をつける (鶏卵)
- 事例 62 いつものちくわで… (鶏卵)
- 事例 63 クッキーのアイシングで… (鶏卵)
- 事例 64 カップラーメンで… (ピーナッツ)

2) できれば複数の人が表示を確認しましょう

- 事例 65 保育園でアレルギーなしのおやつと言われて食べたところ… (牛乳)
- 事例 66 いつも食べている桃を缶詰で食べたら… (牛乳)

3) 食べ慣れた加工品でもリニューアルの可能性があることを知っておきましょう

- 事例 67 リニューアルの表示がなく、パッケージもそのまま… (鶏卵)

4) 製造ラインまで確認しましょう

- 事例 68 表示に娘のアレルゲンとなる物はなかったのに… (牛乳)

5) レストランや店頭販売に表示義務はありません

- 事例 69 旅行先に名物のアイスクリーム屋さんがあって… (鶏卵)
- 事例 70 パン屋さんのパンは安全と思ったのに… (牛乳)

6) 総菜やばら売り、試食品に表示義務はありません

- 事例 71 スーパーマーケット試食コーナーにて (鶏卵、牛乳)
- 事例 72 表面に卵を塗った「卵不使用」調理パンって… (鶏卵)
- 事例 73 手作り食品には表示義務がないので… (くるみ)

7) 紛らわしい表示でもお子さんのアレルゲンと関連のあるものは覚えるようにしましょう

- 事例 74 グルテン入りの「100%米粉パン」って… (小麦)
- 事例 75 牛肉は加工されている場合があります… (牛乳)
- 事例 76 乳糖は大丈夫だと思って… (乳)

自宅 (祖父母宅)

1. 食品購入時 p37
よく行き来する祖父母宅の問題点
 - 事例 77 同じメーカーのジュースで… (牛乳)
 - 事例 78 自分では開けられないから、持たせていても大丈夫… (小麦)
2. 情報の共有不足 p37
 - 1) 見た目がそっくりな代替食に潜む問題点
 - 事例 79 あまり上手に代替食を作りすぎたばかりに… (牛乳)
 - 事例 80 まさかお代わりの時に間違えるなんて… (牛乳、小麦)
 - 2) 留守中に面倒を見てくれる人には十分な情報を伝えましょう
 - 事例 81 母親の留守中におじいちゃんが… (鶏卵、牛乳)
 - 事例 82 アレルギーと知っていたが、ほしがる孫に少しくらいと… (小麦)
3. 食品の整理整頓 p39
アレルギー食品や家族・兄弟などの食べ残しなど、そのままにしておくで大変です
 - 事例 83 まさか触るとは… (牛乳)
 - 事例 84 お兄ちゃんのラムネを自分のと同じお菓子だと思って… (牛乳)
 - 事例 85 お兄ちゃんがもらったチョコレートを知らない間に… (ピーナッツ)
 - 事例 86 食べ残しには注意を！ (牛乳)
 - 事例 87 食卓に残されたスプーンにカフェオーレが… (牛乳)
 - 事例 88 身近にアレルギーは置かないこと！ (牛乳)
 - 事例 89 お兄ちゃんのたべこぼしに卵が… (鶏卵)
 - 事例 90 ゴミ箱のストローで… (牛乳)
4. 食事時の配慮の不足 p41
 - 事例 91 お兄ちゃんの食事に手をのばして… (イクラ)
5. 極微量でも症状が出る子もいます p41
 - 事例 92 ヨーグルトを食べたお姉ちゃんのクシャミが顔に飛んで… (牛乳)
 - 事例 93 兄弟が食事中に食べながら熱っぽく話していたら… (魚)
 - 事例 94 クッキーを食べたお兄ちゃんがそばにいたら妹に異変が起きました (小麦、そば)
 - 事例 95 家族が手をよく洗わずに子供を抱いたらアレルギーが出ました (牛乳)
6. 食物アレルギーが関与する乳児アトピー性皮膚炎があります p43
初めて与える食品は注意が必要です
 - 事例 96 はじめて与えたミルクで… (牛乳)

友人宅（友人との食事会） p44

- 事例 97 友達の親子パーティーに参加したら、子供がおやつに手を出して…（鶏卵、牛乳、小麦）
事例 98 お友達の家で提供された食事だったので、断れず、少しぐらいなら大丈夫と思い…（牛乳）

園・学校・施設

1. 食物アレルギーに関する知識の不足による事例 p45

食物アレルギーのことを知らないスタッフが起こした事例

- 事例 99 園でおやつのおかわりを間違えて配膳（鶏卵）
事例 100 カルピスは牛乳からつくるの？（牛乳）
事例 101 味の素が事故のもと…（牛乳）
事例 102 えっ！それが原因だったの？（牛乳）

2. 情報の共有不足による事例 p46

1）スタッフ間での情報共有が不十分であった事例

- 事例 103 間違って渡されたアメとパンケーキ、先生どうして？（鶏卵、牛乳、小麦）
事例 104 延長保育の時間におやつを食べて（鶏卵）

2）スタッフと家族との情報共有が不十分であった事例

- 事例 105 託児所は、万全のアレルギー対応と思っていたら…（鶏卵、牛乳、そば、ピーナッツ）
事例 106 先生が「残さないように」と言ったため…（キウイフルーツ）

3）給食センターと施設間の情報交換が不足すると

- 事例 107 給食で使っている業務用豆板醤のメーカーが変更になって（ピーナッツ）
事例 108 行事食では給食業者が変わることがある（卵）

3. 食事（給食・おやつ）献立や食事におきた事例 p48

1）献立の確認は複数の人で行ったほうがよい

- 事例 109 お母さんが「オムレツ」を見落としちゃった！（鶏卵）
事例 110 園と学校のマヨネーズは違うの？（鶏卵）
事例 111 給食で出されたキムチでじんま疹が…（ゴマ）
事例 112 食材がよくわからない料理だったのだけど…（ゴマ）

2）給食の献立に関する事故；メニュー誤りや事前チェック誤り

- 事例 113 栄養教諭が原因アレルゲンを含むメニュー（料理）にマークするのを忘れたために（牛乳）
事例 114 兄弟で弁当箱の取り違い（卵）

3）食事時の観察

- 事例 115 友達からおやつをもらってしまって…（牛乳）
事例 116 目印のラップがはがされていたので…（牛乳）
事例 117 園でおかわりのシチューを食べて…（牛乳）
事例 118 目を離した隙に（牛乳）
事例 119 お弁当箱の取り違い（鶏卵）

4）献立表作成のポイント

- 事例 120 献立表の付箋がはずれていたために…（牛乳）

4. 給食以外の学習活動の事例 p52

給食やおやつの時間以外でも食物アレルギーが起こります

- 事例 121 しゃっくりが止まらなかったので友達が麦茶をくれました、そしたら… (大麦)
事例 122 お泊まり保育でのアレルギー代替食で (牛乳)
事例 123 家庭科の調理実習で (鶏卵、牛乳、小麦、バナナ、ココア)

外食 (ホテル・レストラン)

1. 利用する側の事前の確認不足 p54

注文する前にアレルゲンが入っているか確認しましょう

- 事例 124 レストランの外食で、鴨の肉だからよいと思ったら… (鶏卵、牛乳)
事例 125 こじやれたお寿司屋さんで (鶏卵)
事例 126 旅行先の豆腐とは? (ピーナッツ)
事例 127 そばを扱っているうどん屋さんで、うどんを注文したけれど (そば)
事例 128 中華料理はピーナッツにご用心 (ピーナッツ)
事例 129 チェーン店って共通メニューではないの? (鶏卵)
事例 130 まさかコーヒーフレッシュの蓋に穴があくとは (牛乳)

2. 食事を提供する側 (ホテル・レストラン) の問題 p56

1) スタッフの食物アレルギーに関する知識不足

- 事例 131 フライドポテトに小麦粉が… (小麦)
事例 132 レストランで、頼んだものは… (牛乳)
事例 133 牛乳アレルギー用ミルクのはずなのに… (牛乳)
事例 134 卵を切った包丁で、フルーツをカットした??? (鶏卵)
事例 135 十割蕎麦でも… (小麦)
事例 136 ハンバーグソースに… (小麦)
事例 137 除去食で頼んでいたのに (鶏卵)
事例 138 原材料表示にはなかったのに… (牛乳)

2) スタッフ間での情報共有不足

- 事例 139 アレルギー対応食のレストランで何度も確認したのに… (鶏卵、牛乳)
事例 140 ウインナーにチーズが… (牛乳)

3) アレルゲン吸入による症状

- 事例 141 そば粉が空中を舞っていた! (そば)

家庭以外 (学習塾、祭り、キャンプ)

食事と無関係と思われるところでも誤食事故が起こりえます p61

1. 学習塾

- 事例 142 学習塾でご褒美にもらったアメにアレルゲン… (牛乳)
事例 143 塾でもらったクッキーに赤い豆、ピーナッツ? (ピーナッツ)

2. お祭りなど

- 事例 144 五平もちが卵いり? (鶏卵)
事例 145 床屋でもらったアメにまさか… (牛乳)

3. キャンプ

- 事例 146 カンテンなら食べられたのに… (ゼラチン)
事例 147 フレンチトーストは卵いり? (鶏卵)
事例 148 ハイキング後のシャーベットに卵が… (鶏卵)

旅 行

機内食について p63

- 事例 149 国際線機内食で、事前に卵アレルギー対策をしてくれるといったのに… (鶏卵、牛乳)
事例 150 ベジタリアンならよいと思ったら… (牛乳)
事例 151 機内で提供された 100%ジュースに乳がコンタミしていた (牛乳)

災害時

災害時には類似した様々な問題が起きました。こうした事例の中から代表的な症例を選び、他の症例との類似点をアレンジして事例として掲載させて頂きました。..... p64

1. 食品の入手が困難になります

- 事例 152 震災でせんべいをやっとな手に入れることができました (卵、牛乳、ゴマ、小麦)

2. 誤食しやすくなり、合併するアレルギーも悪化します

3. いつもの薬が不足します。

4. 集団での共同生活を強いられ、除去食が作れない状況になります

5. 合併するアトピー性皮膚炎、喘息が悪化します

- 事例 153 共同生活で湿疹が悪化、いつもの医療機関にかかれないので、
手持ちの薬 (内服薬・軟膏) がなくなりました (鶏卵、牛乳)

6. お子さんの情報が周りの人に十分伝わりません

- 事例 154 避難所生活では支給された食事の中から食べられそうなものを与えた (鶏卵、小麦)


各場面に共通する基礎知識 p68

1. 食物アレルギーの定義
2. 学校での食物アレルギー・アナフィラキシーの頻度
3. 保育所における食物アレルギー有病率
4. 食物アレルギーひやりはっと事例集でみる事例発生場所
5. 症状を誘発するアレルゲン量
6. 加工食品中のアレルゲン含有量
7. アレルギー検査
8. 学童期以降になってから発症する食物アレルギーの特殊型
9. 治療
10. 誤食を防ぐための教育

経口免疫療法における注意点 p71

1. 経口免疫療法とは
2. 治療中に症状が出ることもある
3. 免疫療法で症状が出た時の対処
4. 免疫療法のメリット

加工食品のアレルゲン表示	p71
1. アレルゲン食品表示の範囲	
2. アレルゲン食品表示をみる際の注意点	
医薬品や医薬部外品、化粧品	p73
自宅（祖父母宅を含む）	p74
1. 食品購入時	
2. 情報共有	
3. 食事の準備	
4. 食事時の注意点	
5. 食後の整理整頓	
6. 極微量でも症状が誘発される症例での注意点	
7. 自宅外での誤食を回避するために年齢に応じた教育を行う	
友人宅（友人との食事会や親子パーティー）	p74
園・学校・託児所	p75
1. 個々の園・学校に適した「食物アレルギー対応マニュアル」を作成する	
2. スタッフへの食物アレルギー研修	
3. アレルギー情報の共有	
4. 給食	
5. 食事以外の学習活動	
6. アナフィラキシーなどアレルギー症状出現時の対応	
7. エピペン [®]	
8. 心理的、社会的配慮	
9. 食物アレルギー教育（食育）	
10. 職員の安全管理体制の確立	
外食（ホテル・レストラン）	p84
1. 患者側の対策	
2. 食物アレルギー対応と銘打つレストラン側の対策	
キャンプ	p84
1. 出発前の準備	
2. 施設との打ち合わせと事前調査	
3. キャンプ出発時	
4. キャンプ中	
海外旅行	p86
災害対策	p88
食物アレルギー患者さんのためのアレルゲン不使用食品	p91



食物アレルギー事例

1. 症状誘発するアレルゲン量に関する基礎知識

1) アレルギーを誘発するアレルゲンの量には個人差があります

事例 1 これくらいは大丈夫よ、きっと… (鶏卵・牛乳)

年齢・性別：1歳 女児

原因：カステラ

症状：全身じんま疹

経過：それまでに3回、卵の二次製品を食べて症状が出たことがあったため、園には食物アレルギーの話はしてありました。しかし、幼稚園のおやつ時間に先生が「これくらいは大丈夫よ」とカステラを少量食べさせたとのことでした。5分くらいで、全身じんま疹がみられ、抗ヒスタミン薬の内服をしてから病院を受診しました。

解説：誘発する摂取量は、個人個人によって全く異なります。

対策：自己判断で安全に摂取できる量を決めることは避けましょう。医師に相談してください。

2) ごくわずかな量で症状を起こすこともあります

事例 2 コップに残っていたミルクで大変なことが… (牛乳)

年齢・性別：5歳 女児

原因：牛乳

症状：じんま疹

経過：園のおやつ時に、他の子供が牛乳を入れて飲んだコップを洗ってから、うちの子のためにお茶を入れてくれたのですが、飲んだ後にじんま疹が出ました。手持ちの抗ヒスタミン薬の内服で落ちつきしました。

解説：コップに牛乳が残っていたためと思います。園の先生が極少量のミルクでもトラブルが起きることを十分認識しておらず、洗浄が不十分であったためと考えられます。

対策：間違っただけで飲まないようにするために、食物アレルギー児には専用の食器を使うこと。

事例 3 卵の調理した鍋を洗わなかったための混入 (鶏卵)

年齢・性別：2歳 女児

原因：調理器具に残っていた卵

症状：アナフィラキシー

経過：旅行先で、皆と別料理を頼んであったにもかかわらず、食事中にショック症状を起こしました。直ちに救急車で病院へ行き治療を受けました。あとで、確認したところ、卵料理をした鍋を十分洗わずに使用していたことがわかりました。

解説：卵を使用した調理器具に残った極少量の卵でも重篤なアレルギー症状を起こす症例もあります。

対策：アレルゲンがついた調理器具はしっかり洗浄するか、調理器具も分けるようにしましょう。

事例 4 ジュースのノズルから牛乳が混入 (牛乳)

年齢・性別：3歳 男児

原因：ジュースに混入した微量のミルク

症状：じんま疹

経過：注入口が共通タイプの自動販売機で、ジュースを買って飲んでいたら、口の周囲からじんま疹が出てきました。慌てて緊急時用の抗ヒスタミン薬を飲ませました。

解説：ノズルが共通タイプの自動販売機では、前に購入されたコーヒーのミルクがノズルに残っている場合があります。この例では、ノズルに残った微量のミルクがジュースに混じってしまったことで症状が出たと思われます。

対策：患者：ノズルが共通タイプの自販機は使わない。

企業：自動販売機に「乳成分が混入するおそれがあります」という表示をする。

事例 5 触っただけなら大丈夫と思ったのに…（牛乳）

年齢・性別：3歳 男児

原因：チーズの包装

症状：じんま疹、咳、喘鳴、ぐったり

経過：祖父は孫にチーズのアレルギーがあることは知っていました。自分が食べようとしたチーズの包装を孫がむきたがったので、触るだけなら大丈夫と思いむかせたところ、その触った手を口にもっていきしまいました。

解説：食物アレルギーにも程度の差があり、重症な場合は触った手を舐めるだけで症状が出る場合があります。

対策：アレルゲンとなるものを子供に持たせない。

事例 6 スプーンが一緒だったただけなのに…（魚）

年齢・性別：7歳 男児

原因：魚を煮たときに使ったスプーン

症状：発赤、かゆみ、じんま疹、下痢、目の充血

経過：家族の煮魚のおつゆをすくったスプーンを、軽く水洗いして魚アレルギーの子供に使わせたら、食事をとった数分後から目のかゆみとじんま疹、その後下痢の症状が出ました。

解説：原因食材に触れた食器や調理器具でも、洗いが不十分で残っていると、アレルギー症状を起こすことがあります。

対策：最初から専用の調理器具や食器を用意しておきましょう。また、できるだけアレルギーの強い子供にあわせた献立を考え、家族みんなで同じものを食べるようにするのがよいでしょう。

事例 7 同じ袋に入っていたただけなのに…（ピーナッツ）

年齢・性別：4歳 女児

症状：喘鳴、軽度チアノーゼ

経過：柿の種とピーナッツが一緒に入った袋から柿の種だけ食べたところ、突如、喘息のような症状（ゼーゼー・ヒューヒュー）と軽いチアノーゼが出てしまいました。

解説：たとえピーナッツそのものを食べていなくても、粉末状で微量についているだけの量で、症状が誘発される可能性があります。特にナッツ類はローストされるとアレルゲン性が増すため注意が必要です。

対策：少量の摂取でも症状が出る場合、アレルゲンに触れているものにも注意しましょう。

事例 8 入院中、風船で遊んだら…（鶏卵）

年齢・性別：4歳 男児

原因：卵豆腐

症状：じんま疹、喘鳴、腹痛、嘔吐

経過：卵アレルギー児が肺炎の治療で入院をしていました。二人部屋で仲良しになった同室の児が朝食に出た卵豆腐を食べた後に風船で遊んでおり、その風船を貸してもらい同じように口にくわえて膨らませて遊んでいたところ、1時間ぐらいすると、顔面から全身にじんま疹が広がり、腹痛とともに嘔吐し、喘鳴が認められるようになりました。入院中だったので、すぐ医師の診察を受けて抗ヒスタミン薬が投与され、気管支拡張薬の吸入をおこない症状は改善しました。

解説：口の周りに残っていた卵豆腐が風船を介して、アレルギー児の口に入ったことで、誤食が起きたと考えられます。食物アレルギーのない同室の児まで、アレルギー制限食とするわけにはいきません。入院中であっても、個室でなければ、集団生活をおくっているのに、アレルギー児が口にするものには、食物以外にも注意しなければならないことが、この事例でわかります。

対策：風船の貸し借りだけではなく、コップやスプーン、ジュースのまわしのみでも同様のことが起こります。感染症対策面からも、入院時のオリエンテーションで『おもちゃの貸し借りはしないようにお願いします。』と説明があると防ぐことができたかもしれません。

3) 体調によって誘発量が若干変わることがあります

事例 9 いつも食べているので大丈夫と思って… (ジャガイモ)

年齢・性別：2歳 男児

原因：ポテトチップス

症状：顔面の発赤と浮腫

経過：その日は体調が悪くあまり食欲がなかった。じゃがいもアレルギーはあったが、ポテトチップス5枚程度は食べて症状がなかったのに、今回も5枚与えたところ、食べて15分後に顔面の発赤と浮腫が出現しました。

解説：前回食べられたポテトチップス5枚でアレルギー症状がでてしまいました。アレルギーを誘発する摂取量は患者の体調で変わることがあります。

対策：この例のように体調が悪いとアレルギーが起きやすくなる場合があります。

下痢、運動、入浴、鎮痛解熱剤、生理などが食物アレルギーを誘発しやすくなる要因です。

2. アレルゲン含有量やアレルギーの起きる原因

1) 同種類の加工食品でもアレルゲン含有量には差があります

事例 10 このパンは大丈夫と思ったら… (鶏卵)

年齢・性別：5歳 女児

原因：メロンパン

症状：口唇の腫れとじんま疹

経過：母親は「菓子パンくらいの鶏卵は大丈夫」と園に伝えていましたが、園のおやつにでたメロンパンで、口唇の腫れとじんま疹がでてきました。

解説：母親は（少量の卵が使用してある）菓子パンは大丈夫だというつもりでいた。しかし提供されたメロンパンは、菓子パンであることには違いないが、通常の菓子パンに比し卵が増量してあることが問題だった。卵の含有量が多かったことで症状が出た。

対策：菓子パンでも商品によって卵アレルゲン含有量に差があります。特にメロンパンにはクッキー生地にも卵が多く含まれるので注意が必要です。

事例 11 原材料が同じで似ている食品だからと… (小麦)

年齢・性別：5歳 男児

原因：そうめん

症状：顔面の発赤、咳

経過：うどんを6本までは食べられるので、そうめんをあげてみることにしました。そうめんは細いので少し多めにあげてみたところ、食べてから20分ほどして顔面が赤くなり、咳込んでしまいました。40分ほどして症状は消失しました。後になって、そうめんは小麦タンパクの量が多いと知り、注意して与えなくてはならなかったと反省しました。

解説：同じ原材料で作られていて、見た目が似たものでも、含まれるアレルゲンの量は異なります。

対策：原因食物が少量しか食べられない場合、原因食物が含まれる類似の食品を安易に試食することは避けましょう。

事例 12 紙袋に残っていた大豆の粉で喘息発作が… (大豆)

年齢・性別：5歳 男児

原因：紙袋に残っていた大豆の粉

症状：喘息発作

経過：幼稚園で、大きな紙袋を使い、紙の服を作って着るという工作のときに喘息が起きました。

解説：この紙袋は、大豆を入れるのに使っていたことが後でわかり、大豆の粉じんを吸い込んだ為に喘息発作が起きたことがわかりました。

対策：使用済み紙袋の以前の使用内容を確認する。これ以外にも米、そば粉、小麦粉などを扱った後の物品は使用しない。

2) 食物アレルゲンは接触や吸入でも起きます

事例 13 小麦ねんどは、小麦だよ！ (小麦)

年齢・性別：4歳 女児

原因：小麦粘土

症状：じんま疹、結膜充血、眼瞼浮腫

経過：小麦アレルギーがあることは事前に園に伝えてあったのですが、小麦粘土の工作をしました。5分後に触った手からじんま疹が出現し、またその手で目をこすったため、結膜充血、眼瞼浮腫が起きました。抗ヒスタミン薬を飲ませ、手と目を洗い、ようやく落ち着きました。

解説：食物アレルギーでは、多くの患者で接触によるアレルギーを起こします。食べなければ大丈夫と思っていたため、このようなことが起きました。

対策：食物アレルギーは食べるだけでなく、皮膚や粘膜への接触でもアレルギー反応を起こします。特に目は出やすいので注意する。

事例 14 触った手で眼をこすってしまい… (鶏卵)

年齢・性別：5歳 男児

原因：ゆで卵の殻についていたと思われる卵

症状：眼球結膜の腫れ

経過：保育園の行事で、ゆで卵の殻にシールを貼った。自宅に帰ってきてから、卵に穴が開いていたために、そこに指を入れてしまい、その指で目をこすったら眼球結膜がだんだん腫れてきました。

解説：ゆで卵に触れた手で白眼をこすってアレルギー症状が出た。

対策：皮膚に触れても大丈夫でも、眼の中などの粘膜に触れるとアレルギー症状が出る場合があり、アレルギーが手に触れた場合はしっかり手を洗う必要がある。卵アレルギー児のいる園では卵の殻を利用した工作は避ける。

事例 15 肌着の素材にアレルギーが…（牛乳）

年齢・性別：1歳 男児

原因：カゼイン繊維を含む肌着

症状：肌着の触れた部分にじんま疹

経過：生後3ヵ月頃から湿疹がひどくなりアトピー性皮膚炎と診断を受けました。完全母乳栄養でミルクを与えたことはなかったのですが、1歳の時に行ったアレルギー検査では牛乳、カゼインともに反応が出ていました。これまでは問題なく着ることができた肌着を着せたところ、肌着が接触していた部分にじんま疹が出てしまいました。繊維の素材を見てみるとカゼイン繊維と記載してありました。

解説：カゼイン繊維の成分が皮膚を刺激して症状が出た可能性があると考えられます。

対策：牛乳アレルギーの患者は使用を避ける。

事例 16 卵のついたトングを触って…（鶏卵）

年齢・性別：4歳 女児

原因食品：レストランでの食事

症状：目の周りの発赤

経過：レストランでの食事の時、ビュッフェ形式であり、自由にとることができるシステムになっていました。トングなどを子供が触り、その手で目の周りを触ったことで症状がでました。洗顔をして、しばらくしたら症状が改善しました。

解説：トングに卵がついていた。

対策：アレルギーがついている可能性がある食器などをさわった後は、速やかに手を洗う習慣をつける。

3. アレルギー検査

1) 血液検査で陽性と判断されたすべての食品を除去する必要はありません

事例 17 血液検査の結果で、除去、除去といわれ続けて、体重が…（牛乳、鶏卵、小麦）

年齢・性別：11ヵ月 男児

症状：アトピー性皮膚炎

経過：生後3ヵ月ごろよりアトピー性皮膚炎と診断されました。アレルギーの検査をした項目は全て陽性だったので、医師から離乳食は1歳ごろから開始するようにと指導を受け、その後は民間療法で治療をしていました。皮膚の症状はある程度落ち着いたのですが、10ヵ月健診のとき体重増加不良、発達遅延を指摘されてしまいました。

解説：過度の食物除去療法による発育障害です。乳児において食物除去療法を行う場合は、特に代わりになる食物を積極的に検索して、成長、発達に影響の無いように十分に配慮する必要があります。

対策：血液検査で特異的IgE検査が陽性であっても食べられる場合があります。やめる必要があるかないかを主治医に相談してから決めてください。もし疑わしい食品のすべてが検査でIgE陽性であった場合は、専門医に相談して食べられる食物を探してもらいましょう。

もし、食べられるものがすぐ見つからない場合でも、専門医の正しい指導を受け、ケースによっては食物アレルギーの知識のある栄養士による栄養管理も必要です。母子手帳などにある成長曲線をつけて、発育の経過をきちんとみていくことは大変重要です。また、食物アレルギーがある乳児でも離乳食の開始を遅らせる必要はありません。生後5～6ヵ月頃が適切です。安全に食べることができる食品で栄養を確保して離乳食を進めていって下さい。

2) 血液検査（特異的 IgE）の値の低い食品の安全性が高いとは限りません

事例 18 うどんならいいかなと思い、試してみたら…（小麦）

年齢・性別：2歳 女児

原因：うどん

症状：じんま疹

経過：アトピー性皮膚炎で血液検査をしてもらい、卵、牛乳、大豆、米、小麦の特異的 IgE 抗体が陽性と判明し、低アレルゲン米と野菜のみの離乳食しか食べていませんでした。2歳の時、小麦の数値が一番低かったため、小麦から試してみようと思い、自宅で、うどんを食べさせたところ、じんま疹がでてしまいました。幸いにも、自宅での観察だけで落ちつきしました。

解説：特異的 IgE の数値が低ければ安全と思い、家族の判断だけで自宅で試してみたために、症状が出てしまいました。

対策：アレルギー検査で特異的 IgE の数値が一番低い食品が、一番症状が出ないという認識は誤りです。

負荷試験を行う時期については、必ず主治医またはアレルギー専門医とご相談ください。

4. 学童期以降に発症することが多い食物アレルギーの特殊型

1) 花粉症を合併する患者にみられることが多い果物や野菜の口腔アレルギー症候群

事例 19 いつも食べていたトマトなのに…（トマト）

年齢・性別：18歳 女性

原因：トマト

症状：口唇の刺激感、のどの痛み、

経過：トマトを口にしたら、いつもとちがって、のどに少し違和感がありました。気にせず何個も食べ続けたら、のどがピリピリして呼吸しづらくなりました。後日、プリック・プリックテストでトマトにアレルギーがあることが証明されました。

解説：口腔アレルギー症候群（Oral Allergy Syndrome：OAS）とよばれる食物アレルギーの特殊型です。高学年の児童から成人の方に発症します。原因は果物や野菜であることが多いです。口やのどの症状だけで終わってしまうものが大部分ですが、一度に大量に摂取すると全身症状をきたす場合があります。

対策：花粉症があり果物を食べたときに口の中に違和感を生じたら、OAS かもしれません。病院へ行って調べてもらいましょう。

事例 20 味噌、醤油、豆腐は食べていたのに…（大豆）

年齢・性別：39歳 女性

原因：大豆乳

症状：口腔違和感、嘔吐、じんま疹

経過：味噌、醤油、豆腐などの大豆食品はふつうに摂取していましたが、高濃度大豆乳を飲んだ

ところ、口腔違和感があり、その直後に全身にじんま疹が広がりました。

解説：シラカンバやハンノキなどの花粉の主要抗原と類似構造を有する食物抗原との交差反応によっておこる花粉-食物アレルギー症候群(PFAS)です。花粉症感作後に交差反応性によって新たに果物や野菜にアレルギーを生じる場合、口腔症状のみにとどまる口腔アレルギー症候群(OAS)のことが多いですが、中にはこの例のように全身蕁麻疹や呼吸困難など重症症状を伴う場合があります PFAS と呼びます。花粉症の一部の患者で、加熱処理をあまり必要としない豆乳などの大豆製品の摂取で見られます。PFAS で重症な症状をきたす詳細な機序はわかっていません。

対策：健康食品ブームで最近よく売られている大豆乳での事例です。花粉症(シラカンバ花粉)がある場合、大豆乳を摂取する場合は少量摂取してみて、無症状であれば徐々に増量してください。

2) 運動で悪化するまたは運動後に誘発される食物アレルギー

事例 21 これまで小麦は大丈夫だったのに、どうして…(小麦)

年齢・性別：12歳 男児

症状：アナフィラキシー

経過：これまで小麦は普通に食べていました。しかし、学校給食の後、授業でサッカーをしていたら、突然、顔面、頸部、躯幹にじんま疹が出現し、意識を失って病院へ連れて行かれました。

解説：今回の事例は食物依存性運動誘発アナフィラキシーです。給食で食べたスパゲティーが原因となり、その後サッカーをしたため症状が出現しました。

対策：まず原因を確認しておくことが重要。原因がわかれば運動前に該当食品を避けるか、該当食品を食べた後、約2時間運動を避けます。原因がわからなければ、給食後2時間は運動を避けることです。

5. 急性症状への対応

エピペン®注射に関する事例

事例 22 エピペン®注射、子どもの反応は「打たないで」…(牛乳)

年齢・性別：8歳 女児

原因：板チョコ

症状：アナフィラキシー

経過：学童保育でみんなが食べていた、板チョコを間違えて食べてしまった。その後、鬼ごっこをしていたら、呼吸苦を訴え始め、咳・喘鳴、皮膚のかゆみとじんま疹が全身へ広がりました。指導員が患児へエピペン®を打つかと聞いたところ、「打たないで」といいました。指導員は母へ連絡したところ、母はエピペン®注射が必要と判断しました。それを聞き、患者本人が大腿中央外側を指さし、「ここへ打って」と言い、指導員がエピペン®注射をしました。注射後、病院へ搬送されました。

解説：子どもの場合は、本人に聞いても正しい判断はできません。多くの患児が「打たないで」というでしょう。母親や、緊急時の病院に連絡をして、判断することが重要です。

対策：日ごろからエピペン®注射の実践的なトレーニングを行い、実際の場面でスムーズに行動できるようにしておきましょう。食物アレルギー急性症状チェック表を園・学校側と保護者の両者が携帯し、症状をチェックすると判断しやすくなります。

事例 23 エピペン®注射のタイミング、消防署の救急救命士に相談しました…(小麦)

年齢・性別：3歳 女児

原因：魚肉ソーセージ

症状：アナフィラキシー

経過：魚肉ソーセージを食べたところ、喘鳴と皮膚のじんま疹がでました。座っておれず、ぐったりしてきたので、保育士は母に連絡し母が来園しましたが、母はエピペン[®]はまだ必要ないと判断しました。しかし、保育士は心配で救急車を要請したところ、電話に出た救急救命士はエピペン[®]注射が必要と判断し、母に注射するように指示、母が注射をして事なきを得ました。

解説：園・学校職員や保護者だけではエピペン[®]注射時期の判断ができないことがあるかもしれません。そのような際は、事例のように救急車を要請し、救急救命士の意見を聞いてみるのもよいでしょう。

対策：エピペン[®]注射の手遅れのために重大事故となることが問題です。注射のタイミングを含めて、エピペン[®]注射のシミュレーション訓練をしてください。自分たちで判断できなければ、消防署への相談もやむをえません。事前に、エピペン[®]を携帯する児がいることを、保護者の同意を得たうえで、消防署と情報共有しておく、そのような際にスムーズにいくと期待されます。

事例 24 主治医の救急外来へ相談、医師の指導で母が注射…（鶏卵）

年齢・性別：10歳 女児

合併症：気管支喘息

既往：鶏卵でアナフィラキシー エピペン[®]携帯

原因：卵入り料理

症状：アナフィラキシー

経過：19時ころ、家で料理から卵を取り除いて食べさせたところ、喘鳴、嘔吐、全身発赤とじんま疹が出現したため、かかりつけの病院の救急外来へ電話。対応した救急担当医師が症状を聴取。医師はエピペン[®]を携帯していることと鶏卵によるアナフィラキシーの既往があることから、エピペン[®]注射とプレドニゾロンの内服を指示、さらに、すぐに病院を受診するように指導しました。来院時は軽度のじんま疹だけを残していました。

解説：本人・保護者では、エピペン[®]注射の判断がつきにくい場合は、主治医や救急病院へ電話で相談も1つの選択肢。医師はエピペン[®]を処方されている患者であれば、原因食品の摂取や症状から判断して注射すべきか指示を出すべき。注射後は必ず病院を受診するように勧める。エピペン[®]が処方されているということは、必要なときには注射すべきと主治医は判断したことを意味している。

事例 25 予期せぬ食品でアナフィラキシー、養護教諭が適切な判断でエピペン[®]を注射（カシューナッツ）

年齢・性別：7歳 男児

症状：アナフィラキシー

経過：小学校の給食でカシューナッツ入りのメニューがでました。食べた後に、呼吸苦、喘鳴、嘔吐、顔の腫脹、全身にじんま疹がでました。本患児は牛乳によるアナフィラキシー歴があり、エピペン[®]を携帯していました。養護教諭だけではなく保護者もカシューナッツでもアナフィラキシーが発症するとは予想していませんでした。しかし、養護教諭は症状からアナフィラキシーと判断しエピペン[®]を注射し病院へ搬送しました。

解説：トレーニングを受けた養護教諭が、エピペン[®]を注射すべき症状を判断できた一例です。

対策：園・学校はアナフィラキシーを起こさないための対策は重要ですが、起きてしまったときの対応も適切にできるように、食物アレルギー緊急対応のシミュレーション訓練を定期的

に行うことが大切です。

事例 26 給食で小麦入り料理を食べて縄跳びをしたらアナフィラキシー、本人がエピペン® (小麦)
年齢・性別：9歳 女児

既往：小麦で経口免疫療法を行い、維持療法まで到達しており、日常の小麦製品摂取および摂取後の運動でも無症状でした。給食で小麦を使用した料理を食べて40分後に縄跳びを始めたところ、激しい咳と呼吸苦、顔面から頸部にかけてじんま疹が出現しました。本人の判断でエピペン®を患児自身が注射。さらに、プレドニゾロン、抗ヒスタミン薬を内服。ただちに救急車で病院に搬送されましたが症状は軽症ですみました。

解説：エピペン®は注射するタイミングが難しい。本症例で「平生からトレーナーで練習していた。母からも、迷ったら注射だよと言われていた。」は、注射できるようなるヒントがあります。経口免疫療法は維持療法に到達しても運動時や体調によってはアレルギー症状が出現することがあります。急性症状出現時の対処ができるように、エピペン®や内服薬の携帯が必要です。

対策：平素からのトレーナーを用いた練習が、いざという時に役立ちます。

6. 除去食と誤食予防

事例 27 病院の医師に少しずつ解除しようといわれ、ヤクルトを飲ませたところ… (牛乳)

年齢・性別：1歳3ヵ月 男児

原因：ヤクルト

症状：全身じんま疹、呼吸困難、喘鳴、顔全体が腫れる、ぐったり、意識朦朧

経過：4ヵ月の時、ミルクアレルギーの疑いがあり、完全母乳にしました。1才2ヵ月の時、離乳食の進め方を病院で相談しました。血液検査を見ながら少しずつアレルゲンを含んだ食品も始めるよう指導されました。午前中に「ヤクルトなどを少しずつ飲ませてください。」と言われたため、昼食の時ヤクルトを少し飲ませてみたら、アナフィラキシーショックとなり、入院になりました。

解説：血液検査で牛乳特異的IgEが低値でも陽性の場合は、生まれて初めて食べる時の症状の有無や症状の程度を予測することはできません。安全性を考慮して、食物経口負荷試験（病院で少しずつ食べて症状の有無を確認する検査）を行うという方法もあります。

対策：特異的IgEが陽性の食品を生れて初めて食べる場合は、食物アレルギーに詳しい医師と相談しましょう。食物経口負荷試験を検討することもよいでしょう。

1) 母乳を介する食物アレルギーの治療で気をつけることは

事例 28 母乳栄養はアレルギーを起こさないって聞いていたのに… (鶏卵)

年齢・性別：3ヵ月 男児

原因：母乳中の卵アレルゲン

症状：アトピー性皮膚炎

経過：生後すぐより顔面に湿疹、2ヵ月のときアトピー性皮膚炎と診断され、スキンケアとステロイド外用薬で治療していました。母乳栄養にアレルギーはないといわれて食事制限せずに母乳栄養を続けていましたが、湿疹は徐々に悪化してきたため、アレルギー専門医で血液検査を行いました。卵白が原因アレルゲンとわかり、母親が卵製品の摂取を制限したところ、アトピー性皮膚炎が軽快していきました。

解説：乳児のアトピー性皮膚炎には食物アレルギーが関与しているものがあります。このような事例の場合、母親の食事から鶏卵とその加工品を除去して乳児の症状が改善するのを見る

除去試験と、母親に5～7日間毎日卵1個くらい食べてもらい、授乳後の乳児の症状の変化を観察する、いわゆる経母乳食物負荷試験で、母乳中に分泌されるアレルゲンが原因となっているかどうかを調べる必要があります。この症例では母親の母乳中のアレルゲンが疑われました。母親に対して卵の除去を行い症状が軽快し、その後、経母乳負荷試験によって症状が再燃したため診断が確定しました。

対策：母乳栄養児の中には、この症例のように母親への食物除去により症状が改善する場合があります。母親への制限食が必要な場合でも、その期間は短期間でよいことが多いので主治医やアレルギー専門医に相談してください。

2) 牛乳アレルギーには、アレルギー用ミルクを使用してください

事例 29 粉ミルクを自宅で飲ませたら… (牛乳)

年齢・性別：10ヵ月 男児

原因：乳糖のみを除いたミルク

症状：喘鳴、じんま疹

経過：アトピー性皮膚炎があり、卵、牛乳アレルギーと診断されました。10ヵ月まで母乳で育ててきましたが、母乳を中止して、ミルクに変更してみようと思いミルクを買ってきました。乳糖のみを除いたミルクを初めて自宅で飲ませたところ、喘鳴、顔の浮腫、じんま疹がみられ救急車で病院へ行き、入院となりました。

解説：乳糖のみを除いたミルクには牛乳成分が含まれています。

対策：ミルクアレルギーには、アレルギー用ミルクを使用してください（表2）。牛乳アレルゲン除去調製粉乳にはカルニチンがほとんど含まれていないため、適切な時期に離乳食を開始しないとカルニチン欠乏症を発症するおそれがある。

3) 治る年齢には個人差があります

事例 30 「1歳半頃になると食べられるようになる。」と言われて… (牛乳)

年齢・性別：2歳 男児

原因：脱脂粉乳入りのマーガリン

症状：喘鳴、顔のむくみ

経過：ミルクアレルギーがあり、ミルク除去をしていましたが、それまでかかっていた主治医には、「1歳半頃になると食べられるようになることが多い」と言われていたため、自宅で脱脂粉乳入りのマーガリンを使ったスコーンを食べさせてみました。ひと口食べさせて、20分後に喘鳴、顔のむくみがみられたため、直ぐ病院を受診しました。

解説：食物アレルギーが治る時期には、個人差があります。にもかかわらず、以前に言われたことを覚えていて、自己判断から自宅で食べさせたため症状が出てしまいました。

対策：食物アレルギーは年齢とともに治ることが多いのですが、治る時期には個人差があります。除去を解除する時には自己判断せず、必ず主治医やアレルギー専門医と相談してください。

7. 経口免疫療法

1) 食べて治す治療を自分の判断だけで行うことは危険です

事例 31 食べて治す本を読んで… (鶏卵)

年齢・性別：11歳 男児

原因：鶏卵を含む食品

症状：少量ずつ摂取することにより食物アレルギーが治るという本を読んで、少しずつ食べていますが、症状の出る時と出ない時があります。症状の程度もさまざまです。

解説：少量ずつ食べるといっても、症状が惹起される量は患者さんで異なります。この患者さんでは、アレルギー症状が出ており、大変危険です。アナフィラキシーのような死に至るような重篤な症状が発症するおそれもあります。自分たちの判断で耐性をつける治療（経口免疫療法）を行わないでください。

対策：食品ということで気安さがありますが、食物アレルギーの患者さんにとってはアレルギー症状を引き起こすおそれがあり、危険な食品といえます。食べて耐性をつける治療を経口免疫療法といますが、この治療では、一定量の原因食品を毎日あるいは一定の間隔で食べ、増量していきます。つまり、薬と同じで、多過ぎれば、副反応のリスクがあり、少な過ぎれば効果は不十分です。経口免疫療法を実施している医療機関は増えています。この治療に熟練した医師の指導のもとで行ってください。

事例 32 食べて治す治療を自宅で進めていたら…（鶏卵）

年齢・性別：8歳 女児

原因：加熱の不十分な卵

症状：口腔違和感、腹痛、全身じんま疹

経過：卵アレルギーでしたが加熱した鶏卵は問題なく食べられるようになりました。少しずつ慣れさせてみよう、自宅で加熱の条件を変えて温泉卵からどんどん生に近い状態にして与えていました。今回、加熱が少なかったようで、食べているときから舌がピリピリし、のどに違和感、腹痛が現れました。2時間後、全身に蚊に刺されたような発赤が出ました。経口ステロイド薬、抗ヒスタミン薬を服用し40分後におさまりました。

解説：加熱などの調理条件でアレルギー症状の出方は変わります。また本人の体調も症状の出やすさに影響します。

対策：食べて治す治療（経口免疫療法あるいは経口減感作療法）を行う場合、自宅での原因食品の増量や調理条件を変えることは危険です。進め方については食物アレルギーに精通した医師に相談して行ってください。

事例 33 自宅でちょっと食べてみるのは、ちょっと…（鶏卵）

年齢・性別：1歳 男児

症状：じんま疹、嘔吐

経過：アトピー性皮膚炎があり、血液検査の結果に従って卵の除去食対応を行っていましたが、「自宅で少しずつ摂取してみると良い」というかかりつけ医の指導で、ゆで卵を1/8個食べさせました。摂取後2時間して、嘔吐とじんま疹が出現し、びっくりしました。

解説：徐々に摂取をしていくと食べられるようになることが多いことは事実ですが、アレルギーが誘発される危険と隣り合わせです。特に、初回摂取量は慎重に決定する必要があります。

対策：自宅で安易に摂取を開始するのではなく、食物負荷試験のできる医療機関で、安全摂取量を決めなければなりません。

2) 経口免疫療法にひそむひやりはっ

事例 34 経口免疫療法中に加工食品を食べてじんま疹が出現（牛乳）

年齢・性別：15歳 女子

症状：じんま疹

経過：牛乳アレルギーがあり、医師の指導のもと、牛乳で経口免疫療法を行っていました。牛乳が10mlまで増量できたので、少しくらいの乳製品は安全と考え、乳を含有するクッキー

を食べさせたところじんま疹が出現しました。

解説：経口免疫療法の増量期は耐性量ぎりぎりまで食べています。経口免疫療法に使う食品を含む加工食品を食べると、安全量を超えてしまい、アレルギー症状が出る場合があります。

対策：経口免疫療法の増量期は、免疫療法以外にその原因アレルゲンを含む食品を食べてはいけません。

事例 35 食べた後のプロレスごっこで大変なことに… (小麦)

年齢・性別：10歳 男児

症状：アナフィラキシー

経過：うどんで経口免疫療法を行っていました。今はうどん1週間1回100gの維持療法までできしており、これまで何の症状も出ずに油断していました。昨日、うどんを摂取した後、弟とプロレスごっこをしている最中から、じんま疹が全身に出現し、ゼーゼーいって息が苦しくなり、あわてて病院へ連れていきました。

解説：経口免疫療法の維持療法が安全にできていても、摂取後の運動、入浴や胃腸かぜ、生理、痛み止めの内服などが重なるとアレルギー症状が出てしまう場合があります。

対策：経口免疫療法のために原因食品を食べた後、1時間は運動や入浴を控えてください。胃腸かぜ、生理中、痛み止めを内服したときは出やすいので、1段階、摂取量を減らすことが必要です。

事例 36 毎日食べていないと耐性が… (鶏卵)

年齢・性別：7歳 男児

症状：局所のじんま疹

経過：加熱鶏卵による経口免疫療法を実施していました。10gまで増量したところで、旅行のために7日間中断しました。帰ってから中断前と同じ量を食べたらじんま疹が出ました。

解説：経口免疫療法は中断すると、それまでについた耐性が低下することがよくみられます。

2-3日以上中断した時は1段階量を減らしてください。それでもアレルギー症状が出現することがあります。緊急時薬の準備を忘れないようにしてください。経口免疫療法で摂取する食品は薬だと思って、医師の指導に従って規則正しく忘れないように摂取してください。食べたり中止したりすると、耐性がつきにくいだけでなく、アレルギー症状が突然出ることがあります。

対策：規則正しく免疫療法用の食品を食べること（アドヒアランス）が、耐性獲得をスムーズに進める事だけではなく、副反応を減らすことになります。

事例 37 外出する時には、緊急時薬を忘れずに (牛乳)

年齢・性別：8歳 男児

症状：全身のじんま疹と咳・喘鳴

経過：牛乳による経口免疫療法の増量の途中です。祖父母宅へ遊びに行き、いつもの牛乳を12ml飲んで入浴したところ、全身にじんま疹と、咳・喘鳴が出現しました。その日は、エピペン[®]や内服の緊急時薬を家へ忘れてきたため、救急車で救急病院を受診しました。

解説：経口免疫療法は原因食品を摂取することによって耐性を獲得することを目標に行う治療です。その患者さんにとっては原因食品を増量していくわけですから、リスクが高い治療と言えます。どこへ行くときにも緊急時薬（エピペン[®]、内服ステロイド薬、抗ヒスタミン薬）の携帯を忘れないことを肝に銘じてください。また、救急病院も必要な時にはすぐ行くことができるように、事前に決めておいてください。

対策：経口負荷試験免疫療法の安全確保のために、緊急時薬はいつも携帯してください。

8. 誤食を防ぐための教育（自己管理能力を身につける）

年齢が大きくなったら自己管理能力を身につけさせましょう

事例 38 「食べられない」ということを言えなかったために…（鶏卵）

年齢・性別：6歳 男児

原因：卵を使用したケーキ

症状：じんま疹

経過：卵アレルギーがあり、母親の許可のないケーキは食べていけないと言われていたが、親戚の家へ1人で出かけ、誕生日のプレゼントをもらうだけの予定がサプライズに出された卵を使用したケーキを断り切れずに食べてしまい、全身にじんま疹が出て、救急外来を受診することになりました。本人も食べていけないと分かっていたのですが、「食べられない」ということを親戚の人に言い出せませんでした。

解説：食物が出ない予定だったので、母親も親戚の人には食物アレルギーのことは話してありませんでした。親戚の予期せぬ好意で、このような事例がおきてしまうこともあります。

対策：自己管理が十分にできない幼児では、1人で行動する場合、必ず児を取り巻く大人には食物アレルギーのことを知っておいてもらってください。また、食物アレルギー情報を記載したサインプレートを携帯させましょう。

9. 調理法とアレルギー性

事例 39 たこ焼きを食べたら、卵の加熱が…（鶏卵）

年齢・性別：3歳 女児

原因：たこ焼き

症状：じんま疹

経過：卵アレルギーですが、加熱してあれば食べられるようになっていたので、たこ焼きを食べさせたところ、じんま疹が出てしまいました。

解説：加熱の程度により卵のアレルギー性は変化します。当然、非加熱の方がアレルギー性が高く、少量でも症状が出やすくなります。この事例の場合、中身までしっかり加熱されていない状態だったと思います。

対策：外食する場合は、加熱の程度が自宅と違うので注意が必要です。

事例 40 ゆで卵の卵黄の取り出し時間で症状がでるなんて（卵）

年齢・性別：9ヵ月 女児

原因：卵黄

症状：顔面のじんま疹、眼瞼の腫れ、数回の軽い咳

経過：卵のアレルギーがありましたが、医師の指示の下で卵黄を少しずつ食べる練習をしていました。ゆで卵をゆでて15分後、卵白から分離した卵黄をあげました。食べてから15分後、顔面のじんま疹と眼瞼の腫れと咳が出現したので、かかりつけ医を受診して吸入と点滴を行ったところ、症状は改善しました。後日、ゆでてすぐに卵黄を取り出して食べさせたら症状はでませんでした。

解説：卵アレルギーであっても卵黄は食べられることが多いです。ゆで卵黄をつくる際に、ゆでてから時間が経過すると卵白の成分が卵黄にうつることがあります。

対策：微量な卵白で症状が出る子で卵黄を食べる際には、ゆで卵を作ったら早めに卵黄を分離しておきましょう。

アレルギー検査、IgE の低い食品の安全性が高いとは限りません

事例 41 自己判断で小麦を摂取したら（小麦）

年齢：性別：2 歳 男児

原因：小麦

症状：じんましん、咳嗽

経過：卵黄でアレルギーが出たのをきっかけに血液検査をして調べたところ、小麦にも反応していました。しかし、数値はそこまで高くなかったため、うどん 5g から始めてみようと医師の助言もあり試したところ、全身にじんましん、咳が出てしまいました。注射と吸入をしてもらうも蕁麻疹が再度出てきたため点滴となり、小麦はしばらく除去となりました。

解説：血液検査をしてアレルギー疑いとなった場合、慎重に対応する必要があります。

対策：血液検査で反応することがイコールアレルギーと診断することではありませんが、病院の中で摂取するか、自宅で摂取する際は十分に説明をうけてから摂取することが望ましいでしょう。

ごくわずかな量で症状を起こすこともあります

事例 42 乳糖が大丈夫とは限らない

年齢：性別：5 才 10 カ月 男児

原因：乳

症状：じんましん、咳嗽、腹痛

経過：牛乳アレルギーがあり、医師からは牛乳アレルギーで完全に除去と説明はされていたが、乳糖に関して指示はありませんでした。保育園でふりかけに混入している乳糖くらいはいだろうと母の判断で摂取させたところ、アナフィラキシーとなり病院へ搬送されました。

解説：牛乳アレルギーでも乳糖は大丈夫という一般的な情報を当てはめてしまいました。

対策：多くの場合、牛乳アレルギーでも乳糖摂取することはできますが、一部の牛乳アレルギーの方は、乳糖も摂取することができません。重症度に応じた対応が必要です。

10. 医薬品、医薬部外品、化粧品

1) 石鹸によっておこる食物アレルギーがあります

事例 43 お風呂の石鹸で…（牛乳）

年齢・性別：5 歳 男児

症状：全身の発赤

経過：祖父の家で父と一緒に入浴中、ボディークリームよりも普通の固形石鹸の方がいろいろなものが入っていないと安心して判断してしまっていて使用したところ、全身に発赤が広がりました。

解説：使用された石鹸は牛乳石鹸でした。

対策：牛乳石鹸など食物成分を原料とする製品にも気を配りましょう。自宅以外での宿泊時などが必要であれば、いつも使っている石鹸やシャンプーなどを持参することも考慮しましょう。医薬部外品の場合、一部の成分を除き、その原材料を表示する義務は企業には課せられていません。

事例 44 肌にやさしい石鹼と思って使用していたら… (小麦)

年齢・性別：25 歳 女性

原因：加水分解小麦を含む石鹼

症状：石鹼接触部位の紅斑、運動後のアナフィラキシー

経過：茶のしずく石鹼（加水分解小麦含有）を使用していたら、顔が赤くなったり口唇が腫れたりするようになりました。また、パスタやケーキを食べた後の買い物中にじんま疹が出るようになりました。先日はパスタを食べた後で、テニスをしたら全身にじんま疹が出現し、その後意識を失って倒れました。

解説：加水分解小麦を含む石鹼を使用すると、皮膚や粘膜などから石鹼に含まれる小麦タンパクが侵入してアレルギー細胞が反応してしまう（感作といいます）ために、同じ石鹼を使った時にアレルギー症状を起こしてしまったり、さらには小麦を使ったパンやうどんなどを食べるだけでアレルギー症状を起こしたり、食べた後運動することによりアナフィラキシー（小麦依存性運動誘発アナフィラキシー）を起こしたりすることもあります。現在は、茶のしずく石鹼は販売中止になっており、加水分解小麦を使用していない「悠香の石鹼」となっている。

対策：加水分解小麦を含む石鹼は小麦アレルギーの患者さんだけでなく、アトピー性皮膚炎の人は皮膚から感作を受けやすいので避けた方がよいでしょう。健康な人が使用する場合でも、石鹼中の加水分解小麦による接触じんま疹だけでなく、小麦摂食後のアレルギーや小麦摂取後の運動誘発アナフィラキシーを発症することが報告されています。注意が必要です。

2) 牛乳や卵アレルギーでは避けたほうがよい薬があります

事例 45 病院でもらった下痢止め（タンナルビン）だから安心と思ったのに… (牛乳)

年齢・性別：2 歳 男児

原因：タンナルビン（止痢剤）

症状：じんま疹

経過：下痢で病院にかかった際、食物アレルギー（牛乳）があると話したにもかかわらず、タンナルビンが処方されました。飲んだところ、全身のじんま疹が出現しました。

解説：医師、保護者ともタンナルビンの原材料が牛乳であることを知らなかったため、内服させてしまった。

対策：アレルギーを専門としない医師も、乳幼児のアレルゲンとして代表的な卵白、牛乳などを含む薬剤についての知識を備えることが必要です。

事例 46 お医者さんから処方された整腸剤で… (牛乳)

年齢・性別：4 歳 男児

原因：内服薬に含有されていた乳糖

症状：長引く下痢

経過：医師から処方されたクスリを飲み始めてから、下痢症状が長引いていました。内服薬の成分に乳糖が含有されていることが判明し、内服を中止したところ下痢症状はなくなりました。

解説：牛乳アレルギーの非常に強い患者では乳糖でも症状が起きることがあります。

対策：牛乳を原材料としているタンニン酸アルブミン（タンナルビン）以外に、整腸剤、経腸栄養剤、抗菌薬の一部にカゼインや乳糖などが使用されていることがあります。乳糖には微量の乳タン白が含まれています。極めて微量の摂取でも症状が出現する牛乳アレルギー患児では、乳糖添加の表示がされている薬物の使用について主治医とあらかじめ相談しておきましょう。

事例 47 アレルギーの治療薬のつもりが、ソル・メドロール 40mg の注射で… (牛乳)

年齢・性別：4 歳 男児

原因：ソル・メドロール 40mg

症状：喘鳴、全身のじんま疹

経過：乳製品のアレルギーと気管支喘息もあり加療されていました。喘息発作が認められるようになり、救急外来を受診、吸入とともにステロイド薬の静脈内投与を実施されました。しかし、投与開始後、全身のじんま疹が認められるようになり、喘鳴も強くなってきました。ソル・メドロール投与を中止、ボスミンの筋肉内投与、サクシゾン投与によって症状は改善しました。

解説：ソル・メドロール 40mg には乳糖が賦形されています。(ソル・メドロール 125mg、250mg、500mg には賦形されていない)

対策：一部薬剤には、乳糖が賦形されています。賦形される乳糖でも症状が出る患者が極少数ではあるがいます。

事例 48 鼻に軟膏をぬったら、全身が真っ赤に… (鶏卵)

年齢・性別：3 歳 女児

原因：リフラップ軟膏 (塩化リゾチーム)

症状：じんましん

経過：耳鼻科を受診し、軟膏処置を受けた 10 ～ 15 分後、会計を待っている間に全身にじんま疹と咳が出ました。院長に確認したところ軟膏には卵白由来の塩化リゾチームが入っていることがわかりました。

解説：病院にも卵アレルギーがあることを伝えてあったのもかかわらず起きてしまった事例であり、医師の知識不足かあるいは見逃したことが原因と思われます。医師は薬の添付文書を見なければいけません。

事例 49 目薬を差したら… (鶏卵)

年齢・性別：3 歳 11 か月 男児

原因：目薬

症状：瞼の腫脹

経過：卵アレルギーの人は注意と書いてあった目薬をさしてしまったところ、瞼が腫れ、白目がぶよぶよと腫れてきました。

解説：目薬の中に含まれていたリゾチーム塩酸塩が原因でした。リゾチーム塩酸塩は卵白から抽出したタンパク質であり、鶏卵アレルギー患者では注意が必要です。点眼薬の説明文書に、鶏卵アレルギー患者での使用は注意してくださいとの記載がありますが、まさか目薬に卵の成分が入っているとは思わなかったのでしょうか。リゾチームは市販薬に使用されている場合があります。総合感冒薬、咳の薬、トローチ、歯肉炎・歯槽膿漏の薬などに含まれている場合があるので、使用の際には確認するようにしましょう。

事例 50 歯科検診の歯磨きで… (乳)

年齢・性別：3歳 男児

原因：歯磨き粉

症状：口の周りの痒み、軽い咳

経過：3度目の歯科の定期検診を受けました。牛乳・卵アレルギーがあることは、初回受診時に伝えてありました。健診後に口周りを痒がり、軽い咳が出始めたので、すぐに抗アレルギー薬の内服をしたところ、症状は改善しました。歯科に確認をしたら、誤って乳の混じっている子供用の歯磨き粉を使用していました。

解説：受診時にアレルギーを伝えてあっても起こった事例です。歯科や歯科検診ではまだまだ食物アレルギーに関する対応が十分でない場合があります。

対策：普段使っている歯磨き粉を持参するのが最も安全ではあります。歯科医院や歯科検診では、可能であれば、乳の入った歯磨き粉は使用しないようにしましょう。もしくは、乳アレルギー用などと大きく書いたラベルを貼り、歯科衛生士、歯科医師はもちろん、保護者を含めて確認ができるようにしておくなどの工夫ができるとよいでしょう。また、アレルギー症状対応表等を活用し、緊急時にも備えましょう。

3) インフルエンザワクチン接種前に卵を食べさせて確認する必要はありません

事例 51 インフルエンザワクチンを受けたくて自宅で卵をちょっと試してみたら… (鶏卵)

年齢・性別：1歳 男児

原因：卵

症状：じんま疹

経過：病院から、卵アレルギーがあるとインフルエンザの予防接種をうけられないと聞き、安易に生卵を試してしまったところ、じんま疹が出ました。

解説：インフルエンザワクチンには卵成分が含まれています。しかし、その含有量は非常に微量です。卵アレルギーがあっても、多くの患者さんはインフルエンザワクチンを接種できます。

対策：卵アレルギーと診断されている場合、卵を食べられるかどうか食べてみることは自分ではしないでください。医師に相談して、必要ならば医師の監視下で経口負荷試験を行いましょう。卵アレルギーがある患者さんは、接種できるかどうか、医師に相談してください。

1 1. 皮膚への接触で発症

事例 52 衣服に付着した小麦粉で… (小麦)

年齢・性別：3歳1ヵ月 男児

原因：小麦粉

症状：湿疹の悪化と慢性的なかゆみ

経過：自宅で手打ちうどん屋を経営していました。お店で用いた布巾、タオルや衣服を家庭用の洗濯機で洗っていました。家庭内での衣服とお店のものと同時に洗濯機に入れることはありませんでした。祖父母の家に1週間ほど帰省した時、体中の赤みが消え、慢性的なかゆみが一気に改善したことを契機に、小麦粉が原因ではないかと考えました。帰宅後、新しい洗濯機を買い、洗濯物を分けたところ、湿疹の程度が軽くなりました。

解説：洗濯物から、洗濯機を介して衣服に付着した小麦粉が、湿疹の悪化要因になっていました。この事例のように、食物アレルギーが経皮的に症状を引き起こす場合もあります。

また、経皮的な感作によって、食物アレルギーが発症する可能性もあります。

対策：食品を扱う業務で用いた衣服は、家庭内での衣服とは別の洗濯機で洗いましょう。

1 2. 吸入で発症

事例 53 お菓子の食べカスが舞って… (小麦、牛乳)

年齢・性別：15 歳高校生 女子

症状：声が出ない、皮膚のかゆみ、意識朦朧

経過：学校の休憩時間にまわりの友人たちは、楽しく談笑してお菓子を食べていました。

始業の準備で一齐に机の上の食べカスや制服に落ちていた破片をはたきました。少しほこりを吸いこんだのか気分が悪くなりはじめました。本人はアレルギーがあるのでお菓子を食べてはいませんでした。しばらくしたら呼吸が苦しくなくなり、声も出せなくなりましたが、やっとの思いで気分が悪いと伝えました。先生は自分で保健室へいくよう指示、3 階の教室から歩いて保健室のある 1 階まで降りて行きました。

解説：アナフィラキシーで声が出せなくなるほどの緊急事態です。情報をうまく伝えられずかなりひやりとしました。階段を一人で降りていて転倒でもしたら、授業中のため誰かに気付かれず大変なことになっていたと思います。

対策：アナフィラキシーで声が出ない、あるいは意識消失のため、周囲の者に状況を伝えることができなくなるおそれがあります。エピペン[®]などの携帯薬を持つべきです。しかし、自分で対応できないこともあります。「----- でアナフィラキシーを起こします。」「エピペン[®]を携帯しています。」「病院へ連れて行ってください。」「保健室に連れて行ってください。」などを記載したサインプレート携帯してください。

1 3. アレルゲンの食品表示

1) 必ず毎回表示を確認しましょう

事例 54 ついうっかり原材料表示を見逃して… (鶏卵)

年齢・性別：3 歳 女児

症状：痒み、じんま疹

原因：きな粉餅

経過：同居しているお義母さんが、子どもに「きな粉餅」を買ってきてくれました。お義母さんも卵アレルギーのことは知っていたので、つい安心して、原材料表示を見ずに、子供に食べさせたところ、その直後から顔面に痒みとじんま疹が出現しました。

解説：いつもなら必ずアレルゲン表示を確認していたのに、お義母さんからもらったので、つい、確認しそびれてしまいました。原材料表示には卵と書いてありました。

対策：家族や親戚からもらったものの原材料表示を再確認することは、食物アレルギーのあるお子さんをお持ちの方なら、失礼なことではありません。周りの方へも、アレルギーのあることをはっきり伝えましょう。

事例 55 個包装の確認不足で… (鶏卵)

年齢・性別：5 歳 男児

症状：咳、口唇の腫れ

原因：個包装になっているスナック菓子

経過：祖母に息子を預けていました。祖母は、鶏卵アレルギーであることは知っていましたが、スナック菓子の個包装には記載がなかったため与えてしまいました。その後 30 分ほどして咳き込みと唇が腫れているのに気が付きました。個包装を包んである大袋のアレルギー物質食品表示には、卵白と書いてありました。

解説：祖母と親のアレルゲン表示確認と情報共有の不足です。

対策：食べる時に原材料がはっきり確認できないものは、与えないようにしましょう。お子さんを預ける際には与えてよいものを確認しておくといよいでしょう。食品衛生法では、容器包装の面積が30cm²以下の加工食品には表示省略が認められていました。しかし、平成27年4月から施行された食品表示法ではこの表示省略は認められていません。5年間は経過措置期間ですので、2020年3月31日までは旧基準による表示も認められており、注意が必要です。

食品表示法において、表示が義務付けられている7品目と、推奨されている20品目を表3に示します。表示の対象になるのは容器包装された加工食品や添加物です。対面販売や店頭での量り売り、店舗内で製造販売される食品や容器包装の面積が30cm²以下の加工食品、また飲食店の料理は表示義務の対象ではありません。

事例 56 本人が大丈夫と言っても…（鶏卵）

年齢・性別：6歳 男児

症状：じんま疹

経過：母が不在のとき、祖母に連れられてコンビニエンスストアに買い物に行き、本人が「食べたことがある」と言ったので、表示を確認せずに購入し食べさせていました。

解説：見た目はほとんど同じでも、アレルゲン物質の含有量に違いがある食品も少なくありません。また同じ商品でも販売地域による違いや、リニューアルにより含有成分が変わることもあります。

対策：毎回、アレルゲン表示の確認が必要です。本人にも、アレルゲン表示を確認するように指導すると共に、家族にも表示の確認を徹底するように理解してもらうようにしましょう。

事例 57 友人から頂いたお菓子で…（小麦）

年齢・性別：1歳 女児

症状：じんま疹

経過：子供のアレルギーをよく知っている友人が「小麦を使っていないよ。米粉だよ。」と言ってお菓子を頂きました。うっかりアレルゲン表示を確かめず、食べさせてじんま疹が出てしまいました。

解説：米粉メインのお菓子でも、小麦が少量含まれていました。

対策：きちんと原材料表示を確かめましょう。原材料表示は含有量が多い食材から記載されます。少量になると最後の方に記載されているので余計に注意が必要です。

事例 58 海外のお土産で…（クルミ）

年齢・性別：7歳 女児

症状：じんま疹

経過：アメリカのお土産の原材料が英語表記であったので、よく確認せずに食べたところ、アレルギー症状が誘発されました。

解説：くるみ科のナッツ（ペカン）が含まれていました。

対策：海外からの輸入品やお土産は原材料表示が分かりづらく、トラブルが起きやすくなります。まずはきちんと表示を確かめることが重要です。疑わしい時は食べさせず避けてください。

事例 59 味付き肉には気をつけて、牛タンにカゼインが使用（牛乳）

年齢・性別：7歳

原因：牛タン

症状：脇が腫れあがった

経過：親戚が集まって焼肉パーティーをすることになりました。娘の原因アレルゲンが乳である事は知っていましたが、牛タンにカゼインが含まれているとは思いませんでした。

解説：事故の後、包装用紙の原材料表示を確認したらカゼインが入っていることが分かりました。

対策：成型肉や味付け肉には軟化剤や結着剤としてカゼインナトリウムなどが使われていることがあるので表示をよく確認してください。

事例 60 表示の解釈は慎重に…（小麦）

原因・食品：魚肉ソーセージ（加工でんぷん）

症状：咳

経過：購入する際に原材料表示を確認したが「加工デンプン」に小麦を使っていることがあると知りませんでした。小麦のアレルギー表示が表示の最後にまとめてカッコ内に書かれていました。しょう油の表記もあり、小麦の表示はしょう油に含まれている物だと判断し、しょう油は普段は大丈夫なので食べさせてしまいました。デンプン＝カタクリ粉という思い込みがありました。

解説：特定原材料を含む添加物に表示義務はありますが、含まれる量はわかりません。

対策：表示の見方に慣れているつもりでしたが、添加物についても慎重に配慮しなければならなかった症例です。食べられる範囲でアレルゲンを含む加工品を楽しむ場合、加工品中のアレルゲンが含まれる量について情報を得ておくことが必要でした。

事例 61 見た目がいっしょでも気をつける（鶏卵）

年齢・性別：1歳 男児

原因：アンパンマンポテト

症状：鼻汁、咳、喘鳴

経過：自宅では、アンパンマンポテト（卵含有なし）を食べていました。友人宅で出されたアンパンマンポテトがスイートポテト味（卵含有）だったのです。箱から出されていて見た目が全く同じだったので食べさせてしまったところ咳と喘鳴が出ました。

解説：いつも見慣れている商品の姉妹製品で、箱から出されていたため区別はつかずに食べさせてしまいました。

対策：友人宅でも遠慮せず必ず表示を見せてもらいましょう。原材料がわからない食品は食べないことも大切です。

事例 62 いつものちくわで…（鶏卵）

年齢 性別：7歳2ヵ月 男児

症状：アナフィラキシー

経過：数年来、食べていたメーカーのちくわを食べたら、アナフィラキシーを起こしました。表示を確認したところ、商品の規格変更により、原材料に卵が新たに含まれていたことがわかりました。

解説：加工食品は規格変更を行われることがあり、原材料が変更されることがあります。また、地域によっては、規格が違う場合もあります。

対策：購入するときには、常に表示を見て確認することが重要です。

事例 63 クッキーのアイシングで…（鶏卵）

年齢・性別：4歳 女児

原因：クッキーのアイシング

症状：じんま疹

経過：母の日にクッキーにアイシングを使って絵を描くイベントに参加しました。アイシングが余ったので、子どもが一口食べたところ、じんま疹が出現しました。

解説：母が以前に教わったときには、粉砂糖と水のみでアイシングを作ったが、今回のものは生の卵白も含まれていたことが原因でした。一般的にはアイシングのレシピでは卵白を使用することが多いようです。

対策：初めて扱うもので食べる危険がある場合は、アレルゲン表示で現材料を確認することが大切です。

事例 64 カップラーメンで…（ピーナッツ）

年齢・性別：15歳 10か月 男児

原因：カップヌードル（カレー味）

症状：蕁麻疹、咳

経過：カップヌードルのノーマルタイプはピーナッツが使われていないため、カレー味も大丈夫だと本人が思い込んで食べてしまったところ、アレルギー症状が出現した。食品表示はきちんとされていました。

解説：同じ商品でも、種類が違えば、原材料は大きく変わることがあります。加えて、同じような商品でも、メーカーが異なればアレルゲンの含有量が大きく変わります。

対策：食べる時は毎回、食品表示の確認をしましょう。いとこ・おば・その家族・同居している祖父母にも知っていてももらうことも重要です。

2) できれば複数の人が表示を確認しましょう

事例 65 保育園でアレルゲンなしのおやつと言われて食べたところ…（牛乳）

年齢・性別：4歳 女児

原因：園でだされたおやつ

症状：嘔吐

経過：毎日、園で出されるおやつは、アレルゲンの有無を確認してもらえます。その日は、調理員さんが確認し、アレルゲンは入っていませんとのことだったので、食べたところ、嘔吐してしまいました。

解説：調理員さんがアレルゲンの表示を見落とし、さらに、担任の先生がお休みで、代理の先生にアレルギーの情報がしっかり伝わっていなかったために、牛乳を含む食材が混入したことが後からわかりました。

対策：原材料表示の確認は、できることなら2人以上で行うこと。また、担任の先生がいない場合でも、今回のような誤食が起らないように、日頃から、他の先生にも食物アレルギーのことをしっかり理解してもらうことが必要です（情報の共有）。

事例 66 いつも食べている桃を缶詰で食べたら… (牛乳)

年齢・性別：4歳 女児

原因：桃の缶詰

症状：じんま疹、皮膚の発赤、痒み。

経過：保育園のおやつが桃の缶詰でした。今まで果物の桃を食べても症状はなかったので、1切れ食べたところ、食べて30分後から、じんま疹や皮膚の発赤、痒みが出現し、そのまま入院となりました。

解説：果物だけなら大丈夫だったものが、缶詰で食べたら、アレルギー症状が出ました。これは、シロップに含まれていた乳成分が症状を引き起こしたと思われます。

対策：乳製品は表示しなければならない義務があります。必ず購入時に表示を確認しましょう。今回のように保育園のおやつの場合は、親が表示を確認することができません。シロップ漬けには乳が含まれる可能性を知っておき、保育園でも表示を必ず確認してもらうようお願いしましょう。

3) 食べ慣れた加工品でもリニューアルの可能性を知っておきましょう

事例 67 リニューアルの表示がなく、パッケージもそのまま (鶏卵)

年齢・性別：9歳 男児

原因：カップ焼きそば

症状：じんま疹（全身に広がる） 持続する強い咳こみ 喘鳴（ゼイゼイ、ヒューヒュー） くしゃみ 鼻水 眼のかゆみ

経過：以前から食べていて、体調がよく量さえ間違わなければ大丈夫なカップ焼きそばだった。食べて2時間後、突然激しい症状が出た。手持ちの抗アレルギー薬、ステロイド薬を内服し、改善した。どうやらリニューアルされていたらしいがその記載がパッケージにも全くなく以前のままだったので気づかず、表示を見ずに食べさせてしまった。

解説：原材料の変更があっても、パッケージに表示されていないことがあります。また製造する地域によっても異なる場合があります。

対策：食べ慣れている加工品でも、毎回表示を確認する習慣をつけるのが最も確実。

4) 製造ラインまで確認しましょう

事例 68 表示に娘のアレルゲンとなる物はなかったのに… (牛乳)

年齢・性別：6歳 女児

原因：牛乳の表示のないチョコレート（製造ラインでの混入）

症状：じんま疹

経過：チョコレートのアレルゲン表示に「牛乳」がなかったたので食べさせたところ、1時間後に顔にじんま疹が出ました。内服によって症状は改善しました。

表示の枠の中には娘のアレルゲンとなる食物はなかったが、欄外に「同じ製造ラインで牛乳を含む製品を生産しています」という表示がありました。

解説：食物アレルギーは微量なコンタミネーション（混入）でも反応が起きることがあります。

対策：同じ製造ラインを使用している場合、「本品製造工場では〇〇を含む製品を生産しています」などと欄外表示してあるのでよく確認してください。欄外表示は義務ではないため、必ずしもあてにはできませんが、含有量が微量とは限りません。欄外表示でも原因食品であれば避けた方が安全です。

5) レストランや店頭販売に表示義務はありません

事例 69 旅行先に名物のアイスクリーム屋さんがあつて… (鶏卵)

年齢・性別：7歳 女児

原因：アイスクリーム

症状：じんま疹

経過：表示がはっきりしないものは食べないようにしていたが、雰囲気でご我慢できなくなって名物のアイスクリームを少し食べさせてしまいました。卵の混入は少なかったのか、幸い軽い症状のみで大事には至りませんでした。もし強い症状が出ていたらせっかくの楽しい旅行が台無しになるところだったと反省しています。

解説：店頭販売の場合、表示義務はありません。

対策：気の緩みが大きな事故につながることはあります。旅先では医療機関もすぐに見つかりません。家族全員協力して表示のされていないものは食べさせないようにしましょう。

事例 70 パン屋さんのパンは安全と思ったのに… (牛乳)

年齢・性別：1歳 男児

原因：米粉のパン

症状：アナフィラキシーショック

経過：パン屋さんで米粉のパンを購入しました。卵と牛乳も除去中なので、店員さんに確認すると、「卵も牛乳も入っていません」とのことでした。翌朝、子どもの朝ご飯としてパンを食べさせたら、全身じんま疹に、呼吸困難が出現し、アナフィラキシーショックで入院しました。

解説：実はこのパンには、脱脂粉乳が使われていました。店員さんには脱脂粉乳が乳製品であるとの認識がありませんでした。今回のことは、パン屋の店員さんの知識不足が原因でした。

対策：基本的に店頭販売はアレルギーの表示義務がありません。店員は、原材料に関する知識が不正確なことが多いので、店員の言葉を鵜呑みにせず、責任者に聞いた方がよいでしょう。店側には、アレルギーの表示義務はありませんが、アレルギーの相談を受けた場合、原材料を正確に伝え、不明な時は「わかりません」と応えるべきです。

また、「アレルギー対応」と謳う場合は、製造中のコンタミネーションも含めた、厳密な管理が必要です。

6) 総菜やばら売り、試食品に表示義務はありません

事例 71 スーパーマーケット試食コーナーにて (鶏卵、牛乳)

年齢・性別：5歳 男児

原因：ソーセージ

症状：咳、腹痛、顔のむくみ

経過：親が目から離れたときに、スーパーの試食品を食べてしまいました。本人は黙っていましたが15分くらいして、咳と腹痛が出現し、顔が腫れてきました。おかしいと思い、本人に問い詰めたところソーセージを食べたと白状したので、すぐ手持ちの内服薬を飲ませ症状は落ち着きました。

解説：店頭販売の場合、表示義務はありません

対策：スーパーの試食品は大きい子であれば食べないように教えましょう。小さい子は試食コーナーのあるスーパーでは目を離さないようにしましょう。

事例 72 表面に卵を塗った「卵不使用」調理パンって… (鶏卵)

年齢・性別：5歳 男児

症状：じんま疹

経過：卵不使用と記載されていた調理パンをスーパーで購入し食べたところ、全身じんま疹が出ました。

解説：パン自体には卵は使用していなかったため、卵不使用と記載されていましたが、調理の際、表面に卵を塗ってありました。アレルギーの食品表示義務は包装加工食品に適用されるが、お惣菜などの店頭販売食品には表示義務はない。

対策：店頭で販売される食品には表示義務がないので注意が必要です。

事例 73 手作り食品には表示義務がないので… (くるみ)

年齢・性別：3歳女児

症状：じんま疹

経過：おやつに、お土産にもらった五平餅を食べたところ、咳が止まらなくなったので、病院に受診しました。

解説：くるみに対してアレルギーがあることはわかっていたが、五平餅にくるみを使うこともあることは知らなかった。

対策：手作りの食品には原材料の表示がない場合が多いため、注意が必要であり、問い合わせ先が明記されている時には、電話で内容を確認する。

7) 紛らわしい表示でもお子さんのアレルギーと関連のあるものは覚えるようにしましょう

事例 74 グルテン入りの「100%米粉パン」って… (小麦)

年齢・性別：3歳1ヵ月 男児

原因：米粉パン

症状：アナフィラキシー

経過：ショッピングモールの店頭販売で、「100%米粉パン」と銘打ったパンを購入しました。成分表示に小麦は入っていないことは確認して食べましたが、その帰りの車の中でアナフィラキシーを起こしました。

解説：「100%米粉」という表示にもかかわらず、グルテンが含まれていたことが分かりました。製造者はグルテンが小麦成分と認識していませんでした。「100%米粉パン」という表示だと、小麦アレルギー患者が選んで食べることを予想すべきです。

対策：製造側はアレルギー表示について十分に理解する必要があります。また、食物アレルギーに関する知識も必要です。小麦アレルギー患者さんやその家族は「米粉パン」にはグルテンが使われることがあることを知しましょう。

事例 75 牛肉は、加工されている場合があります (牛乳)

年齢・性別：4歳 男児

原因：加工肉

症状：じんま疹

経過：子供用に提供してもらった除去食には問題はなかったのですが、大人用の料理に「那須牛」があり大丈夫だと思って食べさせたら、これが「加工肉」であり、乳製品にアレルギーのある息子はじんま疹が出てしまいました。宿の炊くさんに確認したら「加工肉」だと言われました。

解説：加工肉には乳成分が含まれていることがあります。この加工肉は2013年に起きた表示偽装問題の際に注目を集めました。牛脂注入肉は、牛脂のみではなく、乳成分、小麦、大豆成分が使われることもあります。牛脂注入肉を「霜降りビーフステーキ」「さし入りビーフステーキ」と表示することは優良誤認に該当し景品表示法上の問題となります。消費者庁は牛脂注入肉を使用している場合は、そのことを明瞭に記載するよう求めています。

対策：牛肉には、加工が施してある場合があります、加工肉、成型肉、牛脂注入肉、インジェクション加工肉が使用されている場合、アレルゲン表示を確認する必要があります。

事例 76 乳糖は大丈夫だと思って…（乳）

年齢・性別：5歳5か月 男児

原因：手作りババロア

症状：アナフィラキシー

経過：スーパーのオリジナル商品であった手作りババロアの原材料表示に「乳糖」と表示がありました。乳糖は食べられていたので、購入し食べたところアナフィラキシーを起こしてしまいました。売り場に問い合わせてもわからなかったため、製造メーカーの工場へ問い合わせしたところ、「植物油脂」の油脂の中に「カゼインNa」が含まれているということが分かりました。

解説：同じアレルギー物質名が出てくる場合、二度目以降は省略してもよいことになっています。「乳糖」は「乳」の代替表記であり、そのあとに表示されている食物油脂の中に乳成分が含まれていても表示を省略してもよいことになっています。これまでの食品表示は、個別表示とするか、一括表示とするかは、事業者の判断に委ねられてきました。一括表示は、原材料名の欄にアレルゲンが含まれる時は、重複するので一括表示に表記しなくてもよいことになっていました。例）パン、マヨネーズ、乳化剤（原材料の一部に大豆を含む）：原材料名またはその代替表記（パン、マヨネーズ）にアレルゲンが含まれる時に、一括表示に小麦、卵を記載しなくてもよかったのです。平成27年4月から施行された食品表示法では、一括表示ではなく個別表示が原則となりました。今後の表示は、油脂（牛乳由来）と記載されるようになります。しかし平成32年3月31日までは経過措置期間（新表示への移行のための猶予期間）であり、旧法に従った一括表示の製品も混在しています。個別表示でも重複する場合には省略される場合があります。例）パン（小麦を含む）、マヨネーズ（卵・大豆を含む）、乳化剤は大豆由来だが重複で省略されています。表示面積に制約がある場合などでは一括表示が認められていますが、新表示では、原材料名欄の最後に（一部に卵・小麦を含む）と表示され、一括表示を見れば含まれるすべてのアレルゲンが確認できます。例）パン、マヨネーズ（一部に小麦・卵・大豆を含む）

1. 食品購入時

よく行き来する祖父母宅での問題点

事例 77 同じメーカーのジュースで…（牛乳）

年齢・性別：4歳 女児

経過：祖父母宅にて、いとこの小学生のお兄ちゃんと一緒に遊んでいる最中に、冷蔵庫からジュースを出して一緒に飲んで症状が出てしまいました。いつもと同じメーカーのジュースでしたが、りんごジュースではなくヨーグルト飲料でした。

解説：以前飲んだことのあるパッケージのジュースだったため、大丈夫と思ったとのことでした。

対策：似たようなパッケージやシリーズで、原材料品目が異なる加工品が販売されています。同じものでも改良で材料変更されていることもありえます。購入時に気をつけることは当然ですが、小さいお子さんでしたら必ず「大人に確認してから飲食すること」を教える必要があります。また、よく行く祖母宅であれば自宅同様に原因アレルゲンは置かないようにしてもらいましょう。

事例 78 自分では開けられないから、持たせていても大丈夫…（小麦）

年齢・性別：2歳 女児

原因：ミレービスケット

症状：アナフィラキシー（全身発赤、喘鳴、腹痛、意識もうろう）

経過：祖母、曾祖母と娘で雑貨店へ買い物に行きました。レジでお会計中に、店員が娘に小袋に入ったミレービスケットを好意でくれました。祖母は娘が自力で開けることはないだろうと思い、そのまま持たせておきました。しかし、会計の途中で娘は曾祖母のもとへ行き、袋を開けるよう頼んでいました。曾祖母はアレルギーのことを知らなかったため、小袋を開け、娘に食べさせてしまいました。気づいた祖母がすぐに止めましたが、数十分して全身が真っ赤になったため、自家用車で救急病院を受診しました。そのうちに咳込みが強くなり、腹痛も出てきて、ぼーっとしてきました。病院では注射と点滴、吸入を行い、入院となりました。

解説：「店員さんの好意を断るのは申し訳ない」と思い、その場では「食べちゃダメだよ」と言えませんでした。また、「自分では開けないだろう」と考えてしまったのも、今回の誤食の原因のひとつです。

対策：児の安全を守るために、たとえ好意であっても、重症なアレルギーがあることを伝え、断ることが必要です。また、誤食の可能性があるものは、本人には持たせない、などの対策は必要です。また、家族や親戚全体で児のアレルギーについて情報を共有しておくことが重要です。

2. 情報の共有不足

1) 見た目がそっくりな代替食に潜む問題点

事例 79 あまり上手に代替食を作りすぎたばかりに…（牛乳）

年齢・性別：6歳 女児

原因：牛乳入りアイスキャンディー

症状：全身のかゆみとじんま疹

経過：お友達とおやつと一緒に食べるときに備えて、見た目がそっくり同じものを牛乳除去して作って準備していました。しかし、母親が席をはずした時に、お友達のお母さんが区別つかなくて与えてしまいました。食べて15分ぐらいした時に全身のかゆみとじんま疹が出て間違えて与えたことに気づきました。すぐに手持ちの薬を飲ませて症状はおさまりました。

解説：お友達には牛乳入りの市販のアイスクャンディー、患児には母親の手作りの牛乳除去のアイスクャンディーを準備しておいたのですが、見た目がほとんど変わらないために、お友達の母親が患児に牛乳入りのアイスクャンディーを与えてしまいました。

対策：除去食を行っている場合も、できるだけ同じようにみえるものを与える工夫は大切と考えます。しかし、そのことをみんなで理解していないとこのような誤食につながります。食器を色違いにしたりして区別する工夫が必要です。

事例 80 まさかお代わりの時に間違うなんて… (牛乳、小麦)

年齢・性別：14歳 男子

原因：家族用のシチュー

症状：アナフィラキシー

経過：夕食のシチューで、自分でお代わりする際に、アレルゲンの入った家族用のシチューを患者自身が誤って食べたところ、じんま疹、咳、喘鳴。腹痛、嘔吐が出現し病院を救急で受診、点滴等の処置で症状は改善しました。エピペン[®]を所持していましたが、自宅で注射するタイミングがわからず、使用できませんでした。

解説：以前は、家族全員がアレルギー対応のシチューを食べていましたが、今回は患者の年齢も高く、見た目も味もまったく違うシチューをアレルギー用と家族用に別々のお鍋で作りましたが、患者本人が確認しませんでした。

対策：中学生でもあり、あれこれ言われるのが嫌だろうと、本人まかせが事故を招きました。アナフィラキシーまで起こしており、家族が患者と異なるものを一緒に食べる時は自宅といえども、はっきり区別できるような工夫が必要です。エピペン[®]を使用するタイミングは医師とよく相談しておく必要があります。

2) 留守中に面倒を見てくれる人には十分な情報を伝えましょう

事例 81 母親の留守中におじいちゃんが… (鶏卵、牛乳)

年齢・性別：1歳 女児

原因：卵と牛乳入りのビスケット

症状：嘔吐、じんま疹

経過：母親の留守中に、同居していない祖父が卵と牛乳入りのビスケットであることを知らずに与えてしまい、全身にじんま疹が出ました。祖父から連絡を受けたので、すぐ救急車で病院に連れて行ってもらいました。

解説：同居していない祖父は孫が牛乳アレルギーとは知っていましたが、除去の内容について詳しく聞いていなかったため、卵と牛乳入りのビスケットを与えてしまいました。

対策：除去食を行っている場合、患児をとりまく家族全員がその内容を知っていることが大切です。お母さんの留守中でも食べていけないものがわかるように、具体的に記載した表を目につくところに貼っておくのも良いでしょう。

事例 82 アレルギーと知っていたが、ほしがる孫に少しくらいと… (小麦)

年齢・性別：1歳 男児

原因：菓子パン

症状：顔面の発赤、じんま疹

経過：祖父に子供を預かってもらっていた時に、置いてあった菓子パンを見つけ欲しがりました。食物アレルギーがあるとの認識はあったのですが、かわいそうに思い、少しくらいなら大丈夫だろうと食べさせてしまったところ、顔にじんま疹が出てしまいました。

解説：原因食品でも少しくらいならよいだろうと、安易に与えてしまったことが原因です。

対策：家族内での理解を深めてもらい、聞き分けの難しい年齢の子の前にアレルゲン食品を置かないことも大切です。

3. 食品の整理整頓

アレルゲン食品や家族・兄弟などの食べ残しなど、そのままにしておくは大変です

事例 83 まさか触るとは… (牛乳)

年齢・性別：4歳 女児

原因：生クリーム

症状：目の周りの発赤と腫れ、体の痒み

経過：子供は別の部屋で遊んでいたのですが、保育園でもらった誕生日ケーキの入った箱をテーブルの上に置いたまま、台所で食事の支度をしていました。しばらくして、「おかあさん」と呼ぶ声がしたので行くと、ケーキの箱の中に手を入れて生クリームをなめていて、目の周りが赤く腫れて、全身を痒がっていました。

解説：箱に入っただけではいたが、子供の手の届くテーブルの上にあったケーキの生クリームをなめて症状が出ました。

対策：手の届くところには患児の原因アレルゲンを含む食品を置かない。また本人に食べてはダメなものとの自覚を促すことも必要です。

事例 84 お兄ちゃんのラムネを自分のと同じお菓子だと思って… (牛乳)

年齢・性別：2歳 男児

原因：ミルクカルシウム入りのラムネ

症状：顔面の発赤と咳

経過：一部のラムネは食べていたので、兄が食べているミルクカルシウム入りのラムネを見つけて食べてしまい、顔面の発赤と咳が出現しました。かかりつけの小児科に受診し、吸入と内服を行い症状は改善しました。

解説：兄の食べているラムネを、自分の食べているものと区別できずに食べて、症状が出てしまいました。

対策：アレルゲンとなるものは家に置かない、または手の届かない場所に置くなど、家族の協力も大切です。咳は、重篤なアレルギー症状のサインなので、病院を受診して適切な対応をしてもらう必要があります。

事例 85 お兄ちゃんがもらったチョコレートを知らない間に… (ピーナッツ)

年齢・性別：5歳 男児

原因：ピーナッツクリーム入りのチョコレート

症状：顔と体にじんま疹

経過：兄の学校のクリスマス会で配られたチョコレートを知らないうちに食べてしまい、顔と体にじんま疹が出ました。ラベルを調べたらピーナッツクリームが入ったチョコレートでした。

解説：見た目だけではピーナッツが含まれているかわからないチョコレートを食べて症状が出てしまいました。

対策：アレルギーの子どもがいる場合、兄弟がもらって帰ってきた食品は、すばやくアレルギー児の見えない場所に片づける必要があります。

事例 86 食べ残しには注意を！（牛乳）

年齢・性別：2歳 男児

症状：じんま疹、咳

経過：兄弟が飲んだ飲みかけのコップの牛乳を、お茶が入っていると思って飲んでしまい、じんま疹と咳が出ました。

解説：飲みかけのコップからの牛乳の誤食は報告が多く、兄弟に食物アレルギーがない家庭での報告が多いのが現状です。

対策：牛乳アレルギーは、数滴というごく少量でも症状が誘発されることがあり、原因アレルゲンは子どもの手の届かない場所に置く必要があります。

事例 87 食卓に残されたスプーンにカフェオーレが…（牛乳）

年齢・性別：4歳 男児

原因：スプーンについたカフェオーレ

症状：嘔吐、じんま疹

経過：朝食で父親がカフェオーレを飲むのに使用したスプーンを、食卓に置きっぱなしで会社に出かけてしまったことに気づきませんでした。子どもが食卓に残されたスプーンをなめてしまい、その後、急にぐったりし、多量に嘔吐し、全身にじんま疹が出たので病院に連れて行きました。

解説：スプーンに残ったわずかの牛乳がアレルギー症状をひき起こしました。ごく少量のアレルゲンでも患者によっては重篤な症状の原因となります。

対策：食物除去をしている場合、食物そのものはもちろんですが、調理に使用した器具や、食器まで注意が必要です。調理したらすぐに洗う、食器はただちに片付けるといったことで、このような誤食は回避できます。

事例 88 身近にアレルゲンは置かないこと！（牛乳）

年齢・性別：1歳 女児

原因：牛乳を浴びた

症状：アナフィラキシー

経過：兄の飲み残しの牛乳を取り上げたところ、患児がとびかかったため牛乳を頭から浴びてしまいました。過去に微量でアナフィラキシーをおこした既往があるため、誤食時の緊急時薬を飲ませ、直ちに病院を受診しました。病院を受診した時点で、アナフィラキシー症状が出現しましたが、迅速に処置がおこなわれ大事にいたることはありませんでした。

解説：低年齢の場合、予期せぬ行動をおこすことがあります。身近に、アレルギーの原因となるものを置かないように努めるしかありません。兄弟が飲んだり、食べたりする場合は、場所をきめて残したものはすみやかに片づけましょう。この事例では、アナフィラキシーの既往があることから、自宅で緊急時薬を内服して病院を受診したことが、大きな事故にならずに済んだ要因となっています。

事例 89 お兄ちゃんのたべこぼしに卵が…（鶏卵）

年齢・性別：1歳 女児

原因：卵焼きの食べこぼし

症状：アナフィラキシー

経過：10ヵ月ごろまで重症のアトピー性皮膚炎でしたが、スキンケア・軟膏塗布と卵の除去で皮膚炎はほぼ治っていました。卵料理はまったく食べないようにしていたのですが、4歳の兄の卵焼きの

食べこぼしを患児が口に入れてしまったようで、その直後に口唇から顔全体の発赤、腫脹および喘鳴、呼吸困難が出てきました。救急車を呼んで病院に連れて行きました。

解説：過敏症状の強いお子さんでは、ごく少量でも症状が誘発されることがあります。

対策：食物アレルギーの強いお子さんのいる家庭では、家庭内にアレルゲンとなる食品は置かないようにするのが一番ですが、置かざるを得ない時には、患児がアレルゲンに触れることがないように、十分に注意することが必要です。

事例 90 ゴミ箱のストローで…（牛乳）

年齢・性別：1歳 女児

原因：加工乳（ジョア）

症状：じんま疹（全身に広がる） 激しいかゆみ 持続する強い咳こみ 喘鳴（ゼイゼイ、ヒューヒュー）
声がかれる 1～2回の嘔吐

経過：完全除去中で、どれくらいの症状が出るかわからなかった。姉の飲み干した発酵乳の容器をゴミ箱に捨てておいたところ、本人が取り出してストロー部分をなめ、30分以内にアナフィラキシー症状をきたした。病院で注射、点滴、吸入をした。本人の行動が、思ったより発達していたのも盲点だった。

解説：摂取したことがない場合、検査の値だけで、どの程度のアレルギー症状が出るか正確に予想することは困難です。年齢が低く IgE 抗体値が高い場合などは、強いアレルギー症状を警戒する材料にはなります。

対策：幼児に届く範囲はどんどん広がっていくことを念頭に置き、子供には届かない、開けられない保管場所やゴミ捨て場所を工夫し、家族で徹底する。

4. 食事中の配慮の不足

事例 91 お兄ちゃんの食事に手をのばして…（イクラ）

年齢・性別：3歳 男児

原因：手巻き寿司（イクラ巻）

症状：全身のじんま疹

経過：夕食の手巻き寿司を兄弟2人だけで食べていたところ、患児がつい手を伸ばして兄のイクラ巻きを食べてしまいました。食べた直後から全身のじんま疹が出てきたため、すぐに手持ちの薬を飲ませました。

解説：小さなお兄さん、お姉さんにまで除去食を理解させることは難しいでしょう。しかし事例のように少量を口にただけでもアナフィラキシーとよばれる重篤な症状が起きることがあります。除去しているものを食卓に出す場合は細心の注意が必要です。

対策：原因食品の除去食が、家族みんなの心理的負担にならないよう、小さな兄弟にもわかりやすいように食物アレルギーについて話してあげてください。機会があれば除去食をしている兄弟の診察に付き添って、主治医の先生から話してもらうのも良いでしょう。

5. 極微量でも症状が出る子もいます

事例 92 ヨーグルトを食べたお姉ちゃんのクシャミが顔に飛んで…（牛乳）

年齢・性別：1歳 男児

原因：ヨーグルト

症状：顔面のかゆみと腫れ

経過：生後1ヵ月より牛乳除去を継続していました。おやつの時間に4歳のお姉さんがヨーグルトを食

べていて、患児の顔の前で大きなクシャミをしました。そのクシャミを浴びたとたん顔中を掻きむしりだし、まぶたはパンパンに腫れあがりました。すぐに流水で顔を洗い、水で絞ったタオルで冷やし、アレルギー症状が起きた時に服用するように指示されていた薬を飲ませたら症状は軽快しました。

解説：お姉ちゃんのくしゃみの中に含まれていたヨーグルトで症状が出ました。思わぬことで、アレルギーを浴びることがあります。クシャミのように避けられないこともあります。

対策：アレルギーを浴びてしまった時はまず、流水でしっかり洗い流してください。万一の場合に、主治医の先生からお薬を処方してもらうことも大切です。

事例 93 兄弟が食事中に食べながら熱っぽく話していたら…（魚）

年齢・性別：7歳 男児

原因：魚

症状：発赤、かゆみ、じんま疹、目の充血

経過：食卓の向かい側に座った兄が、魚を口に入れたまま話をしていたところ、急に目や顔が痒くなってきました。

解説：目に見えない程度のアレルギーでも、食物アレルギーが重症であれば、アレルギー反応が起こることがあります。

対策：アレルギーの強い子供さんがいる家庭ではその子にあわせた献立を考え、家族みんなで同じものを食べるようにするのがよいでしょう。どうしてもできない場合は、時間や場所をずらして食事をするようにし、魚料理を食べたあとは歯みがき、うがい、手洗いをしてから、アレルギーのある子供と接するようにしましょう。

事例 94 クッキーを食べたお兄ちゃんがそばにいたら妹に異変が起きました（小麦、そば）

年齢・性別：7歳 女児

原因：兄が食べたクッキー

症状：アナフィラキシー（顔の紅斑と喘息発作）

経過：兄がクッキーを食べ、その後、口も手も十分に洗ったにもかかわらず、一緒に遊んでいたら顔が赤くなり、喘息症状が出てきました。緊急常備薬を内服し、病院を受診し、点滴で症状は治まりました。

解説：クッキーを食べたあと、兄は手と口を洗ったにもかかわらず、症状が出てしまいました。衣類などにクッキーのかけらがついていたら可能性もあります。

対策：お子さんが強いアレルギーを持っている場合、家族にも協力してもらい、家庭内にアレルギーとなるものを置かないようにする必要があります。特に外出先や、お友達の家などでは注意が必要です。

事例 95 家族が手をよく洗わずに子供を抱いたらアレルギーが出ました（牛乳）

年齢・性別：7ヵ月 女児

原因：牛乳を飲んだあとの唾液か、手に残った牛乳

症状：発赤、じんま疹

経過：父親が牛乳を飲み、そのままうがい手洗いをせずに子供を抱いたところ、父親の手が触れた首の後ろにじんま疹が出ました。

解説：食物アレルギーが重症な場合、触れただけでもアレルギー症状が出てくることを知っておく。

対策：原因食品を食べたあとは、うがい手洗いをしてから、子供に接するようにする。

6. 食物アレルギーが関与する乳児アトピー性皮膚炎があります

初めて与える食品は注意が必要です

事例 96 はじめて与えたミルクで... (牛乳)

年齢・性別：3ヵ月 乳児

原因：粉ミルク

症状：全身のじんま疹

経過：アトピー性皮膚炎があり母乳栄養で育てていました。母が風邪薬を服用する間、母乳中止の指示が出たため、初めて粉ミルクを飲ませました。翌日からアトピー性皮膚炎の湿疹が悪化してきました。

解説：乳児期のアトピー性皮膚炎には食物アレルギー（卵・乳・小麦・大豆など）が関与する場合があります、今回は初めて飲ませた粉ミルクでアレルギー症状が出現しました。

対策：アトピー性皮膚炎の乳児では、食物アレルギーが関与する場合がありますので、初めて粉ミルクを与えるときには注意が必要です。

事例 97 友達の親子パーティーに参加したら、子供がおやつに手を出して…（鶏卵、牛乳、小麦）

年齢・性別：1歳 男児

症状：じんま疹

経過：パーティーに参加した子供に年齢幅があったため、小学生の子ども達用のビスケットに、食物アレルギーのある1歳の子が手を出してしまいました。30分ほどしてじんま疹に気づいたため、手持ちの内服薬を飲ませ、しばらくしたら落ち着きました。

解説：パーティーに参加する前に、参加者の年齢構成や、食事や軽食の内容などを確認していなかったため、今回のようなことが生じました。

対策：食物アレルギーを持つお子さんとパーティーや集会に参加する時には、あらかじめ、食べられるおやつや食事を持参しておくといいでしょう。また、パーティーの主催者や参加する人に、食物アレルギーのことをきちんと伝えておくことも重要です。

事例 98 お友達の家で提供された食事だったので、断れず、少しぐらいなら大丈夫と思い…（牛乳）

年齢・性別：13歳 女児

症状：アナフィラキシー

経過：お友達のうちで、スティックチーズがおやつに出されました。食べてはいけないことはわかっていたのですが、少しならいいと思い、食べてしまいました。食べた直後から唇が腫れ、息苦しくなり、喘息発作が出ました。自宅で安静にしていたら、2時間ぐらいで症状は治まりました。

解説：年長児の場合、遠慮もあり、お友達の家で出されたものを食べられないとは言えず、つい食べてしまうということがあります。

対策：子供が自分では言いにくいこともあるので、あらかじめ親が先方に連絡をしておく方が良いでしょう。食べてしまった時、すぐに対応できるように、緊急時薬を携帯することも忘れないように。

1. 食物アレルギーに関する知識の不足による事例

食物アレルギーのことを知らないスタッフが起こした事例

事例 99 園でおやつのおかわりを間違えて配膳（鶏卵）

年齢・性別：3歳 女児

原因：園でだされた卵入りクッキー

症状：じんま疹

経過：4月の慣れないバタバタしている時期に、卵アレルギーの園児がおやつのおかわりをしたところ、先生が間違えて食べていけない卵入りのおやつをあげてしまい、食べたところ、じんま疹が出ました。

解説：先生は新任初日で、仕事に慣れていませんでした。そのため、食物アレルギーに十分注意を払わず、あげてしまったそうです。また、おかわりということで、注意がおろそかになっていた可能性もあります。

対策：先生が保育に慣れていない場合、特に食事の時間は、先生を増やし、食物アレルギーの園児に注意を払う必要があります。また、新任の先生にも、事前に食物アレルギーの知識をつけてもらうことが大事です。

事例 100 カルピスは牛乳からつくるの？（牛乳）

年齢・性別：5歳 女児

原因：乳酸菌飲料（カルピス）

症状：じんま疹

経過：園の先生がおやつ時に乳酸菌飲料（カルピス）を飲ませてしまいじんま疹が出ました。

解説：先生はカルピスが牛乳から出来ていることを知りませんでした。

対策：食物アレルギーの患児がいる園では、食べさせる食品の原材料は事前に調べておくべきです。

事例 101 味のもとが事故のもと…（牛乳）

年齢・性別：9歳 男児

原因：乳製品を使用した中華だし

症状：未摂取のため無症状

経過：その日わかめスープの味が今回使用する中華だしだと薄いと調理士が自ら判断し、いただいている原材料表でない乳製品入りの中華だしで味をつけてしまいました。栄養士が給食の前に気づいて校長に連絡し、配膳することもなく食べずに済みました。

解説：その調理士さん達は今までアレルギーの強い子を受けたことがなく、過去にも味見をして自己判断で原材料の変更をしていたようでした。校長が事態を把握し、今後は原材料の変更が生じないように徹底して指導することとなりました。

対策：調理師へ食物アレルギーに関する学習会を開催。連携を取り合って変更が必要な場合は、他職種と相談しましょう。

事例 102 えっ！ それが原因だったの？（牛乳）

年齢・性別：5歳 女児

原因：牛乳石鹸

症状：手洗いの後の手の発赤

経過：園で手洗いの後、手首から指にかけて時々赤くなるがありました。原因は分からないまま同

じ症状を繰り返していましたが、ある日、母が園に問い合わせると「石けんは各家庭から持ち寄ってもらい、皆で使っている。銘柄の指定はしていない」と言われました。確認すると、牛乳石けんも含まれていました。共用の石けんを使わなくなると、手が赤くなる症状は出なくなりました。

解説：当初、誰もまさか石けんが原因でアレルギー症状が出るとは思っていなかったため、同じ症状を繰り返していました。保育士は、食物アレルギーのお子さんが原因食品を食べる以外に、アレルギーとの接触や吸入によっても症状が出るおそれがある事を知っておく必要があります。

対策：園で共用の石けんを家庭から持ち寄ってもらう際は、食品成分が含まれていないものにしましょう。

2. 情報の共有不足による事例

1) スタッフ間での情報共有が不十分であった事例

事例 103 間違っで渡されたアメとパンケーキ、先生どうして？（鶏卵、牛乳、小麦）

年齢・性別：5歳 女児

原因：フルーツアメ（牛乳入り）・卵と牛乳を除去したパンケーキ（小麦）

症状：全身のじんま疹と喘鳴

経過：食物アレルギーについて担任の先生には話してあったのですが、担任の不在中に、牛乳入りのフルーツアメや、小麦で作られた卵と牛乳を除去したパンケーキが配られたりしたことがありました。アメの場合は軽いじんま疹で、すぐ主治医と電話で相談をして、抗ヒスタミン薬内服のみで落ち着きましたが、パンケーキの場合はじんま疹に加えて喘鳴まで出現し、救急車で病院へ搬送され入院となりました。

解説：担任の先生以外の保育園スタッフが、この児の原因食物をきちんと把握していなかったため生じました。

対策：スタッフ全員が、患者の情報を共有することが大切です。できれば数ヵ月に一度スタッフ（園長・担任・給食責任者）と養育者で情報交換をする機会があると良いです。主治医から食物除去の指示書を記載してもらい、症状が出た時の対処方法を文書で園に伝えることも重要です。

事例 104 延長保育の時間におやつを食べて（鶏卵）

年齢・性別：1歳 男児

原因：卵を使用したプリン

症状：じんま疹

経過：延長保育の時間におやつが出ました。担任の先生は食物アレルギーについて理解していましたが、そのときは別の先生が担当していました。担任でない先生は児の卵アレルギーのことを聞いておらず、卵を使用したプリンをおやつで与えてしまい、食べた直後から児に全身にじんま疹が出現しました。

解説：掲示板には食物アレルギー児の情報が記載されていましたが、直接担当の先生に伝達はなく、掲示板の確認を怠ったため、原因アレルギー入りのおやつを渡してしまいました。

対策：食物アレルギーのことを掲示板に記載するだけでなく、直接しっかり伝達すること、また、配膳トレーに原因アレルギーを記載したカードを載せることも配膳の間違いを防ぎます。食物アレルギー児のエプロンに、アレルギー情報を大きく記載するのも良い方法と考えられます。

2) スタッフと家族との情報共有が不十分であった事例

事例 105 託児所は、万全のアレルギー対応と思っていたら…（鶏卵、牛乳、そば、ピーナッツ）

年齢・性別：2歳 女児

アレルギー：卵・牛乳・そば・ピーナッツ

原因：他人のお弁当

症状：じんま疹、咳、喘鳴

経過：母親が子育てのセミナーに出席するため、主催者側が用意した託児所に預けたとき、他人のお弁当に入っていた卵焼きを食べてアレルギー症状を起こしました。じんま疹、咳、喘鳴まで生じ、救急病院で点滴治療となりました。

解説：託児所のルールとしては、「具なしおにぎり、お茶のみ」であったのにもかかわらず、ルールを守らない出席者がいたために起こったと考えられます。

対策：託児所に食物アレルギーの子どもを預ける時は、主催者側に伝えておく必要があります。「具なしおにぎり、お茶のみ」ルールのみで、食物アレルギー対応であると判断はできません。託児所のルールを守らない人もいますので、誤食事故が起きないように、主催者側もしっかり目を配る必要があります。

事例 106 先生が「残さないように」と言ったため…（キウイフルーツ）

年齢・性別：10 歳 男児

原因：給食にでたキウイフルーツ

症状：全身じんま疹、咳、喘鳴

経過：本人はキウイフルーツを食べて、喘鳴が出たことがあるため、医師からも食べないように指示されていました。しかし、先生から給食に出されたものは残さないようにと言われたため、無理に食べたところ、全身じんま疹と咳、喘鳴が出現しました。学校から救急外来へ搬送され、抗ヒスタミン薬の内服、気管支拡張剤の吸入、ステロイドの点滴注射などをして落ち着きました。

解説：保護者からの食物除去依頼書の提出も医師からの指示書もなく、学校からの聞き取りもなかったことにより、事故が起きました。

対策：専門医による正しい食物アレルギーの診断が下った場合は、医師の指示書とともに、給食対応の依頼書を提出するのが、良いでしょう。学校では、担任の先生、養護の先生、栄養士さんとの話し合いの場をつくってもらうようにしてください。医師からの園・学校生活管理指導表（食物アレルギー）も有用です。

3) 給食センターと施設間の情報交換が不足すると

事例 107 給食で使っている業務用豆板醤のメーカーが変更になって（ピーナッツ）

年齢・性別：11 歳 男児

原因：調味料（豆板醤）

症状：じんま疹

経過：いつもの業務用豆板醤が、メーカーの製造中止になり、急に別の物に変更となり、回鍋肉に使用されました。生徒が口に入れて、痛みを先生に訴えたため、学校側からの給食センターへの問い合わせの結果、ピーナッツオイルが使用されていることがわかりました。

解説：いつも給食で使っている業務用豆板醤のメーカーが変更になってその変更先のメーカーのものにピーナッツオイルが入っていたため誤食事故を起こした症例です。

対策：給食で使用する食品メーカーが変わる際には、少量しか使わない調味料ひとつにしても必ず連絡がもらえるように学校の先生に事前にお問い合わせしておきましょう。学校側も、アレルギー物質表示を確認して、保護者に連絡することが重要です。

事例 108 行事食では給食業者が変わることがある（卵）

年齢・性別：9才4カ月 男子

原因：クロワッサン

症状：アナフィラキシー

経過：学校給食で卵は完全除去にしており、クロワッサンも卵抜きのもので提供されていました。しかし、その日は校外学習だったため、通常とは異なり「行事食」となっており、給食を提供する業者が変わっていました。しかし学校からは一切知らされなかったため、卵入りのクロワッサンが提供されて食べてしまいました。食べて30分しないうちに、皮疹と目の充血、呼吸困難と強い腹痛が出現したため救急車で病院へ搬送され入院となりました。

解説：給食を提供する業者が変わることを知らせていなかったために、いつも食べるクロワッサンを卵抜きと誤って食べてしまいました。

対策：学校から行事食に変更した場合など、給食業者が変わる場合は事前にアレルギー児の保護者へ伝達しましょう。

3. 食事（給食・おやつ）献立や食事中におきた事例

1) 献立の確認は複数の人で行ったほうがよい

事例 109 お母さんが「オムレツ」を見落としちゃった！（鶏卵）

年齢・性別：7歳 女児

原因：学校給食のオムレツ

症状：じんま疹、皮膚のかゆみ、口唇・口腔の違和感

経過：学給食のオムレツを1口食べてしまいました。5分以内に、じんま疹、皮膚のかゆみ、口唇、口腔のピリピリ感があり、本人がすぐに吐きだして、口の中を洗ったため、大事には至りませんでした。

解説：卵アレルギーがあるため、給食のメニューで卵料理が出る場合は、母親が代替食を持参することになっていましたが、母親がメニューを見落とし、代替食品を持たせなかったため、本人は配膳されたまま食べてしまいました。担任の先生も、この児の食物アレルギーに対して理解が不十分で、給食内容も母親まかせで、注意を払っていませんでした。

対策：誤食事故を防ぐには、二重、三重のチェックが必要です。給食対応は母親まかせではなく、学校全体で食物アレルギー児を把握し、注意しなければなりません。

事例 110 園と学校のマヨネーズは違うの？（鶏卵）

年齢・性別：5歳・男児

原因：マヨネーズ

症状：じんま疹

経過：卵除去であることは園に知らせてあった。給食の時、たまたま担任の先生が「マヨネーズは家で食べているの？」と聞いたところ、本人が「家では食べている。」と答えたので、先生は卵入りマヨネーズをサラダにかけて食べさせた。数分後に顔からじんま疹が出現した。

解説：本人は家では卵の入っていないマヨネーズを食べていた。

対策：最近卵アレルギー児が家で卵の使用していないマヨネーズを食べているケースがあり、子供にマヨネーズの摂取状況を確認すると、このような誤食を生じる危険性があり注意が必要である。必ず家族に確認をするか、確認できない場合、園では危ないと思ったら食べさせない方がいい。

事例 111 給食で出されたキムチでじんま疹が… (ゴマ)

年齢・性別：9歳 女児

原因：キムチ

症状：じんま疹

経過：給食で出されたキムチを食べたところじんま疹が出ました。献立表にはゴマの表示は無く、除去指定ですが配膳されていました。後で確認したところゴマが入っていることが判明しました。

解説：ゴマ除去と伝えてありましたが、献立の原材料にゴマの表示がなかったので家族は気がつきませんでした。

対策：ゴマはアレルギー食品表示の対象ではありませんが、ゴマアレルギー症例が増えてきています。ゴマアレルギーであることを伝え、献立表の原材料にゴマも記載してもらうようにしましょう。(2014年からゴマもカシューナッツと一緒にアレルギー表示の特定原材料に準じる食品(表示推奨)に指定されました。)

事例 112 食材がよくわからない料理だったのだけど… (ゴマ)

年齢・性別：1歳 女児

原因：豆腐チャンプルー

症状：じんま疹、目のかゆみ、眼球充血、喘鳴

経過：月初めに、献立表をもらい、除去をしてもらう料理をチェックし、提出していました。食材の中には、ゴマ油を使用しているか、使用していないかわからなかったため、除去をチェックせずに提出してしまいました。残念なことにゴマ油が混入しており食べた直後よりじんま疹、目のかゆみ、眼球結膜充血、喘鳴まで生じてしまい病院を受診しました。

解説：わからない食材の部分をしつかりと確かめなかったために誤食してしまいました。

対策：献立表をチェックして、アレルギーかどうか、わからない食材が使用されている場合は栄養士さん、調理師さんに必ず確かめるようにしてください。原因アレルギーが入っているかどうかわからない料理は原則として除去の方が安全です。

2) 給食の献立に関する事故：メニュー誤りや事前チェック誤り

事例 113 栄養教諭が原因アレルギーを含むメニュー(料理)にマークするのを忘れたために(牛乳)

年齢・性別：7歳 男児

既往：微量の牛乳でアナフィラキシー

原因：牛乳を含む米粉パン

経過：メニュー(料理)ごとではなく、メニュー(料理)全体をまとめて原材料を記載した献立表を使う学校です。栄養教諭が、原因アレルギーを含む料理があると、サインペンでマークをつけて、保護者に伝える方式でした。牛乳を含む米粉パンでしたが、栄養教諭がチェックを忘れてしまいました。患児はそのパンを食べたためアナフィラキシーとなり救急車で病院へ運ばれました。

解説：2つ問題があります。

- ① 栄養教諭が原因アレルギーである牛乳が含まれるメニュー(料理)である米粉パンにマークを忘れたこと。しかし、栄養教諭も人なので、ヒューマンエラーが起きうると考え、起きても、二重のチェックができる献立表とチェック体制を作るべき。
- ② メニュー(料理)全体の原材料をまとめて記載した献立表だと、マーク忘れがあると担任や保護者がみても、米粉パンに牛乳が含まれているかわからない。

対策：メニュー(料理)ごとに原材料を記載する。

そうすれば、誰がみても原因アレルギーがどのメニュー(料理)に入っているか、判断できる。

このような献立表であれば、園・学校側（栄養教諭、保育士、担任）、保護者によって、二重・三重のチェックができる。また、栄養教諭がマークすることを間違えても、保育士・担任や保護者が気づく。

事例 114 兄弟で弁当箱の取り違い（卵）

年齢・性別：3才10カ月 男児

原因：卵

症状：全身に数ヶ所の蕁麻疹、軽い咳

経過：普段は卵、牛乳アレルギーのある弟だけ弁当を持たせていました。その日は園の行事で兄弟2人とも弁当を持参することになっていました。アレルギーのない兄の弁当のみ卵焼きを入れました。時間がなく、似たような弁当箱だったので、用意の途中で弁当が入れ替わっていることに気が付きませんでした。食事の時、卵焼きを口にする姿を園の先生がみていましたが、まさか母親が間違えているとも思わず食べさせてしまい、アレルギー症状が出てしまいました。

解説：弁当箱はよくあるキャラクターもので、絵が仮面ライダーかトイストーリーかの違いで、区別がつきにくかったようです。

対策：弁当箱の色や大きさを変えたり、名前をふたと容器に書いておいたりして間違えないようにしましょう。また二人ともお弁当の時は、二人ともアレルギー除去の食材を使用するようにしましょう。

3) 食事中的観察

事例 115 友達からおやつをもらってしまって…（牛乳）

年齢・性別：3歳 男児

原因：牛乳入りのアメ

症状：じんま疹

経過：園が主催のサマーキャンプの帰りのバスの中で、おやつタイムとなり、たまたま隣の席の友達が、持参していたおやつ（牛乳入りのアメ）を牛乳アレルギーの友達にあげてしまい、食べたアレルギー児はじんま疹が出現しました。

対策：食物アレルギーを理解できない年齢では起こりやすい事故です。おやつタイムの間も、園児の観察が大切です。

事例 116 目印のラップがはがされていたので…（牛乳）

年齢・性別：2歳 男児

原因：牛乳

経過：牛乳と小麦アレルギーのために、代替食として豆乳を飲んでいました。しかし、隣に座っていた子の牛乳を飲ませてしまいました。

解説：給食の飲み物を入れるコップには園児の名前を記入し、さらに、アレルギーの園児のコップにはラップをつけて、区別するようにしていました。たまたま、他の子と同じ絵のついたコップだった上に、ラップがはがれていたために間違えてしまいました。

対策：本事例は名前を確認すれば起きなかった事例です。名前だけではなく、絵や色が違っておれば、気づいたかもしれません。ラップなどはずれるおそれのあるものだけの目印は避けましょう。

事例 117 園でおかわりのシチューを食べて…（牛乳）

年齢・性別：3歳 女児

原因：おかわりのシチュー

症状：じんま疹、嘔吐、腹痛

経過：園では牛乳除去食となっていました。牛乳除去のシチューを食べた後、おかわりをしました。そのとき、誤って牛乳除去でないシチューをおかわりで食べさせてしまいました。食べ終えた直後に腹痛を訴え、嘔吐し、全身にじんま疹が出ました。母親と連絡をとり、主治医の病院に搬送し、ステロイドの点滴注射等の処置で症状は軽快しましたが、大事をとってその日は入院することになりました。

解説：牛乳入りも、牛乳除去のシチューも見た目はまったく区別がつかないため、除去食は色の違うお皿とスプーンが使用されていましたが、おかわり用は、お皿の色は除去されていないものと同じ色で、スプーンのみ、色を変えてあったそうです。そのため、除去されていないシチューが間違っ

て与えられてしまいました。

対策：普通食と除去食とを誰がみても区別できるように、除去した原因アレルゲンを明記したカードをつけるべきです。色をかえたり、スプーンの形を違えたりするだけでは、区別のルールを知らないスタッフには判断できません。配膳する時は、指差し呼称で確認することも大切です。

事例 118 目を離した隙に（牛乳）

年齢・性別：3才1カ月 男児

原因：牛乳

症状：全身に数ヶ所の蕁麻疹

経過：もともと牛乳アレルギーがあり、除去をしていました。園ではアレルギーを有する子供はトレイ・机を別にし、担任が横に座って食べるようにしていました。しかし、担任が目を離した隙に席を立ち、友達のコップの牛乳を摂取してしまいました。30分しないうちに全身に数ヶ所の蕁麻疹が出たので、抗ヒスタミン薬を内服したところ、症状は治まりました。

解説：小さい子供は他の子が摂取しているものに興味を示すため注意が必要です。

対策：園児に応じて机の距離を離したり、食事中は目が離れないよう、複数の先生での協力体制を整えておく必要があります。

事例 119 お弁当箱の取り違い（鶏卵）

年齢・性別：4歳8か月 女児

原因：卵

症状：なし

経過：卵アレルギーがあるため、本人が食べられない給食の日には、代替で弁当を持参させていました。その日も代わりの弁当を持たせましたが、配膳の時に他のアレルギーの子が持ってきた弁当と取り違えられて食べてしまいました。同じアレルゲンの除去弁当であったため症状は特に出ませんでした。お弁当の袋には名前を書いていたが、弁当箱そのものには名前は書いてありませんでした。

対策：弁当を一度保育士さんなどに預ける場合は、袋だけでなく弁当箱やランチバンドに名前を書くなどの取り違い対策が必要です。

4) 献立表作成のポイント

事例 120 献立表の付箋が外れていたために…（牛乳）

年齢・性別：12歳 女児

症状：アナフィラキシーショック

経過：学校給食で出たカレーライスを食べた後、全身じんま疹と喘鳴を伴う呼吸困難、意識朦朧状態となり、救急車で病院に搬送されました。栄養教諭は患児が牛乳アレルギーであり、アナフィラキシー

を起こしたことがあるとの情報を持っていました。そして、当日のカレーライスに脱脂粉乳が含まれていることを献立表に付箋をつけて患児の保護者に配布しました。しかし、患児の母親は、付箋が外れていたためか、そのことに気づきませんでした。また、それ以前に出ていたカレーライスには脱脂粉乳は含まれておらず、普通に食べていたことも気が付かなかった要因でした。

解説：家族と学校側にはアレルギーの情報があってもかかわらず、乳の除去ができなかったことが、今回の事例を引き起こした原因です。付箋でのお知らせは、この事例のようにはがれてしまうこともあり注意が必要です。

対策：献立表は、園・学校側職員（栄養士、調理師、保育士、教諭）と保護者とで、同じ献立表を二重チェックできるようにすべきです。その際、見やすい献立表となるよう工夫してください。付箋でのマークは、はずれるおそれがあるのでやめるべきです。

4. 給食以外の学習活動の事例

給食やおやつの時間以外でも食物アレルギーが起こります

事例 121 シャッキリが止まらなかったで友達が麦茶をくれました、そしたら…（大麦）

年齢・性別：3歳 男児

原因：麦茶

症状：じんま疹

経過：園で遊んでいるとき、シャッキリがとまらず困っていました。そのとき、一緒に遊んでいた友達が、親切に、自分の持っている麦茶をくれました。麦茶を飲んだところ、全身にじんま疹が出ました。

解説：自由遊び中で、先生が目が行き届かないときに起こりました。また、食事の時間ではなく、遊びの時間だったため、先生も誤食の危険を予測していなかったと思われます。麦茶は大麦アレルギーがあっても多くの患児は飲むことができますが、大麦アレルギーの強い患児はアレルギーを引き起こすことがあります。

対策：園のスタッフ全員が食物アレルギーのことを把握し、食事の時間以外も、目を配ると同時に、他の園児にも食べられないものがあることを知ってもらい、飲み物や食べ物の交換をしないように説明することが大事です。

事例 122 お泊まり保育でのアレルギー代替食で（牛乳）

年齢・性別：5歳 男児

原因：お泊まり保育中のレストランでの代替食

経過：お泊り保育に行きました。幼稚園の園長先生と食事で打合せを行い、夕食は除去食の予定でしたが、宿泊先のレストランが配慮して出した代替食を食べたところじんま疹が出現しました。母親から症状出現時に飲ませるように渡されていた抗ヒスタミン薬で症状は軽快しました。

解説：宿泊先のレストラン側としては、牛乳の加工食品ではアレルギーは起きないものと考えていたため、せっかくの配慮が事故となってしまいました。安易な代替食は、提供される側もする側も慎むべきです。

対策：代替食の場合は、事前にメニューの確認と打ち合わせを行いましょう。

事例 123 家庭科の調理実習で（鶏卵、牛乳、小麦、バナナ、ココア）

年齢・性別：12歳 男児

原因：マフィン

症状：のどの痛み

経過：家庭科の調理実習でマフィンを作りました。卵、牛乳、小麦、バナナ、ココアを使用し、オーブ

ンで焼きました。きれいな焼き色になり、先生の指示のもと、取り出し、食べたところ、30分後にのどが痛くなりました。

解説：今まで食べて症状がなかったので、特に注意を払っていませんでした。今回、加熱が十分にされていなかったため、症状が出現した可能性があります。

対策：十分に加熱した食品を食べて異常がない場合でも、今回の事例のように加熱が不十分だったりすると症状が出る場合があります。また、調理中に（調理中に使った原材料の後片づけが不十分であれば調理後に）原因食品の吸入や接触によってもアレルギー症状を起こすこともあります。

1. 利用する側の事前の確認不足

注文する前にアレルギーが入っているか確認しましょう

事例 124 レストランの外食で、鴨の肉だからよいと思ったら…（鶏卵、牛乳）

年齢・性別：1 歳 男児

原因：合鴨のロースのソテー

症状：顔面の腫れと結膜の浮腫

経過：お父さんが注文した合鴨のロースのソテーを子供が欲しがったので、鴨肉だから大丈夫だと思って 1 切れだけあげました。すると、なめただけですぐに泣き出し、数分で顔が大きく腫れ上がり、目の白いところが「どろっ」として「ぶよぶよ」になってしまいました。すぐに手持ちの抗ヒスタミン薬を飲ませ、病院も受診しことなきを得ました。

解説：合鴨のロースのソテーのソースに卵とバターが使用してありました。

対策：レストランでは料理に使用している材料の表示義務はありません。注文の際に、必ず原因アレルギーの使用や混入がないか、確認しましょう。もちろん、同じテーブルの人全員の料理も確認が必要です。

事例 125 こじゃれたお寿司屋さんで（鶏卵）

年齢・性別：9 歳 女児

原因：イカの塩焼き

症状：口唇の痛みと腫れ、のどの違和感、じんま疹

経過：地方に家族で旅行にいき、イカの塩焼きを頼みました。ところが、食べた直後から唇の痛みや、のどのおかしな感じ（違和感）が生じましたが、せっかく旅行なので食べ続けました。しばらくすると、唇が腫れあがり、全身にじんま疹が出ました。お母さんが、アレルギー症状に気づき、旅行用にもっていたアレルギーの薬を服用し、しばらくして落ち着きました。

解説：実は、照りを出すためにイカの表面に塗った卵白が原因でした。旅行でもあり、いつもより気をつけていたのですが、初めて入ったお店でもあり、原因アレルギーの使用について聞くのをつい遠慮してしまいました。

対策：お寿司屋さんでも、思わぬアレルギーが混入します。卵焼きはチェーン店の場合はセントラル加工で工場生産されていますから、パッケージに表示がありますので、表示の確認をお願いできるかもしれませんが。店頭で実際に焼く場合は、ふんわりさせるために牛乳やバターや生クリームが入っていることもあります。また、調理する器具の洗浄も不十分な場合アレルギーの混入もありえます。鉄板焼では、洗浄は閉店間際しかしないと考えたほうがよいと思います。和食だから安心とはいいいきれません。お店によっては、職人かたぎで、お願いや細かい確認がたくさんあると、不機嫌になる大将もいるかもしれませんが、食物アレルギーのための除去食品をはっきり言った方が、お互いに気分よく食事をすることができるかもしれません。

事例 126 旅行先の豆腐とは？（ピーナッツ）

年齢・性別：4 歳 男児

原因：ジーマミ豆腐

症状：じんま疹 咳 喘鳴

経過：沖縄旅行の夕食で、ジーマミ豆腐を食べました。初めて食べる食感で、四角い形は同じであり、大豆でできたものと思い、大丈夫と思い食べさせました。食べた直後から全身が真赤になり、咳だけではなく喘鳴が出現し、ホテルの人に救急車を呼んでもらい救急病院へと搬送されました。アドレナリンの筋肉注射とステロイドの点滴で症状は軽快しましたが、経過観察で、翌日の朝まで 1 泊入院となりました。

解説：ジーマミ豆腐は大豆ではなくピーナッツでできたものとは知らなかったために起きました。エビペン[®]など緊急時の薬を携帯しており、迅速に対処しておれば、もっと軽症で済んだかもしれません。

対策：土地の名産品を食べることは旅行の楽しみのひとつですが、アレルギー症状を起こすことも想定し、事前に近くにある医療機関の確認や、保険証も忘れずに持って行きましょう。地方の方言は聞き取りにくいこともあり、包装されていない食品はとくに原材料の確認が難しいため注意が必要です。他にも、豆腐の形をしています、「ゴマ豆腐」という名前の（練りゴマを牛乳と葛で固めた）商品でアナフィラキシーを起こした患者もいます。豆腐の形をしていると、大豆と考えますが、思わぬ重篤な症状が出る場合があります。注意が必要です。

事例 127 そばを扱っているうどん屋さんで、うどんを注文したけれど（そば）

年齢・性別：4歳 男児

原因：きつねうどん

症状：嘔吐

経過：そばアレルギーはあったのですが、お店のメニューにはアレルギーの成分の表示がしてあったので、安心してうどん屋さんに入りました。メニューには、調理場での混入に関して記載がないので、十分注意がされていると思いました。注文したきつねうどんを食べて10分ぐらいしてから、口元をかゆがりだし、咳、鼻汁も出て、嘔吐しました。嘔吐してすこし落ち着いてから手持ちのステロイドの内服をして病院に向かいました。

解説：うどん屋さんですが、そばも取り扱っていました。うどんもそばも同じ釜でゆでていました。

そのためきつねうどんにそばの成分が混入したのが原因です。

対策：ソバアレルギーの場合は、ゆで汁を介しての、微量の混入でも重篤な症状を引き起こすことがあります。そばアレルギーの患者さんはそばも扱ううどん屋さんには入らない方が無難です。

事例 128 中華料理はピーナッツにご用心

年齢・性別：13歳 女児。

アレルゲン：ピーナッツ

原因食物：坦々麺

症状：皮膚発赤（軽度）、喘鳴、腹痛（中等度）

経過：母が調理した市販の坦々麺を食べて上記症状が出現した。

解説：成分表には小さい字ながら明記されており、そもそもピーナッツが含まれているわけがないという思い込みから成分表を確認しなかったために起こった。

対策：当然購入の際に成分表を確認するが、調理前にも再度確認する。中華料理にはピーナッツが使用されていることが少なくないことを認識する。

事例 129 チェーン店って共通メニューではないの？（鶏卵）

年齢・性別：4歳 女児

症状：アナフィラキシー

経過：アレルギー児を持つ友人にファミリーA店のハンバーグ（お子様）はアレルギー対応で食べられたと聞き行きました。友人の言葉をうのみにして、店員に確認せず、そのまま注文し食べさせ、店を出たところでアナフィラキシーが発症しました。アナフィラキシー症状になったので、お子様ハンバーグにアレルゲンが入っているか聞くと、「入っている」との返答でした。「アレルギー対応の商品」を聞くと「当店はハンバーグではなく、カレーがアレルギー対応です。」とのことでした。店舗によって違ったのです。

対策：原材料は季節ごとに変更されることがあります。店舗により限定商品もあります。今までよかったという経験が、つい確認忘れをすることに繋がります。また、他のチェーン店でも大丈夫でも毎回どの店でも確認をすることが大切です。普通のレストランではアレルギー食品の混入は起きうると思うべきです。シェフが調理台のふきんで皿のソースを拭くことや、包丁を洗わずふきんで拭うだけで次の調理にとりかかる場合もあります。

事例 130 まさかコーヒーフレッシュの蓋に穴があくとは（牛乳）

年齢・性別：2歳 男児

原因：コーヒーフレッシュ

症状：咳き込み、意識朦朧、口唇チアノーゼ

経過：乳アレルギーがあったが、ファミリーレストランでコーヒーフレッシュを持ち楽しそうに遊んでいるので気にしていませんでした。帰りに「ジュース美味しい」という息子をみたら、コーヒーフレッシュに穴があいていて飲んでしまいました。すぐに咳き込み、意識朦朧で口唇も青白く、救急病院に連れていき、注射と吸入で改善しました。

解説：アレルギー食品は包装されたものであっても予想外に穴があく可能性があります。フレッシュは脱脂粉乳を使用していることが多く、少量でも乳タンパク量は多いので注意が必要です。

対策：アレルギー食品では遊ばないようにしましょう。

2. 食事を提供する側（ホテル・レストラン）の問題

1) スタッフの食物アレルギーに関する知識不足

事例 131 フライドポテトに小麦粉が…（小麦）

年齢・性別：3歳 男児

原因：フライドポテトのころも

症状：じんま疹と咳

経過：息子が『ハンバーガーのお店』で、ジュースとフライドポテトを食べたいと言いました。店員さんに、口頭でフライドポテトの原材料を確認したところ、「じゃがいも、塩、油のみ」とのことだったので、食べさせたところ、すぐに咳き込み始め、じんま疹が口周囲から全身にひろがりました。抗ヒスタミン薬をのませて、2時間ほどで治まりました。後日お店に確認したところ、実は、小麦粉がまぶしてあったとのことでした。

解説：ポテトに振りかけてあった、小麦による症状の誘発です。

対策：お店によって、調理品にいろいろ、手を加えている場合があります。各々お店で、アレルギーの原因となるものが、原材料以外にも使用していないか確認する。混入していないことが確実にできれば食べないことです。

事例 132 レストランで、頼んだものは…（牛乳）

年齢・性別：3歳 女児

原因：牛乳

症状：じんま疹、咳、鼻水

経過：牛乳アレルギーはあったのですが、レストランのメニューにはアレルギーの成分の表示がしてあったので、安心してお店に入りました。メニューの表示だけでは心配で、店員さんにも確認して『入っていないですよ』とのことでお子様カレーライスを頼みました。ところが、食べて10分ぐらいたってから、口元をかゆがりだし、鼻水と咳も出てきました。もしかしてアレルギーと思い、手持ちの抗アレルギー剤を内服させて症状は軽快しました。

解説：カレーのルーに脱脂粉乳が入っていました。しかし、調理の工程では牛乳は入れていないのでメニューには牛乳の表示はありませんでした。

対策：アレルギーの成分の表示義務は個別に包装された加工食品にはありますが、レストランや店頭販売の食品には、表示義務はありません。お店のサービスも向上してきており、親切心から表示している場合もありますが、個別の材料までしっかり吟味することは難しいかもしれません。微量でもアレルギー症状を起こす患者は、調理の行程での混入する微量のアレルゲンにも注意が必要です。調理のプロたちは、包丁などはフキンで少し拭いただけで、次の作業に素早く移ることもしばしばです。レストランなどではアレルゲンの混入がおこりやすいと考えてください。アレルギー症状が出た時に適切に対応できるように、緊急時薬を携帯することが必要です。

事例 133 牛乳アレルギー用ミルクのはずなのに… (牛乳)

年齢・性別：3歳 女児

原因：クリームシチュー

症状：じんま疹、口唇の浮腫、咳

経過：レストランで「牛乳アレルギー用ミルク」を使用したクリームシチューと表示されていたため注文しました。ところが、食べた直後にじんま疹と口唇の浮腫、咳が出てしまいました。薬を飲んで、すぐ主治医を受診して、点滴等の処置で症状は軽快しました。

解説：レストランが『ペプチドミルク』を牛乳アレルギー用ミルクと勘違いしていました。

対策：レストランなどの外食産業は、アレルギー対応を銘打つならば、食物アレルギーに対する十分な知識をもつことが必要です。アレルギー対応マニュアルを作成してください。メニュー作成にあたっては、アレルギー専門医と相談するのも良いでしょう。

事例 134 卵を切った包丁で、フルーツをカットした??? (鶏卵)

年齢・性別：4歳 男児

原因：調理場での卵の混入

症状：じんま疹と咳、喘鳴、呼吸困難

経過：友人の家族と、ファミリーレストランへランチに行きました。友人が卵入りのミックスサンドを注文しました。息子は、卵アレルギーがあるため、カットしたフルーツを頼みました。息子はカットされたリンゴを食べた直後から、咳が出て、じんま疹が急に全身にひろがり、急いでかかりつけ医を受診し、点滴などの処置で落ち着きました。

解説：サンドイッチ用の卵を切った、同じ包丁を洗っただけで、フルーツをカットしたために起きた事例です。

対策：極少量の摂取でも、症状が出るような食物アレルギー児の場合、調理器具による混入まで配慮した店で食事をしなければなりません。微量混入まで配慮してくれるお店をみつけましょう。アナフィラキシーのような重篤なアレルギー症状を経験したことのある症例は、いつでもどこでもアレルギー症状に対処できるように、エピペン®を処方してもらい（保険適応が認められました）、所持すべきです。

事例 135 十割蕎麦でも… (小麦)

年齢・性別：5歳 男児

原因：ざるそば

症状：全身蕁麻疹、発赤と激しいかゆみ、くしゃみ鼻水

経過：店の方に子どもが小麦アレルギーだと伝えたところ、十割蕎麦を特別に打ってくださいました。しかし、食べたところ、1時間ほどしてアレルギー症状が起こってしまいました。蕎麦にアレルギーはありません。おそらく作る過程で、小麦が粉塵として、あるいは、調理器具などに付着していた

などの理由で微量の混入があったと考えられます。ご厚意でくださったお店の方にもどのように伝えて良いかわからずアレルギーが出たと言えませんでした。

解説：蕎麦打ちは小麦を使って行う作業であるので、それが十割蕎麦だとしても、蕎麦打ちの台や道具などに小麦がかなり混入する可能性は想定しておいたほうがよいと考えられます。

対策：小麦が少量でも症状が出るのが事前にわかっている場合は、小麦を使用している蕎麦屋での外食は控えた方が無難でしょう。

事例 136 ハンバーグソースに… (小麦)

年齢・性別：9歳 女児

原因：ハンバーグ

症状：じんま疹、咳

経過：外食で、注文する時に小麦が入っていないことを確認してハンバーグを注文しました。しかし、食べ終わった後から、蕁麻疹と咳がでてしまいました。アレルギーのお薬を内服して、症状は改善しました。後で確認すると、ハンバーグそのものには入っていませんでしたが、かかっていたデミグラスソースに小麦が入っていたことがわかりました。

解説：外食や店頭販売では、アレルゲン含有の有無について調理担当者にたずねても材料までわからない場合があります。デミグラスソースは通常、小麦粉を使用して作られますので、あいまいな回答しか得られない場合は食べないほうが安全です。

対策：外食は出来れば予約の段階で内容を確認しておくことが望ましいです。また、アレルギー担当者が複数いるお店を選ぶようにしてください。注文時に担当者と一緒に食事内容について確認しましょう。

事例 137 除去食で頼んでいたのに (鶏卵)

年齢・性別：記載なし 男児

原因：オムライスの卵をはがしたチキンライス

症状：アナフィラキシー (顔面腫脹、全身掻痒感、腹痛・下痢、嘔声)

場所：結婚式の披露宴 (ホテル)

経過：出席前から卵アレルギーであることを伝えて何度も「除去食を」と確認していたにもかかわらず、当日卵の載ったオムライスが運ばれました。いったん下げられて戻ってきたチキンライスを食べたアナフィラキシーショックを起こしたため、病院に救急搬送されてしまいました。

解説：オムライスの上の卵をはがしただけで再度出されてしまったようです。

対策：結婚式などスタッフの入れ替わりがあってアレルギーに関する情報が統一されていない恐れがある場合は、卓上に食物アレルギーの札を用意してもらうなど、細かい対策が必要かもしれません。

事例 138 原材料表示にはなかったのに… (牛乳)

年齢・性別：1歳 女児

原因：ソーセージ

症状：数個のじんま疹、軽い咳、口唇・眼瞼の腫れ

経過：牛乳は1ml程度でも症状が出るので、完全除去をしていました。家族で初めて行くホテルのレストランへ食事に出かけた時でした。メニューには乳不使用と書いたソーセージを注文しましたが、食べている最中に咳き込みだし、眼瞼が赤くなりました。すぐに吐き出させ、その場で抗ヒスタミンの粉薬とステロイドのシロップの薬を飲ませました。軽い咳や口唇の腫れも出てきましたが、お薬を飲んで15分くらいで症状は落ち着き、病院に受診するまでには至りませんでした。レストランのスタッフに確認したところ、成分表示の記載に、カゼインが含まれていました。

解説：カゼインは牛乳のおもなタンパク質の成分で、ソーセージの中につなぎとして含まれていることがあります。今回、ソーセージのパッケージには「牛乳」の記載がなかったため、スタッフは乳成分が含まれているとは認識できず、メニューに「乳不使用」と載せてしまいました。

対策：アレルギー表示をする側も、カゼインは乳の代替表記ではないため、乳成分の表示を別にしなければなりません。また、カゼインが乳成分であることは食品関連業務に携わる人においては、必須の知識です。さらに、初めて行く外食では、アレルギーが入る可能性のある食べ物を頼まないほうが良いでしょう。

2) スタッフ間での情報共有不足

事例 139 アレルギー対応食のレストランで何度も確認したのに…（鶏卵、牛乳）

年齢・性別：7歳 女児

原因：シャーベット

症状：アナフィラキシー

経過：アレルギー食対応のレストランに、電話で卵と乳成分の除去が可能か確認して出かけました。

デザートにゆずシャーベットが出たので、再度、卵、乳成分が含まれていないことを聞いたところ、「中の者に確認したので大丈夫です」と回答されたので、安心して食べました。すると、食べた直後から、のどや唇がおかしいと言い出し、口唇周囲に数個のじんま疹が出現、手持ちの抗ヒスタミン薬では治まらず、そのうちに顔が紅潮し目が充血し、咳と喘鳴まで出現しました。ステロイド薬を追加内服し、タクシーで病院へ行きました。

解説：複数の要因が重なり今回のようなことが起こったと考えます。

①シャーベット：シャーベットには、牛乳、卵白やゼラチンなどが使用されていることが多く、今回も乳製品が含まれていました。

②レストランの従業員が確認した厨房には、唯一のアレルギー調理担当者が不在で、アレルギーに詳しくないスタッフが大丈夫と判断したために事故が生じたことがわかりました。

事例 140 ウインナーにチーズが…（牛乳）

年齢・性別：5歳 男児

原因：チーズ入りウインナー

症状：じんま疹

経過：温泉に行くことになり、牛乳アレルギーがあることを事前に、旅館と除去食の打ち合わせも済ませていました。ところが当日になって使用している食品の変更がありました。食事に出たウインナーを食べたところ、30分ぐらいて口に中がびりびりすると泣きだして、その後、体や顔が赤く腫れて1時間くらいでおさまりました。

解説：除去食の打ち合わせは旅館のフロント担当の人とだけで、フロントの人がメニューを確認し、除去食と判断していました。お子様メニューのウインナーはチーズ入りでしたが、フロントの人はそこまでは知りませんでした。調理担当の人は食物アレルギーのことはまったく知らされておらず、子ども用にチーズ入りのウインナーを出しました。

対策：外食は、リスクがあると認識する必要があります。極微量で発症し、しかも重篤な症状を呈する食物アレルギー患者は食物アレルギーに対して配慮がないレストランや旅館では食事しない方が安全です。事前に食物アレルギー対応について確認しましょう。

3) アレルゲン吸入による症状

事例 141 そば粉が空中を舞っていた！（そば）

年齢・性別：6歳 男児

症状：咳 喘鳴

経過：手打ち麺を食べにA店へ食事に行き、患児はそば以外の丼物を注文しました。注文してまもなく待っている間に咳がはじまり呼吸がおかしくなり慌てて店外へ出ました。店内で、手打ち実演をしていてそば粉が店内に舞っていました。

解説：そばアレルギーの場合、ゆでるお湯を別にするといいと、主治医の先生から聞いていました。

今回は念のためにうどんも注文せず、丼を注文したので大丈夫と思っていました。手打ち麺の実演が店の外からも見え、こども達も窓越しに興味深く眺めていたので、引き込まれるようにお店に入りました。空中に舞っているのに気がついたのは、咳が出てからでした。食べるだけではなく粉塵としてまっているそば粉を吸引しても症状が出ることも知っておくといいです。

対策：店内で実演ではなくても店内奥で手打ちしていれば、空中に舞っていると考えましょう。お店によつては、うどんにそば粉をまぶしている店もあるとのことでした。

食事と無関係と思われるところでも誤食事故が起こります

1. 学習塾

事例 142 学習塾でご褒美にもらったアメにアレルギー…（牛乳）

年齢・性別：8歳 男児

原因：アメ（いちごミルク）

症状：のどの痛み、咳込み、喘鳴

経過：書道塾で、ご褒美にアメをもらいました。帰宅途中で口に入れて直ぐ違和感があり、はき出しましたが、のどの痛み、咳込み、喘鳴が起こりました。自宅でインターールの吸入をしましたが変わりなく、病院へ行き入院となりました。

解説：このアメがいちごミルクでした。母親から塾の先生に、牛乳アレルギーであることを知らせてなかったためにミルクの入った飴が配られました。また、インターールは喘息発作が誘発されたときに使用しても効果はなく、喘息発作予防の目的で非発作の時に毎日使用するものです。

対策：おやつも含め食べ物を提供する可能性のある施設の担当者は生徒の食物アレルギー情報を入手すべきです。

事例 143 塾でもらったクッキーに赤い豆、ピーナッツ？（ピーナッツ）

年齢・性別：14歳 男子

原因：クッキー

症状：じんま疹、咳

経過：塾から帰る途中に塾で配られたクッキーを食べました。クッキーの中に赤い豆状のものがあったが、小豆だと思ったので、全部食べたところじんま疹と咳が出現しました。

解説：本人はピーナッツアレルギーということは十分知っていたが、殻つきのピーナッツか白いピーナッツの状態しか知らなかったため、赤い薄皮付きのものはピーナッツだと思わなかったために起きた事例。

対策：上記事例（事例 126）の対策に加え、ピーナッツを含む食品についての情報を本人に学習してもらうことも必要です。

2. お祭りなど

事例 144 五平もちが卵いり？（鶏卵）

年齢・性別：6歳 男児

原因：五平もち

症状：嘔吐

経過：友人に、地元のお祭りに連れて行ってもらいました。「かき氷」と「ポップコーン」だけを食べてもよいと許可しましたが、友人の子供も食物アレルギーがあり、食物アレルギーのことは分かっていると考え、特に確認しませんでした。お祭りで、五平もちを食べて、嘔吐してしまいました。

解説：五平もちのたれに含まれていた卵によるアレルギー症状です。

対策：屋台などで売られている店頭販売の商品は購入しないようにしましょう。

事例 145 床屋でもらったアメにまさか…（牛乳）

年齢・性別：3歳 男児

原因：いちごミルクアメ

症状：じんま疹

経過：父と一緒に床屋に行って、子どもと離れたところで待っていました。床屋のスタッフが子どもによかれと思ってアメをくれました。喜んで食べたところじんま疹が出ました。

解説：子どもが美容院や飲食店など様々な店舗でお菓子をもらう場面は多くあります。

対策：店舗の職員は子どもには、お菓子などを安易に与えないようにしましょう。また、もらう側も店舗に行き、子供が一人になるような場合は、アレルギーがあることを早めに言っておきましょう。

3. キャンプ

事例 146 カンテンなら食べられたのに…（ゼラチン）

年齢・性別：10 歳 男子

原因：ようかん

症状：アナフィラキシー

経過：班のリーダーが看護師でしたので、子供のゼラチンアレルギーのことは伝えてありました。ようかんにはゼラチンの代わりに寒天を使用する予定でした。しかし、食べている途中から咳が出はじめ、全身のじんま疹が出たため、キャンプ地から連絡があり、電話で手持ちの内服を飲んで近くの病院を受診させました。病院についたころには症状は軽くなっていたようです。

解説：材料である寒天を買出しに行ったはずの買出し当番と調理当番が、十分に情報を把握しておらず、粉ゼラチンを買ってきて調理してしまいました。

対策：キャンプのリーダーは、食物アレルギーの子どもを参加させる場合には、自分だけではなく調理当番や買出し当番まで、参加スタッフ全員に話が伝わるように事前に確認しておくべきです（情報の共有化）。また、参加するスタッフへの食物アレルギーに関する教育も必要です。

事例 147 フレンチトーストは卵いり？（鶏卵）

年齢・性別：11 歳 男子

原因：フレンチトースト

症状：じんま疹、嘔気、口腔違和感

経過：ボーイスカウトのキャンプに参加。昼食に全員でフレンチトーストを焼いて食べました。しかし、フレンチトーストに卵を使っていることを本人（アレルギー患児）が知らずに食べてしまいました。が、症状は軽度で、内服、エピペン[®]の筋肉注射をせずに自然に改善しました。

解説：乳児期から卵アレルギーと診断され除去食をしていた為、卵料理や加工食品表示については本人に教えていたが、「フレンチトースト」については知らなかった。

対策：キャンプで作る料理を、事前に確認をする必要がある。また、キャンプ管理者へのアレルギーの周知を徹底する必要がある。

事例 148 ハイキング後のシャーベットに卵が…（鶏卵）

年齢・性別：14 歳 男子

原因：シャーベット

症状：じんま疹

経過：ハイキング後に全員にアイスクリームが出され本人には代替でシャーベットが出されたのだが、事前に家族・本人に知らされていませんでした。お弁当・宿泊時の食事・飲料について事前に母親がチェックをして、本人にも伝えていたため、いつもは、アレルギー表示を本人も確認するのだが、チェックされていると思い込み、のどもかわいていたこともあり食べてしまいました。同じように上部にレモンがのっているシャーベットは乳が入っていないため食べたことがあったのも油断につながってしまった。

機内食について

事例 149 国際線機内食で、事前に卵アレルギー対策をしてくれるといったのに…（鶏卵、牛乳）

年齢・性別：2歳 女児

症状：ニアミス

経過：旅行の前から卵除去食の手配をして、機内にも用意してありましたが、客室乗務員が理解してなくて普通食が配られました。食べる前に気がついて取り替えてもらいました。

解説：機内でアナフィラキシーが生じたら大変です。この例では事前に航空会社到手配をしてあったのですが、客室乗務員全員には伝わってなかったようです。幸い母親がすぐ気づき無事に食事ができました。

対策：事前に航空会社到手配してある場合でも、配膳された時に再確認が必要です。

事例 150 ベジタリアンならよいと思ったら…（牛乳）

年齢・性別：3歳 女児

症状：ニアミス

経過：ベジタリアンなら乳製品は除去されていると聞いたので、機内食としてベジタリアンを注文しました。しかし、配膳されたものにはチーズがついていました。食べる前に気がついて取り替えてもらいました。

解説：ベジタリアン食でも除去される内容には差があります。

対策：事前に航空会社でどこまで除去してくれるのかよく確認しておきましょう。

事例 151 機内で提供された100%ジュースに乳がコンタミしていた（牛乳）

年齢・性別：5才4カ月 女児

原因：リンゴジュース

症状：アナフィラキシー

経過：着陸体勢に入る少し前にキャビンアテンダントさんがリンゴジュースを持ってきてくれました。紙コップ1杯を飲むとすぐに咳込みが始まり、咳が続き、声も出しづらそうになったが、お茶を少し飲ませたら落ち着きました。しかし、その後、ぼっーとしてだんだん顔色が悪くなり唇も白くなってきたため、着陸するまで肩をたたき、声をかけ続けました。着陸してしばらくは「ぼっー」としていたが、次第に顔に赤みがさして元気になりました。

解説：2015年某乳業会社が販売した100%リンゴジュースに牛乳が含まれていたことが判明し、製品は自主回収されました。

対策：原材料として使用していないにもかかわらず、アレルギー物質が微量混入してしまう場合があり、コンタミネーションといいます。アレルギー表示制度では表示義務はありませんが、製品に注意喚起がされていた可能性はあります。このようなコンタミネーションによる誤食事故を予防するには企業の努力が必要です。

1. 食品の入手が困難になります

事例 152 震災でせんべいをやっと手に入れることができました（卵、牛乳、ゴマ、小麦）

年齢：2歳 宮城県

症状：アナフィラキシーの既往あり

震災直後の経過：東京へ疎開しスーパーで買い物が出来ましたが、食物アレルギーの子どもが食べることができるお菓子はほとんど残っていませんでした。しかたがなく食べられそうなせんべいだけ選んで帰りました。

解説：災害時には食料品を含む物資がなくなります。かつ、支援物資も交通手段が悪くなるため、届きにくくなります。さらにアレルギー物資となるとなおさらです。

対策：日持ちのするアレルギー食品の備蓄に加え、食べられる缶詰類、スナック菓子、お菓子、レトルト（お湯がないと使えないので水と一緒にポリタンクなどに保存）のおかずやご飯など、準備しておくといでしょう。また、誤食の頻度が増えるため、アナフィラキシーのある患者ではエピペン[®]の使用法などしっかり理解しておきましょう。

（参考：アレルギー患者がいる家庭が災害のために準備する備品リスト）

2. 誤食しやすくなり、合併するアレルギーも悪化します。

3. いつもの薬が不足します。

4. 集団での共同生活を強いられ、除去食が作れない状況になります。

5. 合併するアトピー性皮膚炎、喘息が悪化します。

事例 153 共同生活で湿疹が悪化、いつもの医療機関にかかれないので、手持ちの薬（内服薬・軟膏）がなくなりました（鶏卵、牛乳）

年齢：2歳 宮城県

症状：湿疹や喘息の悪化

震災直後の経過：発災後、親戚や近所の家族と一緒に共同生活をしていました。その中には子どもが沢山いたので、牛乳を飲んだ手や乳製品を食べた手で触られ、徐々に湿疹が悪化していきました。また、災害ゴミの粉塵もひどく、それまでは薬が不要だった喘息が悪化しました。しかし、いつも通っている病院も閉鎖したために、受診することができず、薬が不足し困ってしまいました。

解説：大勢の人との共同生活では、アレルギー食を作る余裕もなくなります。加えて誤食や接触による食物アレルギー症状が出やすくなります。そのため誤食時の内服を使用する場面が増えてきます。断水によって入浴ができなくなるためアトピー性皮膚炎が悪化します。埃っぽい環境下に加えタバコの煙などのため喘息発作も出やすくなります。

対策：いつも使用する薬には名前と分量をメモしておきましょう。薬を飲ませるための飲料水も必要です。またアレルギー外来のある病院のリストの準備もあるといでしょう。アトピー性皮膚炎がある人は特に衣類や下着は多めに準備しておきましょう。入浴できなくても体をふけるティッシュやコットンなど、スキンケア用品の準備も必要です。停電のため電動式吸入器が使えなくなります。喘息発作時の内服薬も1週間分は準備しましょう。

6. お子さんの情報が周りの人に十分伝わりません

事例 154 避難所生活では支給された食事の中から食べられそうなものを与えた（鶏卵、小麦）

年齢：3歳 新潟県

症状：繰り返す湿疹

震災直後の経過：避難所生活で支給された食事から食べられそうなものだけ選んで食べさせていました。

しかし食べられそうなものの種類が少なくなり、仕方なく天ぷらやフライの衣を剥いで食べさせていました。鶏肉料理を食べさせた時に背中に湿疹が何度か出たことがありましたが、今思うと小麦がまぶしてあったのかもしれない。

解説：避難所生活では食物アレルギーの対応はできないことが多いです。また食物アレルギーは他の疾患に比べ軽く見られがちであり、「こんな時に贅沢を言うな」と言われるなどの理不尽な対応を受けた例もあります。また、食物アレルギーであることを理解していない周囲の人は、アレルゲン食品を知らずに子供に渡してしまうこともあります。

対策：自己防衛のため、食物アレルギーであることを示すアレルギー緊急カード（図5）を準備しておきましょう。子供とはぐれてしまうことを考えて子供に持たせておきましょう。また、炊き出しなどでは遠慮せず、アレルゲンが入っていないかを調理担当者に確認し、可能なら個別のアレルギー対応調理をしてもらいましょう。周囲の人への食物アレルギーを理解してもらうために行政や一般の人にアレルギー疾患の説明パンフを配布（日本小児アレルギー学会ホームページからダウンロードできます）してもらうよう働きかけも必要です。

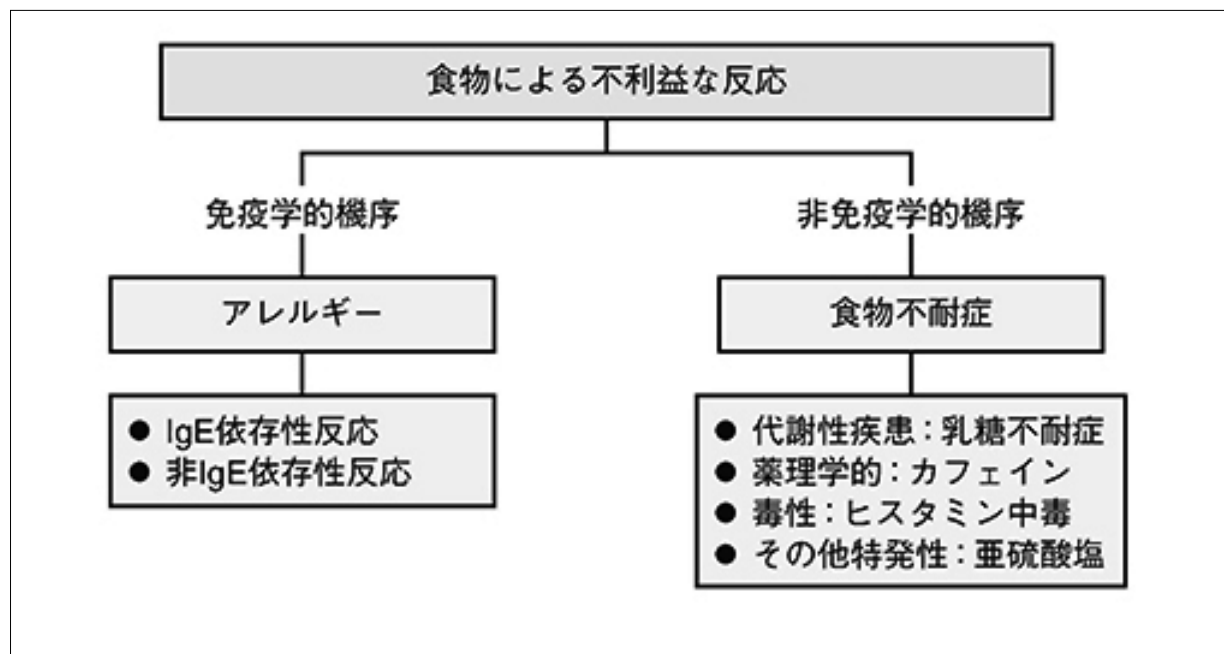
各場面に共通する基礎知識

1. 食物アレルギーの定義

食物アレルギー診療ガイドライン 2016において、食物アレルギーとは「食物によって引き起こされる抗原特異的な免疫学的機序を介して生体にとって不利益な症状が惹起される現象」と定義される。免疫学的機序にはIgE依存性反応と非IgE依存性反応がある。免疫学的機序によらないものを「食物不耐症」と総称する(図1)。食物アレルギーは食物によって惹起されるアレルギーであり、体内への侵入経路は、経口摂取だけではなく、経皮、吸入、注射など、いずれの経路でもよい。

【図1】食物による不利益な反応のタイプ

(転載：食物アレルギー診療ガイドライン 2016)



2. 学校での食物アレルギー・アナフィラキシーの頻度

食物アレルギーやアナフィラキシーの児童・生徒は、平成16年から平成26年の9年間で明らかに増加している(表1)。250人に1人くらいエピペン®を携帯している患者が在籍していることになる。どの学校でもアナフィラキシー対策やエピペン®注射ができるように実技研修をすることが必要な時代となったことを示す。

【表1】「学校生活における健康管理に関する調査」文科省中間報告平成26年12月16日

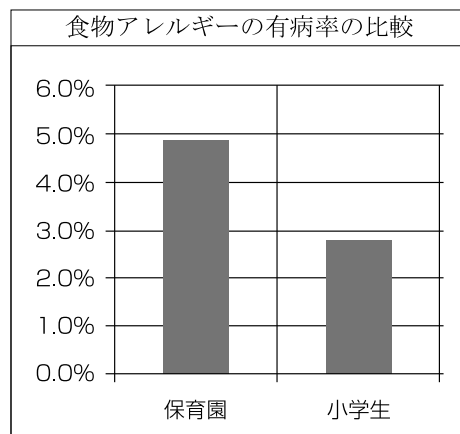
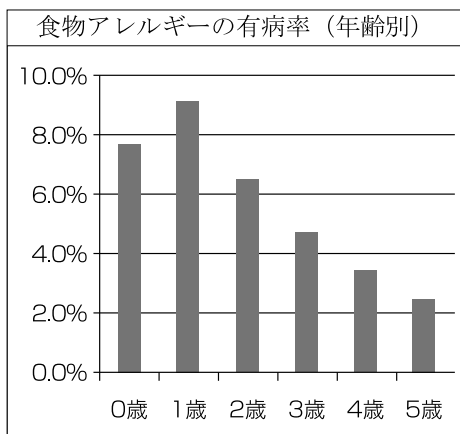
平成25年8月現在			
	食物アレルギー	アナフィラキシー(※)	エピペン®保持者(※※)
小学校	210,461(4.5%)	28,280(0.6%)	16,718(0.4%)
中学校・中等教育学校	114,404(4.8%)	10,254(0.4%)	5,092(0.2%)
高等学校	67,519(4.0%)	4,245(0.3%)	1,112(0.1%)
合計	453,962(4.5%)	49,855(0.5%)	27,312(0.3%)
平成16年			
	食物アレルギー	アナフィラキシー	
小学校	194,445(2.8%)	10,718(0.15%)	
中学校・中等教育学校	88,100(2.6%)	5,023(0.15%)	
高等学校	46,878(1.9%)	2,582(0.11%)	
合計	329,423(2.6%)	18,323(0.14%)	

3. 保育所における食物アレルギー有病率

保育所では食物アレルギーの乳幼児は6～9%います（図2）。実際、食物アレルギー患児に対する誤食事故も、29%の保育所が経験していると報告されています。保育所では食事が出ます。食物アレルギー対応は避けては通れない課題です。

【図2】 保育所における食物アレルギー有病率

（引用：保育所におけるアレルギー対応ガイドライン）



4. 食物アレルギーひやりはっと事例集でみる事例発生場所

- 1, 自宅 140 (42%)
- 2, 保育園・幼稚園 72 (21%)
- 3, レストラン 31 (9%)
- 4, 祖父母 18 (5%)
- 5, 友達の家 11 (3%)
- 6, 店頭販売 8 (2%)
- 7, 小学校 7 (2%)
- 8, ホテル 3 (1%)
- 9, スーパーでの試食 2 (1%)
- 10, キャンプ 2 (1%)

食物アレルギー事故は、子どもに対して食事を提供する場面で発生しやすい。

5. 症状を誘発するアレルゲン量

誘発するアレルゲン量には、個人差があり、中には、ほんのわずかな量でも症状を起こす例もある。

また同一患者においても誘発量は体調によって変わるので注意が必要である。

運動、下痢、入浴、生理などによって発症しやすくなるので要注意。

6. 加工食品中のアレルゲン含有量

同じ種類の加工食品（例えば、パンに含まれる鶏卵タンパク質）でも、アレルゲン含有量は100倍以上の差がある。

また販売地域やリニューアルによってアレルゲン含有量が変化する。

7. アレルギー検査

血液検査

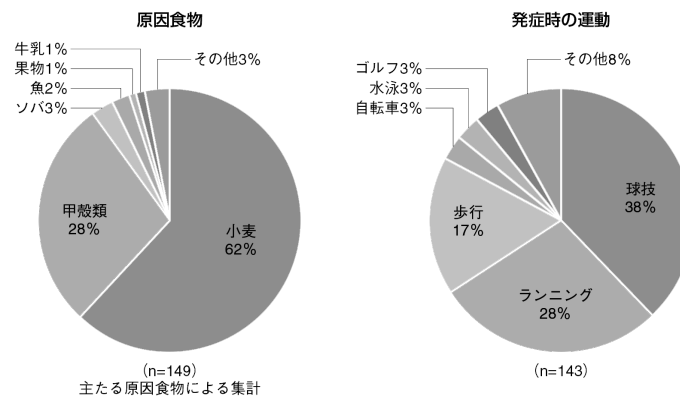
特異的IgE値はアレルギー症状が出現する確率を示すのみ。よって、IgE検査が陽性の食品も必ずしも除去する必要はない。IgE値が低い食品を安全と考えることも誤り。ただし、この出やすさ（確率）は食品によっても異なるので、自己判断するのではなく医師の指示に従う。

食物経口負荷試験、その他

食物アレルギーを同定する方法の中で最も信頼がおける検査は経口負荷試験である。しかし、経口負荷試験にはアナフィラキシーのような強い反応が起きることがあるので、必ず医師の監視のもとで行うこと。病院で行う原因アレルゲンを同定するための検査には、上記以外に皮膚プリック試験や好塩基球ヒスタミン遊離試験がある。

8. 学童期以降になってから発症する食物アレルギーの特殊型

食物アレルギーは通常低年齢に発症し加齢に従って自然に治っていく。しかし、一部の食物アレルギーは、学童期以降に発症するものがあり、このタイプの代表例として花粉と果物や野菜との交差反応性でおこる口腔アレルギー症候群（花粉食物アレルギー症候群）がある。もう1つは、原因食品を食べただけでは何ともなく、または、運動だけでも何ともないのに、原因食品の摂取後に運動が組み合わさると起こる食物依存性運動誘発アナフィラキシーがある。原因食品の多くは小麦や甲殻類である（図3）。食べただけでは起きないために気付かれにくいので注意が必要。



【図 3】我が国で報告された食物依存性運動誘発アナフィラキシーの原因食品と発症時の運動の割合
(引用：食物アレルギー診療ガイドライン 2016)

9. 治療

- ・正しい原因アレルゲンの診断に基づいた必要最小限の除去食が基本。
- ・母乳には母親由来の食物抗原が微量ながら存在する。この食物抗原によって食物アレルギーが稀ではあるが引き起こされることがある。このような場合、乳児だけではなく、母親もその原因食品を除去することになる。しかし、その除去は、比較的短期間で解除できる。いずれにしろ、自己判断で除去をどんどん進めるのではなく専門医に相談すること。
- ・牛乳アレルギーで粉ミルクを使用する場合は、アレルギー用ミルクを使用する（表 2）。購入の際は間違えないように注意する。一部の牛乳アレルギー用ミルクにはカルニチンがほとんど含まれていない。これらのミルクだけで栄養していると、カルニチン欠乏症を発症するおそれがある。適切な時期に離乳食を開始することが重要。
- ・食べられるようになる時期には個人差がある。また食品によっても治りやすさに差がある。主治医に相談して、適切な時期に血液検査や必要ならば経口負荷試験を計画してもらう。
- ・食べて治す治療（経口免疫療法あるいは経口減感作療法）は、まだ一般的な治療ではなく、研究段階である。必ず専門医のもとで行うこと。自宅で勝手に行うことは危険である。

【表 2】牛乳アレルゲン除去調製粉乳 (引用：食物アレルギーハンドブック 2018)

		加水分解乳				アミノ酸乳	大豆乳
		明治ミルフィーHP (明治)	MA-mi (森永乳業)	ビーンスターク ペプディエット (雪印ビーンスターク)	ニューMA-1 (森永乳業)	明治 エレメンタルフォーミュラ (明治)	ボンラクト (アサヒグループ食品)
最大分子量		3,500以下	2,000以下	1,500以下	1,000以下	—	—
乳タンパク	カゼイン分解物	—	+	+	+	—	—
	乳清分解物	+	+	—	—		
その他の主な組成	乳糖	—	+	—	—	—	—
	大豆成分	—	—	大豆レシチン	—	—	+
	ビタミンK	+	+	+	+	+	+
	銅・亜鉛	+	+	+	+	+	+
	ビオチン	+	+	+	+	+	+
	カルニチン	+	+	± (添加はないが微量含む)	+	+	+
	セレン	—	—	—	—	—	+
	カルシウム (mg) 調整100mLあたり	54 (14.5%調乳)	56 (14%調乳)	56 (15%調乳)	60 (15%調乳)	65 (17%調乳)	53 (14%調乳)

10. 誤食を防ぐための教育

- ・年齢が大きくなったら自己管理能力を身につけさせる。
- ・原因アレルゲンを含む食品の回避のための教育
- ・アレルゲン食品表示の見方
- ・原因アレルゲン食品が提供された時の回避の方法や断り方
- ・アレルギー反応の出現時の対応の仕方

経口免疫療法における注意点

1. 経口免疫療法とは

- ・食物アレルギーに対する経口免疫療法（経口減感作療法）は、原因食品を毎日一定量経口摂取し、その量を計画的に増量すること（増量期）によって、原因食品に対して耐性を増加させることを目的に行う治療である。
- ・研究段階の治療であり、まだ健康保険の適応はない。経口免疫療法に詳しい医師の指導のもとに行うこと。
- ・増量期のあとに維持療法（同じ量を数日の間隔で何年も食べ続ける）が必要である。途中で中断すると、獲得した耐性が低下することが多い。
- ・年長児であれば、家族だけではなく本人の了解も得てから開始すること。

2. 治療中に症状が出ることがある

- ・じんま疹、腹痛、鼻汁、アトピー性皮膚炎悪化といったアレルギー症状や、まれにアナフィラキシーのような重篤な過敏症状が引き起こされることがある。
- ・増量期は免疫療法で用いている食品と同じグループの食品（例えば、鶏卵で免疫療法中の場合は鶏卵製品）は食べない。なぜなら、免疫療法で食べている食品と重なり、摂取量が増え、アレルギー症状が引き起こされる恐れがある。
- ・感冒、下痢、運動、入浴、生理、痛み止めや解熱剤内服の時はアレルギー症状が出やすいので注意が必要。

3. 免疫療法で症状が出た時の対処

- ・アレルギー症状出現時に対応ができるように常時緊急時薬を携帯し、投与するタイミングを覚えること。
- ・アナフィラキシーなどアレルギー症状がでるリスクのある治療法である。エピペン[®]の携帯が推奨される。（緊急時薬；エピペン[®]、抗ヒスタミン薬、プレドニゾロン（ステロイド薬）気管支拡張薬）
- ・急性アレルギー症状発症時に受診する救急病院を決め、病院の住所、電話番号を調べておく。

4. 免疫療法のメリット

- ・維持療法期になると、免疫療法の間の日に原因食品を解除できる。栄養補給ができるだけでなく、食生活の楽しみが増える。
- ・ある程度の耐性獲得により、誤食時のアナフィラキシー症状軽減が期待でき、誤食に対する安全確保が可能となる。

加工食品のアレルゲン表示

1. アレルゲン食品表示の範囲

- ・対象は容器包装された加工食品及び添加物。
- ・対象外
 - 1) 店頭販売品やレストランなどの料理。
 - 2) 運搬容器への表示。

2. アレルゲン食品表示をみる際の注意点

- ・加工食品を買う時には、必ず原材料表示を確認する（表3）。
- ・食べ慣れた加工品でもリニューアルすることがあるので、毎回確認する。
- ・製造ラインの記載のある欄外表示まできちんと読む。
- ・分かりにくい表示についてもお子さんの原因アレルゲンと関連するものは覚えておく（表4）。

【表3】アレルゲンの食品表示

特定原材料等の名称	
義 務	卵、乳、小麦
	そば、落花生、えび、かに
推 奨	あわび、いか、いくら、オレンジ、キウイフルーツ、牛肉、くるみ、さけ、さば、大豆、鶏肉、豚肉、まつたけ、もも、やまいも、りんご、バナナ、カシューナッツ、ゴマ
	ゼラチン

【表4】わかりにくい表示例の解説

卵殻カルシウム	卵の殻が原料です。高温処理されていない来焼成の卵殻カルシウムを含む食品には、表示義務濃度を少し上回る程度の卵タンパク質が検出されるため表示されます。ただし、多くの場合使用量が少なく、鶏卵アレルギーの方でも食べることができる程度の量なので、主治医に相談しましょう。
レチシン（卵由来）	乳化剤です。レチシン（卵由来）と表示されている場合、卵黄が含まれているので、注意が必要です。レシチン（大豆由来）あるいはレシチンとだけ記載されている場合は、鶏卵は使用されていません。
魚卵、鶏肉	タンパク質の種類が異なるため、鶏卵アレルギーの原因にはなりません。
乳糖	乳糖には牛乳タンパク質が混入しているため、特定加工食品に指定されており、食品表示欄に表示されます。ただし、乳糖の使用量が少ない場合には食べられることが多いので、主治医に相談しましょう。
ホエイカゼイン	牛乳タンパク質が含まれているので、注意が必要です。ホエイパウダー、カゼインナトリウムなど表示にはいろいろありますが、「○○（乳製品）」と表示されます。
乳化剤	「乳」という文字が入りますが、卵黄、大豆、牛脂などから作られているので、牛乳アレルギーの原因にはなりません。
乳酸カルシウム 乳酸ナトリウム	「乳」という文字が入りますが、化学物質であり、牛乳アレルギーの原因にはなりません。
乳酸菌	菌の名前であり、牛乳成分ではないため、牛乳アレルギーの原因にはなりません。漬物などにも含まれていることがあります。ただし、「乳酸菌飲料」は乳製品で牛乳タンパク質が含まれているので、注意が必要です。
カカオバター	「バター」という文字がありますが、牛乳から作られたものではありませんので、牛乳アレルギーの原因にはなりません。
牛以外の動物の「乳」	牛以外の動物の乳（山羊乳、めん羊乳など）は、食品表示の対象外です。山羊乳は牛乳とタンパク質がよく似ている【交差抗原性が高い】といわれており、山羊乳を含む食品を食べると症状を起こすおそれがありますので、主治医と相談しましょう。
しょう油・みそ・酢	製品に残存している小麦タンパク質が微量であるため、多くの小麦アレルギーの方が食べられます。特に大豆、小麦、塩だけを原材料とするしょう油中には小麦タンパク質であるグリアジンが検出されません。これらの調味料が使用できれば、QOLは大きく向上するので、主治医に相談しましょう
グルテン	小麦のタンパク質が含まれており、注意が必要です。米粉パンなどに使用されることがあります。グルテン（小麦由来）などと表示されます。
麦芽糖	主にととうもろとしでん粉が原料であるため、小麦アレルギーの原因にはなりません。小麦からつくられる麦芽糖は「麦芽糖（小麦を含む）」などと表示されます。
モルト（麦芽）エキス	ほとんどは大麦からつくられ、小麦アレルギーの原因とはなりません。小麦を含むモルト（麦芽）エキスは「モルト（麦芽）エキス（小麦を含む）」などと表示されます。
小麦以外の麦類	小麦以外の麦類は表示の対象外です。小麦アレルギーの方は他の麦類（大麦、ライ麦、えん麦、はと麦など）や製品（麦ご飯等）と交差抗原性があるために、食べると症状を起こすおそれがあります。麦茶は飲めることが多いですが、麦ご飯では症状を起こすことがあるので、主治医に相談しましょう。

- ・医薬部外品には食物アレルギーが入っていても表示の義務はない。
- ・食物アレルギーと関連する薬剤がある（表5）。
- ・インフルエンザワクチンには卵成分が含まれている。しかし、その量は微量のため卵アレルギー患児の多くは安全に接種ができる。ワクチンに詳しい医師に相談すること。卵アレルギーの患者さんは、卵を安全に食べることができるか、自分で確認することはしない。

【表5】物アレルギー患者が注意を要する食物抗原を含む医療用薬品（投与禁忌の医療用医薬品）

（転載：食物アレルギー診療ガイドライン 2016）

含有成分		商品名	薬効分類
鶏卵	リゾチーム塩酸塩 (内服薬は2016年3月に販売中止)	ムコゾーム®、リゾティア®、リフラップ®	消炎酵素点眼剤、皮膚潰瘍治療剤
牛乳	タンニン酸アルブミン	タンナルビン®など	止瀉剤、整腸剤
	乳酸菌製剤	エンテロノン®、コレボリー®R、ラックビー®R、耐性乳酸菌散10%「JG」	腸内細菌叢改善剤
	カゼイン	ミルマグ®錠350mg	制酸剤、緩下剤
		アミノレバン®EN、エネーボ®、エンシュア®・H、エンシュア・リキッド®、ラコール®NF	経腸または経口栄養剤
	乳糖 (散在の調合に用いられることもあるので注意)	フルタイド®ディスカス®、アドエア®ディスカス®、バルミコート®タービュヘイラー®、シムビコート®タービュヘイラー®、アズマネックス®ツイストヘラー®、レルペア®エリプタ®、ソル・メドロール® 静注用製剤40mg	吸入薬、静注用製剤など
ゼラチン		エスクレ®坐剤	鎮静・催眠剤
【投与禁忌の一般用医薬品など】			
含有成分		商品名／品目数	薬効分類
鶏卵	リゾチーム塩酸塩	191品目(2014年9月現在)	かぜ薬、鎮咳去痰薬、鼻炎用内服薬、口腔咽頭薬(トローチ剤)、痔疾用薬、歯痛・歯槽膿漏薬、一般点眼薬、漢方製剤など
牛乳	タンニン酸アルブミン	グアベリン錠®、ストーゼ止瀉薬®、ピオフェルミン止瀉薬®、ピストップ®、ベルランゼットS®、新タントーゼA®、大正下痢止め®	止瀉薬
	乳酸菌製剤	イストロン整腸錠®、ファスコン整腸錠®、ラクティブプラス®、新アベテート整腸薬®、新笹岡整腸薬M®	整腸薬
	添加物に乳成分	婦人華N®、新プレコルトローチ®	口腔咽頭薬、婦人薬
	CPP-ACP (リカルデント®)	ジーシーMIペースト®	口腔ケア用途布薬
		リカルデントガム®など	特定保健用食品

自宅（祖父母宅を含む）

1. 食品購入時

- ・アレルギー食品表示をチェックする。
- ・安全に摂取できる加工食品の一覧表を作成する。
- ・祖父母宅でも自宅同様の対策をしてもらう。

2. 情報共有

- ・よく来る友達には除去食について理解してもらう。
- ・日ごろから祖父母を含めて家族全員で食物アレルギーについて話し合う。
- ・原因食品を書いたはり紙をしておく。

3. 食事の準備

- ・他の人の料理と見分けがつくように専用の食器を準備する。
- ・代替え食が載った食器には印をつける（専用のものがあるとよい）。
- ・可能であれば、家族全員が食べられるような除去食を作る。

4. 食事中の注意点

- ・患児が除去食以外の料理を間違えて食べないように周囲の者が注意する。
- ・原因食品が食事に出ているときは、自分が使っているはしやスプーンで患児に食べさせない。
- ・お客さんとのパーティーなど、子どもに目が届きにくい状況で誤食は起きやすいので注意が必要。

5. 食後の整理整頓

- ・料理は手の届かない所へすぐに片付ける。
- ・子供の目の届くところに原因食品を置かない。
- ・冷蔵庫や食物を捨てるゴミ箱は患児が低年齢であれば手が届かない工夫をする。
- ・原因食品で汚れたテーブルを拭いたタオルは患児が触らないように注意する。

6. 極微量でも症状が誘発される症例での注意点

- ・家中に原因食品を置かないようにする。
- ・原因食品が家にある場合；
誤食をしない一般的注意以外に、食後は家族全員、手洗いやうがいをする。
原因食品が付着した兄弟の衣服は着替えさせる。

7. 自宅外での誤食を回避するために年齢に応じた教育を行う

- ・原因食品の見分け方。
- ・アレルギー食品表示の見方を指導する
- ・原因食品が提供された時の回避の方法や断り方。
- ・アレルギー反応出現時の対応。

友人宅（友人との食事会や親子パーティー）

- ・食物アレルギーのことを主催者に伝える。
- ・事前に食事メニューの原材料を確認する。
- ・アレルギー対応でなければ子供は連れて行かない。
- ・どうしても連れて行くなれば子供から目を離さない。
- ・普段食べても安全な食品を持参する。
- ・緊急時薬を携帯する。
内服用抗ヒスタミン薬、内服用ステロイド薬、エピペン[®]
- ・救急病院を事前に確認する。
- ・原材料がわからない食品は食べさせない。

1. 個々の園・学校に適した「食物アレルギー対応マニュアル」を作成する。

(1) 誤食事故を防ぐための具体的マニュアルと啓発、実践

⇒できるだけシンプルな給食対応；完全除去と代替食・除去食（弁当で補充）

(2) 誤食が起きた時の緊急対応

2. スタッフへの食物アレルギー研修

施設に食物アレルギーの子どもがいるならば、スタッフ全員で食物アレルギーの学習をする

参考書；

学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン（平成 20 年；日本学校保健会）

食物アレルギーの基礎と対応（平成 23 年；NPO 法人アレルギー支援ネットワーク）

保育所におけるアレルギー対応ガイドライン（平成 23 年；厚生労働省）

食物アレルギーの診療の手引き 2014（平成 26 年；厚生労働科学研究：海老澤班）

食物アレルギーの栄養指導の手引き 2011（平成 23 年；厚生労働科学研究：今井班）

食物アレルギー診療ガイドライン 2012（平成 23 年；日本小児アレルギー学会）

食物アレルギーひやりはつと事例集 2014（平成 26 年；消費者庁消費者政策調査費）

食物アレルギーハンドブック 2014 ー子どもの食に関わる方々へー（平成 26 年；日本小児アレルギー学会）

ぜん息予防のための よくわかる食物アレルギー対応ガイドブック 2014（平成 26 年；環境再生保全機構）

食物アレルギー診療ガイドライン 2016（平成 28 年；日本小児アレルギー学会）

食物アレルギーの診療の手引き 2017（平成 29 年；日本医療研究開発機構研究：海老澤班）

食物アレルギーの栄養指導の手引き 2017（平成 29 年；厚生労働科学研究：海老澤班）

3. アレルギー情報の共有

(1) 施設内スタッフ間の情報共有

- ・事前に患児の原因食物、除去の程度、症状を全員で把握する。
- ・医師からの管理指導表・診断書は定期的に見直す（図 4、図 5）。
- ・スタッフ間で患児名と原因食物の情報を共有する。
- ・担任が不在となる日は申し送りを確実に行う。
- ・申し送りは口頭だけではなく、文書で行い、内容を指差しながら声を出して確認する。

(2) 保護者との情報共有

- ・患児の原因食物、除去の程度、症状を聞いておく（管理指導表を利用する）。
- ・医師からの管理指導表・診断書（図 4、図 5）は定期的に提出してもらう。
- ・年齢的に未摂取の食品が多い。未摂取の食品は家庭で安全に摂取できることを確認してから園では導入する

(3) 給食センターとの情報共有

- ・給食センターは、アレルゲンと関連する可能性のある食品についてメーカーなどが変更になった際には、原材料をメーカーに確認し施設にも連絡する。

4. 給食

(1) 除去食の提供（図 6）

- ・施設のルールを決める。
- ・多人数の施設では完全除去（All or None）にする；家庭での除去食とは異なるのもやむを得ない。
- ・園児・児童・生徒で個々の除去程度に応じて、別々の対応（個別対応）を行う施設は、事故が起きやすいので特に注意する。

(2) 献立作成

- ・加工食品のアレルゲン表示を必ずチェックする。
- ・後でチェックできるようにアレルゲン食品表示を一定期間保管する。
- ・除去食に使う代替食品の一覧表を作成する。
- ・除去食用のレシピを揃える。
- ・ほとんどの食物アレルギー患児が摂取できる食品は除去しない。
鶏卵（卵殻カルシウム）、小麦（味噌、醤油、麦茶）、牛乳（乳糖）、魚（かつおだし、いりこだし）、ゴマ（ごま油）、肉類（エキス）、大豆（醤油、味噌、大豆油）
*極微量で発症するため除去が必要な患児の場合は事前に登録してもらう。
- ・料理に必ずしも必要ではない少量の鶏卵・牛乳・小麦・大豆は材料に使わない。健康な子どもだけではなく食物アレルギー患児も食べられる。
例；鶏卵のつなぎを使用しないハンバーグ
- ・激しい症状を出す恐れがある食品（そば、ピーナッツ、キウイフルーツ）は使わない。

(3) 献立表作成（表 6, 7, 8, 9, 10）

- ・原材料はメニュー（料理）ごとに分かりやすく記載する。
- ・保護者にも給食の献立表の原材料を事前にチェックしてもらう。
- ・二重チェックできるようにするために、園・学校職員と保護者は同一の献立表をチェックする。
- ・栄養士が除去するメニュー（料理）をマークする方法は、ヒューマンエラーが起きやすい。特に、“ふせん”でのマークは、はずれるおそれがあるので禁。
- ・献立表を保管する。

(4) 調理

- ・可能ならば除去食を作るための専用のスペース、食器を準備する。
- ・混入を起こさない手順を決める。
- ・除去食にはすぐにラップを被せる。
- ・原因食品名を記載したカード（食札）を配膳盆に載せ簡単に除去食品を確認できるようにする。

(5) 配膳時

- ・担当者はメニューごとに原材料を記載したカードをそばに置き、いつでも確認できるようにする。
- ・配膳盆（トレイ）、食器など色の違いだけでの区別はルールを知らない職員が間違える恐れがある。
- ・原因食品名を記載したカード（食札）を配膳盆に載せ簡単に除去食品を確認できるようにする。
- ・調理時、配膳時、責任者が必ずメニューを指差し、声に出して確認をする。可能であれば複数の職員でチェックする。
- ・除去食から先に配る。
- ・給食の開始時にメニューの原材料を確認して患児の原因食品と照合する。
- ・食物アレルギーの児童の隣に席をとるのもよい。

(6) 食事中

- ・食事中ならびに食事後（後片付けを含めて）の観察を怠らない。
- ・友達の給食を食べないように注意する。
- ・患児にお代わりを与える時は、原因食品の有無をチェックする。
- ・児童生徒にお代わりの管理をさせている学校では、除去食・代替食を食べている生徒・児童におかわり禁とする。
- ・原因食品（牛乳など）がこぼれても食物アレルギー患児が触らないように注意する。
- ・こぼれた牛乳などタンパク質を含有する液体は、水拭きではなく、洗剤で拭き取る。その際、周辺へ拡大させない。
- ・原因食品に触ったらすぐに水道水で洗い流す。触った手で目をこすらないようにする。

(7) 食事後

- ・牛乳パック、皿などは迅速に回収し、子どもの手が届かない場所に保管する。
- ・食事後も2時間は患児の観察を怠らない。

5. 食事以外の学習活動

- ・患児の原因アレルゲンが含まれる教材は使わない。必要ならば活動内容を見直す。

例：

- ・大豆の代わりにピーナッツを使用した豆まき、そば打ち体験、うどん作り体験、調理実習、卵の殻を使った工作、小麦粘土、牛乳パック。
- ・清掃：牛乳などが付着した雑巾は園児・児童の手が届かないところへ収納する。
- ・手洗い：牛乳、大豆成分、加水分解小麦など食品成分が含まれた石けんは使用しない。
- ・寝室：そば殻枕。
- ・ラテックスアレルギー患者が参加している時には、ゴム製品にも配慮：ゴム風船

6. アナフィラキシーなどアレルギー症状出現時の対応

- ・緊急時の連絡先（電話番号）を確認：保護者、主治医の病院、近隣の救急病院。
- ・救急病院を保護者と事前に決めておく
- ・職員のエピペン[®]実技講習を行う。緊急時薬（内服抗ヒスタミン薬、内服ステロイド薬、エピペン[®]）の内容確認、投与のタイミング、注射方法
- ・食物アレルギー対応緊急時チェック表を園・学校と保護者の両者がもち、緊急時にチェック表をみながら対応を決める（表 11）。

7. エピペン[®]

- ・保険適応あり
- ・適応；アナフィラキシーの病歴がある、あるいはアナフィラキシーのリスクが高い。
- ・患者自身や保護者が注射する自己注射器。
- ・患者が注射できない時には、代わりに園・学校の職員が注射してもよい。その際、医師法など法律には抵触しない。
- ・救急車には設置されていないが、救急救命士は患者が携帯している製剤を業務として注射できる。

8. 心理的、社会的配慮

- ・保護者や医療従事者との連携。
- ・患児への励まし。
- ・異なった食事内容でも楽しく食べられる雰囲気作り。

9. 食物アレルギー教育（食育）

- ・食の安全を教える。学校の安全管理対策：第一優先
- ・年齢に応じて自己管理能力の育成をする。
- ・周りの友達が理解し協力できる体制づくり。
- ・皆同じ給食でない給食でも、皆と一緒に楽しく食べることが重要。その環境作りこそ教師の仕事。
- ・健康を増進する食事を教える：個々の子どもの健康状態にマッチした食事。
- ・回避のための教育：食品の見分け方。
- ・アレルゲン食品が提供された時の回避の方法。
- ・アレルギー反応の出現時の対応。

10. 職員の安全管理体制の確立（図 8,9, 表 12）

- ・誤食事故に関与した職員の身分保障と精神的サポート体制

【図4】学校生活管理指導表

(転載：食物アレルギー診療ガイドライン 2016)

名前		男・女 平成 年 月 日生 (歳)		学校 年 組		提出日 平成 年 月 日	
裏 学校生活管理指導表 (アレルギー疾患用)	食物アレルギー (あり・なし)	病型・治療		学校生活上の留意点		緊急時連絡先	
		A. 食物アレルギー病型(食物アレルギーありの場合のみ記載) 1. 即時型 2. 口腔アレルギー症候群 3. 食物依存性運動誘発アナフィラキシー		A. 給食 1. 管理不要 2. 保護者と相談し決定		★保護者 電話: ★連絡医療機関 医療機関名: 電話:	
		B. アナフィラキシー病型(アナフィラキシーの既往ありの場合のみ記載) 1. 食物(原因) 2. 食物依存性運動誘発アナフィラキシー 3. 運動誘発アナフィラキシー 4. 昆虫 5. 医薬品 6. その他()		B. 食物・食材を扱う授業・活動 1. 配慮不要 2. 保護者と相談し決定 C. 運動(体育・部活動等) 1. 管理不要 2. 保護者と相談し決定 D. 宿泊を伴う校外活動 1. 配慮不要 2. 食事やイベントの際に配慮が必要 E. その他の配慮・管理事項(自由記載)		記載日 年 月 日 医師名 医療機関名	
C. 原因食物・診断根拠 該当する食品の番号に○をし、かつ《 》内に診断根拠を記載 1. 鶏卵 () 2. 牛乳・乳製品 () 3. 小麦 () 4. ソバ () 5. ビーナッツ () 6. 種実類・木の果実 () () 7. 甲殻類(エビ・カニ) () 8. 果物類 () () 9. 魚類 () () 10. 肉類 () () 11. その他1 () () 12. その他2 () ()		[診断根拠] 該当するものを《 》内に記載 ① 明らか症状の既往 ② 食物負荷試験陽性 ③ IgE抗体等検査結果陽性					
D. 緊急時に備えた処方箋 1. 内服薬(抗ヒスタミン薬、ステロイド薬) 2. アドレナリン自己注射薬(「エピペン®」) 3. その他()							
アレルギー性鼻炎 (あり・なし)	アレルギー性鼻炎	病型・治療		学校生活上の留意点		緊急時連絡先	
		A. 病型 1. 通年性アレルギー性鼻炎 2. 季節性アレルギー性鼻炎(花粉症) 主な症状の時期: 春、夏、秋、冬		A. 屋外活動 1. 管理不要 2. 保護者と相談し決定 B. その他の配慮・管理事項(自由記載)		記載日 年 月 日 医師名 医療機関名	
		B. 治療 1. 抗ヒスタミン薬・抗アレルギー薬(内服) 2. 鼻噴霧用ステロイド薬 3. その他()					

●学校における日常の取り組み及び緊急時の対応に活用するため、本表に記載された内容を教職員全員で共有することに同意しますか。
1. 同意する
2. 同意しない 保護者署名: _____

【図5】保育所におけるアレルギー疾患生活管理指導表

(転載：食物アレルギー診療ガイドライン 2016)

＜参考様式＞
保育所におけるアレルギー疾患生活管理指導表(食物アレルギー・アナフィラキシー・アレルギー性鼻炎) 提出日 平成 年 月 日

名前 男・女 平成 年 月 日生 (歳 ヶ月) 組

この生活管理指導表は保育所の生活において特別な配慮や管理が必要となった場合に限り作成するものです。

病型・治療		保育所での生活上の留意点		緊急時連絡先	
A. 食物アレルギー病型(食物アレルギーありの場合のみ記載) 1. 食物アレルギーの関与する乳児アトピー性皮膚炎 2. 即時型 3. その他(新生児消化器症状・口腔アレルギー症候群・食物依存性運動誘発アナフィラキシー・その他)		A. 給食・離乳食 1. 管理不要 2. 保護者と相談し決定 B. アレルギー用調理器具 1. 不要 2. 必要 下記該当ミルクに○、又は《 》内に記入 ミルフィーユ・ニューMA-I・MA-mi・ベプディニット エリメンタルフォーミュラ その他《 》		★保護者 電話: ★連絡医療機関 医療機関名: 電話:	
B. アナフィラキシー病型(アナフィラキシーの既往ありの場合のみ記載) 1. 食物(原因) 2. その他(医薬品・食物依存性運動誘発アナフィラキシー・ラタックスアレルギー・)		C. 食物・食材を扱う活動 1. 管理不要 2. 保護者と相談し決定 D. 除去食品で摂取不可能なもの 病型・治療のCで除去の部に摂取不可能なものに○		記載日 年 月 日 医師名 医療機関名	
C. 原因食物・除去根拠 該当する食品の番号に○をし、かつ《 》内に除去根拠を記載 1. 鶏卵 () 2. 牛乳・乳製品 () 3. 小麦 () 4. ソバ () 5. ビーナッツ () 6. 大豆 () 7. ゴマ () 8. ナッツ類* () () 9. 甲殻類* () () 10. 軟体類・貝類* () () 11. 魚類 () () 12. 肉類 () () 13. 果物類* () () 14. その他 () *類は《 》の中の該当する項目に○をするか具体的に記載すること		[除去根拠] 該当するものを《 》内に番号を記載 ① 明らか症状の既往 ② 食物負荷試験陽性 ③ IgE抗体等検査結果陽性 ④ 家畜摂取			
D. 緊急時に備えた処方箋 1. 内服薬(抗ヒスタミン薬、ステロイド薬) 2. アドレナリン自己注射薬(「エピペン®」0.15mg) 3. その他()		E. その他の配慮・管理事項			
アレルギー性鼻炎 (あり・なし)		A. 病型 1. 通年性アレルギー性鼻炎 2. 季節性アレルギー性鼻炎 主な症状の時期: 春、夏、秋、冬 B. 治療 1. 抗ヒスタミン薬・抗アレルギー薬(内服) 2. 鼻噴霧用ステロイド薬 3. その他()		A. 屋外活動 1. 管理不要 2. 保護者と相談し決定 B. その他の配慮・管理事項(自由記載)	

この生活管理指導表は、地域独自の取り組みや現場からの意見を踏まえ、今後改善していくことを考えております。

【図6】食物アレルギー対応給食

(引用：「ぜん息予防のためのよくわかる食物アレルギー対応ガイドブック」)

● 献立表対応

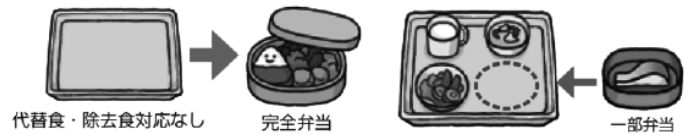
献立に使用される食材料について、主要なアレルゲン成分の詳細な含有情報を献立表に記載し、保護者に事前に伝えます。保護者は、その情報に基づいて献立の中から取り除いて食べるもの、または食べる献立と食べない献立を決め、それを園児・児童生徒らに指示します。

献立表のみの対応であると、最終的な判断は保護者や子どもたちに委ねられてしまうので、本来は献立表提示だけの対応は不十分であり、除去食や代替食と組み合わせるべきです。



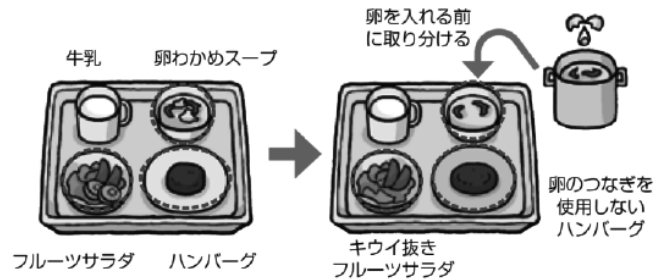
● 弁当対応

給食を全く食べず全て弁当を自宅から持参する「完全弁当対応」と、食べられない一部の献立（主食や果物など）の代わりに部分的に自宅から弁当を持参する「一部弁当対応」があります。除去食、代替食をさせていても、時には一部弁当が必要な場合もあります。



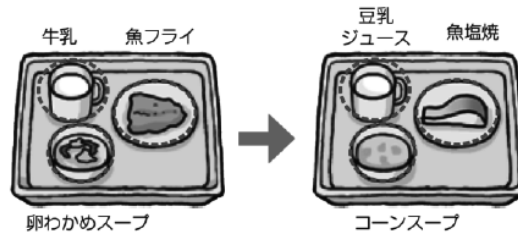
● 除去食

広義の除去食は単品の牛乳や果物を除いて提供する給食を含みますが、本来の除去食は調理の過程で特定の原材料を加えない、または除いた給食を提供することを指します。安全性を最優先に考えると、給食対応の基本と考えられます。



● 代替食

除去した食材に対して、代替りの食材を加えたり、調理法を変えたりして完全な献立（栄養価を調整されたもの）を提供することをいいます。栄養価を考慮せずに代替提供される給食は、厳密には代替食とはいえません。代替食の調理には事前の準備と人手や調理環境が必要となるため、理想的な給食対応ではありませんが実際にごく一部の調理場でしか実現できません。



【表6】悪い献立表の例

メニュー（料理）毎の原材料を記載していないため、保護者はどのメニューを除去したらよいか、栄養教諭がつけたマークが頼りとなる。栄養教諭が付け間違えると、誤食事故の原因となる。

日	曜	こんだてめい（○印がついた食品 や料理は配りません）		働く力や体 温になる食 品	血や肉にな る食品	除去・代替 の内容	担任 確認
6	水	カレーライス むぎごはん） 牛乳	ツナサラダ やさい ドレッシング） ヒトクチチーズ2	むぎごはん・ じゃがいも・ やさいドレ ッシング	牛乳・ぶた にく・ツナ・ チーズ 調 理用牛乳	カレー⇒牛 乳抜き チーズ⇒食 べない	
7	木	クロスロール パン・ 牛乳	やきフランクのケ チャップソースか け やさいのスー プに オレンジ	パン・じゃが いも・さとう	牛乳・フラン クフルト	パン⇒代替 持参	
8	金	むぎごはん 牛乳	まぐろとだいの あげに はっぼうさ い・ ヨーグルト	むぎごはん・ でんぷん・あ ぶら・さとう・ ごまあぶら	牛乳・ぶた にく・だい ず・うずらた まご・えび・ いか・まぐ ろ・ヨーグル ト	八宝菜⇒う ずら卵抜き ヨーグルト ⇒代替持 参	

【表 7】栄養士、調理室用献立表の例：代替食

氏名	除去食物	卵	乳	小麦	その他（ ）				
料理名/食品名	重量 (g)	卵	乳	小麦	代替	栄養士	保護者	調理員	担任
昼食						チェック欄（印をつける）			
カレーライス									
精白米	40								
豚もも肉	30								
じゃがいも	45								
たまねぎ	35								
にんじん	15								
サラダ油	2								
にんにく	1								
カレールー	10		●	●	不使用カレールー				
ウスターソース	5								
トマトピューレ	2								
砂糖	0.5								
塩	0.1								
野菜サラダ									
たまご	15	●			まぐろ缶詰				
ロースハム	7	●	●		不使用ロースハム				
キャベツ	30								
小松菜	20								
にんじん	5								
食塩	0.3								
酢	1								
トマトケチャップ	3								
マヨネーズ	5	●			マヨネーズタイプ調味料				
くだもの									
りんご	32								
おやつ									
いも蒸しパン									
さつまいも	20								
薄力粉	20			●	米粉				
ベーキングパウダー	0.8								
砂糖	8								
卵	10	●			バナナ				
バター	3		●		サラダ油				
水	7				豆乳				
のりもの									
牛乳	200		●		豆乳				

【表 8】代替食の原材料

代替食品	原材料								
カレールー	砂糖、とうもろこしでん粉、カレー粉、バーム油、食塩、トマトパウダー、ばれいしょでん粉、酵母エキス、オニオンパウダー								
ロースハム	豚ロース肉、水あめ、食塩、リン酸塩 (Na)、調味料 (アミノ酸)、酸化防止剤 (ビタミンC)、発色剤 (亜硝酸Na)								
マヨネーズタイプ調味料	食用植物油、醸造酢、還元水飴、食塩、加工でん粉、濃縮洋梨果汁、増粘剤 (キサンタンガム)、調味料 (アミノ酸)、濃縮にんじん汁、野菜エキス、酵母エキス、カロテン色素、香辛料								

【表 9】悪い献立表の例とその改良版

悪い例

まともな原材料が記載してあり、どのメニュー（料理）に何の原材料が含まれているかわからない。

	午前 おやつ	主食	献立名	材料	午後 おやつ
5/1 (木)	牛乳 ミレー ビスケット	パン	パン わかめスープ フルーツサラダ ハンバーグ	小麦、牛乳、舞茸の戻し汁、乾燥わかめ、 長ネギ、牛だしの素、マカロニ、アプリコット ソース（豚ロース肉、ドライブルーベリー、ド ライアプリコット）砂糖、きゅうり、リンゴ、 合挽き肉、玉ねぎ、卵、パン粉、牛乳、塩	牛乳 柏餅

改良版：メニュー（料理）毎に原材料を記載してある。

5/1 (木)	午前 おやつ	牛乳 ミレービスケット	牛乳 小麦粉・砂糖・植物油・ショートニング・ブドウ糖・食塩・膨張剤
	昼 食	パン	小麦、牛乳
		わかめスープ	舞茸の戻し汁、乾燥わかめ、長ネギ、牛だしの素
		フルーツサラダ	マカロニ、アプリコットソース（豚ロース肉、ドライブルーベリー、 ドライアプリコット）砂糖、きゅうり、リンゴ
		ハンバーグ	合挽き肉、玉ねぎ、卵、パン粉、牛乳、塩
	午前 おやつ	牛乳 柏餅	牛乳 米、アズキ

【表 10】食物アレルギー対応給食の献立表；教室への掲示

今日の献立	○△□ちゃんの献立 (牛乳、鶏卵除去)
牛乳 卵わかめスープ （卵、舞茸の戻し汁、乾燥わかめ、長ネギ、牛だしの素） フルーツサラダ （マカロニ、アプリコットソース（豚ロース肉、ドライブルーベリー、ドライアプリコット）砂糖、きゅうり、リンゴ） ハンバーグ （合挽き肉、玉ねぎ、卵、パン粉、牛乳、塩）	豆乳 わかめスープ （舞茸の戻し汁、乾燥わかめ、長ネギ、牛だしの素） フルーツサラダ （マカロニ、アプリコットソース（豚ロース肉、ドライブルーベリー、ドライアプリコット）砂糖、きゅうり、リンゴ） ハンバーグ （合挽き肉、玉ねぎ、パン粉、塩）

【表 11】急性症状出現時のチェック表

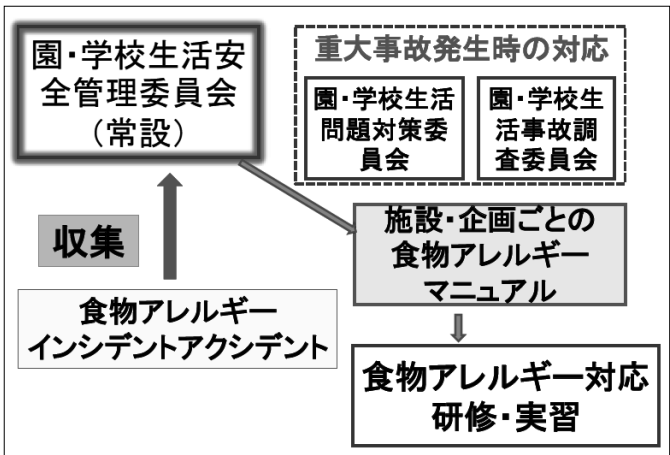
	A	B	C
全身の 症状	1 ぐったり※ 2 意識もうろう 3 尿や便を漏らす 4 脈を触れにくい、または不規則 5 唇や爪が青白い※		
呼吸器 の症状	6 のどや胸が締め付けられる 7 声がかすれる※ 8 犬が吠えるようなかん高い咳※ 9 息がしにくい(呼吸困難)※ 10 持続する強い咳込み 11 ゼーゼーする呼吸	1 繰り返す咳	
消化器 の症状	12 持続する強い(がまんできな い)おなかの痛み 13 繰り返し吐き続ける	2 中等度のおなかの痛み 3 1～2回のおう吐 4 1～2回の下痢	1 軽いおなかの痛み(がま んできる) 2 吐き気
目・口・ 鼻・顔面 の症状		5 顔全体の腫れ※ 6 まぶたの腫れ※	3 目のかゆみ、充血 4 口の中の違和感、唇の腫れ 5 くしゃみ、鼻水、鼻づまり
皮膚の 症状	上記の症状が 1つでもあてはまる場合	7 強いかゆみ 8 全身に広がるじんま疹※ 9 全身が真っ赤	6 軽度のかゆみ 7 数個のじんま疹※ 8 部分的な赤み
	1つでもあてはまる場合 <input type="checkbox"/> ①心肺停止なら蘇生開始 <input type="checkbox"/> ②ショック体位(足を 15-30cm 高くして寝かせる) <input type="checkbox"/> ③エビベン®使用 <input type="checkbox"/> ④救急車要請 <input type="checkbox"/> ⑤保護者に連絡 <input type="checkbox"/> ⑥可能なら内服薬使用	1つでもあてはまる場合 <input type="checkbox"/> ①保健室・事務室へ運ぶ(歩か せない) <input type="checkbox"/> ②緊急時薬使用 <input type="checkbox"/> ③エビベン®準備 <input type="checkbox"/> ④医療機関へ(救急車考慮) <input type="checkbox"/> ⑤症状の変化を観察し、緊急 性が高い症状に1つでもあては まればエビベン®使用 <input type="checkbox"/> ⑥保護者に連絡	1つでもあてはまる場合 <input type="checkbox"/> ①保健室・事務室で経過 観察 <input type="checkbox"/> ②緊急時薬使用

A - 1 血圧低下あるいは意識障害のため歩けない状態 A - 5 チアノーゼ A - 7 喉頭浮腫のため声がかすれる A - 8 「ケンケン」あるいは「オットセイの鳴き声」のような咳 A - 9 呼吸が苦しい、陥没呼吸 肩呼吸など呼吸困難	B - 5 形相が変わるほどの顔全体が腫れる B - 6 目が開かないほどまぶたが腫れる B - 8 全身にじんま疹が広がり正常な皮膚がない状態 C - 7 体の一部ないし数か所にじんま疹が出現
--	--

【図 7】内服薬の携帯方法



【図 8】園・学校の安全管理体制



【表 12】インシデント・アクシデントのレベル

レベル	内 容	件 数
Lv 0	事故が起こりそうな環境に前もって気づいた	35
Lv 0-1	間違ったことが患者さんに実施される前に気づいた	34
Lv 1	患者さんに実施あるいは事象が生じたが影響はなかった	143
Lv 2	事故により、患者さんのバイタルサインに変化が生じたり、検査の必要性が生じたが治療は必要なかった	5
Lv 3a	事故により、軽微な治療や処置（消毒、湿布、鎮静剤投与等）が必要となった場合	7
Lv 3b	事故により、新たな治療や処置が必要となった場合	1
Lv 4	事故により、後遺症が一生続く場合	0
Lv 5	事故が原因となって死亡した場合	0

【図 9】園生活安全管理インシデント・アクシデント登録用紙の例

(様式1) ヒヤリハット報告書

平成 年 月 日 () 時 分

園長印 主任印

園児名		天気	報告者	経験年数
才児		晴れ・雨・曇り・雪		1～5年 6年以上
発生場所どこで		出来事		受傷部位
園舎内				
本児の保育室	ベランダ	切り傷		頭
他の保育室	事務室	内出血		顔
遊戯室	出入口	打撲		耳
階段	廊下	指はさみ		唇
調理室	便所	衝突		目
その他 ()		噛みつき		鼻
園舎外		ひっかき		口
鉄棒	砂場	切り傷		頬
ブランコ	園庭	骨折		歯
すべり台	プール	脱臼		顎
雲てい	登り棒	溺水		首
その他 ()		火傷		肩
園 外		窒息		上腕
道路	公園	誤飲		前腕
その他 ()		アレルギー誤食		肘
対 象		誤薬		手指
氏名: 才		機器、物品		手平
園児・一時的保育児・職員・保護者・その他		伝達ミス (不足)		手甲
机	ピアノ	確認ミス (不足)		手爪
椅子	玩具	災害		腕
ロッカー	絨毯 (ござ)	その他		腰
配膳台	扉	()		背中
窓	手洗い場	改善策		尻
その他 ()				陰部
発生時の状況、対応				大腿
				膝
				下腿
				足指
				足裏
				足甲
				足爪
				全身
保護者への対応				
確認印				

1. 患者側の対策

(1) 利用する店の情報を得る

- ・外食はリスクが高いため利用前にアレルギー食を提供しているレストラン（ホテル）かどうかインターネットなどの情報を利用して確認する。

(2) レストラン

- ・店員の「入っていません」は、不確かなことが多いので注意。
- ・食物アレルギー対応と掲示していない普通のレストランは混入が起きやすいと思った方がよい。
- ・バイキング形式のレストランはスプーン、トングが他の料理と共有される恐れがあるので混入を起しやすいため。
- ・小麦（そば）アレルギーの患者は店の中で手うちしている店は室内に小麦粉（ソバ粉）が舞っているため入らない。
- ・うどんにそば粉がまぶしてあることがあるためそばアレルギーの患者は注意する。

(3) 誤食時の対応として

- ・内服薬（抗ヒスタミン薬、内服用ステロイド薬）やエピペン[®]、気管支喘息を合併する患者は気管支拡張薬などの準備。
- ・アナフィラキシーのリスクがある患者は、発症時に行くことができる救急病院を確認する。

2. 食物アレルギー対応と銘打つレストラン側の対策

(1) 事前対応

- ・食物アレルギー患者対応マニュアルを準備する。
- ・アレルギー担当者が複数いることが望ましい。
- ・スタッフへの食物アレルギーの教育。微量で誘発される症例がいること理解する。
- ・混入を起ささない調理手順を作成する。
- ・食物アレルギー用除去食のメニューを準備する。
- ・アレルギー対応食のメニューは原材料まで患者に分かりやすく記載する。
- ・誘発症状が出た時のスタッフの対応を決めておく。

(2) 予約時

- ・自店でアレルギー食の対応が可能であると判断した患者だけ予約を受ける。
- ・除去食メニューの原材料をFAXなどを利用して連絡しておく。
- ・除去食メニューの材料を準備する。
- ・スタッフ全員が患者情報やメニューを把握できるように記録を残す（情報の共有）。

(3) 来店時

- ・当日のアレルギー担当者を紹介する。
- ・配膳前にメニュー（料理）の再確認（材料を記入したメニュー）を家族と一緒にやる。
- ・メニュー（料理）ごとに原材料を記載したカードを付ける。
- ・混入を避ける調理器具や食器の区別は厳格に行い、別のコーナーで調理する。

キャンプ

1. 出発前の準備

(1) 情報入手と共有

- ・食物アレルギー児の原因食品とその症状を確認する。
- ・食物だけでなく、医薬品、ラテックスについても情報を入手しておく。
- ・誘発症状に関しては、アナフィラキシーの有無や、運動との関連性について（食物依存性運動誘発アナフィラキシー）十分情報を得ておく。
- ・主治医からの診断書・指示書を提出してもらう。
- ・これら収集した情報をスタッフ全員が共有する。
- ・個人情報には慎重な扱いが必要である。スタッフで情報共有することを保護者から同意をとる。

(2) 企画（食事情報はおやつに至るまでスタッフ全員が共有できるシステムにする）

食事班：メニュー作成時

- ・参加者の食物アレルギー情報に基づいたメニューを作成する；できれば参加者全員が同じメニューにする。
- ・加工食品はアレルギー物質食品表示をチェックして選ぶ。
- ・そば、ピーナッツ、ナッツ類、キウイフルーツを原則使わない。
- ・卵も使わないメニューも一考に値する。
- ・食物アレルギー患者用の代替食を決めておく（おやつメニューも含む）。
- ・完全除去食にする（間違い防止のため原因食品を少量含有する食品も出さない）。
- ・保護者にメニューの原材料表を渡し、事前チェックを依頼する。
- ・おやつの持ち込みは禁止；友達同士で交換の恐れあり。

医療班：救急時対応の事前準備（図7）

- ・緊急連絡先の確認；保護者の電話番号（自宅・携帯）、救急病院。
- ・救急時搬送する救急病院の確保。
- ・救急医薬品の準備；内服ステロイド薬、抗ヒスタミン薬、気管支拡張薬（ぜん息患者）、エピペン[®]携帯者の確認。
- ・救急時対応マニュアルの作成。

2. 施設との打ち合わせと事前調査

- ・食事の打ち合わせ。
- ・メニュー作成。
- ・調理現場の責任者の確認。
- ・可能ならば施設の食物アレルギー対応マニュアルの確認。
- ・施設内のチェック；自動販売機、売店など。

3. キャンプ出発時

- ・出発の前に、家族からの患者情報（朝のコンディション、定期内服薬使用状況）、携帯薬（緊急内服薬とそれ以外の軟膏や吸入薬）などを確認しておく。家族には食事班、医療班、キャンプ責任者、キャンプ中の緊急連絡先も伝えておく。

4. キャンプ中

(1) 医療班は救急体制の確認

- ・救急病院の電話番号を医療室の目につくところへ掲示する。
- ・家族の連絡先は名札と一緒にしておき、医療室の患者ノートにも記載する。
- ・上記準備した救急医薬品の保管場所の確認は医療班が全員で行う。
- ・救急マニュアルの確認。

(2) 誤食時対応

- ・救急対応；（表11）
- ・アナフィラキシーは迅速な対応が必要。
- ・保護者へ連絡し、実施した対応を説明する。

(3) 患児の監視

- ・名札に除去食物、緊急連絡先、エピペン[®]携帯の有無を記載する。
- ・メニューを記載したカードを配膳盆に載せ簡単に料理内容を確認できるようにする。
- ・担当者は調理時、配膳時、メニューカードで確認する。
- ・他の参加者からみて特別扱いにならない配慮をする。
- ・食事中スタッフはアレルギー児のそばに座りよく観察する。
- ・スタッフは食事後の後片付け、食後の手洗いまで患児を観察する。
- ・食後2時間は観察する。
- ・食後は速やかに片付ける。
- ・患児だけでなく周りの参加者にも食材が残らないよう手洗いを指導する。
- ・ごみ箱、食卓用の雑巾などは、参加者の手が届かない所に保管する。
- ・食事後のハイキングなどの運動によってアレルギー症状が引き起こされることがある。

国際線アレルギー対応の案内

航空会社によってはアレルギー対応機内食を提供してくれる。事前の申し込みが必要。詳しくは航空会社のホームページを参照、あるいは航空会社の窓口にお問い合わせる。また、エピペン[®]の機内への持ち込みを希望される場合も、予約時に連絡をした方が無難（図 10）。

【図 10】エピペン携帯のための診断書記載例

記入例	
Certificate for the Personal Use of Medicines (薬剤証明書)	
Patient's Name: (患者名)	Taro Nihon
Date of birth: (患者の生年月日)	JAN 1, 1950
Address: (患者住所)	1-1 Shinomeguro 1-chome, Meguro-ku, Tokyo 153-1111, Japan
<p>This is to confirm that I have prescribed <u>two EpiPen[®] Injection 0.3mg</u> (2本以上のときは本数を記入) (epinephrine injection 0.3mg) to Mr. <u>Taro Nihon</u> for the treatment of his anaphylactic reaction due to <u>insect stings</u>.</p> <p>I would like him to keep this medication on him for use as necessary.</p>	
Physician's signature: (医師のサイン)	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div><i>Haruko Tokyo</i></div> <div>Date: AUG 22, 2003</div> </div>
<Contact Information>	
Physician's Name: (医師名 活字体ローマ字)	Haruko Tokyo M.D.
Institution / Department: (医療機関名/診療科)	Japan Hospital / Allergy - Respiratory Medicine
Address: (医療機関の住所)	3-3, Shinanomachi 3-chome, Shinjuku-ku, Tokyo 160-1111, Japan
TEL/FAX: (国指定国際ダイヤル)+[81]+[市外局番の頭の0を外した番号]+[電話番号]	81-3-4987-1234 / 81-3-4987-5678

Certificate for the Personal Use of Medicines

Patient's Name: _____

Date of birth: _____

Address: _____

This is to confirm that I have prescribed ____ EpiPen® Injection ____ mg
(epinephrine injection ____ mg) to Mr /Mrs. _____ for
the treatment of his/her anaphylactic reaction due to insect stings / foods / drugs /
other (_____).

I would like him / her to keep this medication on him / her for use as necessary.

Physician's signature: _____ Date: _____

<Contact Information>

Physician's Name: _____

Institution / Department: _____

Address: _____

TEL/FAX: _____

震災時に直面する問題点と対策

1. 食品の入手が困難になる

- ・販売店の食品在庫がなくなる。交通機能マヒで支援物資が届かないこともある。
- ・支援物資の中にはアレルギー対応食品は少ない。
- ・安全に食べられる食品・飲料水（ペットボトル）の備蓄。

2. 誤食が起きやすくなる

- ・必要最小限の除去食にしておくことが、震災の時に安全に食べることができる食品を入手しやすくするポイント。定期的に血液検査や負荷試験などをうけ、食べられる食品と食べてはいけない食品を整理しておく。
- ・誤食時の対応を準備する；緊急時薬の準備やかかりつけの病院・救急病院の電話番号のリストアップをする。

3. 常用薬が不足する

- ・常用薬はなくなる前に処方を受け、1-2週間受診できなくても困らないようにする。
- ・定期的に使っている薬の名前と分量を記録しておく。
- ・薬を飲ませるための飲料水（ペットボトル）の備蓄。
- ・アレルギー外来のある病院のリストアップ。

4. 患児のアレルギー情報が周りの人に伝わりにくい

- ・食物アレルギーであることを示す名札（アレルギー緊急カード：図11）
- ・一時的にお子さんと離れ離れになる事態も起こりえる。
- ・病名、除去食品、常用薬を記載する。

【図11】アレルギー緊急カードの例

20 年 月 日現在		生年月日： 年 月 日		私は 食物アレルギー		私は 卵・乳・小麦・そば・落花生	
緊急時(災害時)のおねがい 私はアレルギーを持っています。 私が倒れている場合には、救急 車を呼んで、病院へ大至急運ん てください。 すぐに読んでください。 氏名： 血液型： (Rh + -)		年齢： 歳		喘息 アトピー性皮膚炎		えび・かに・キウイフルーツ・りんご	
		性別： 男・女		その他 _____ です。		オレンジ・もも・いか・いくら	
		住所：		症状は 喘息 じんましん		あわび・さけ・さば・牛肉・鶏肉	
		電話番号：		嘔吐 下痢 呼吸困難		豚肉・くるみ・大豆・まつたけ	
		保護者氏名：		私は、_____で、		やまいも・ゼラチン・バナナ	
		保護者氏名：		アナフィラキシーショックを		にアレルギーを起こします。	
				起こしたことがあります。			
緊急連絡先		かかりつけ医院		家族の集合場所避難先		メモ	
名 前 続柄等 連絡先(TEL等)		病院名：		避難先 1		安否確認システムの登録は下記IPから(無料) URL: http://www.aller-net.com/ から 申し込みURL: http://aller-net.com/Contents/menu.php	
		住所：		名称：			
		電話番号：		電話番号：			
		服用薬：		避難先 2			
				名称：			
				電話番号：			
				集合場所			
				名称：			
				電話番号：			

5. 合併する喘息やアトピー性皮膚炎が悪化する

気管支喘息：

避難所においては、ほこり（寝具のほこりも含む）、ダニ、ペット、煙（タバコ、炊き出し、蚊取り線香、たき火）、粉塵などの環境の悪化によって発作が起きやすくなる。

停電のため電動式吸入器が使用できない。

アトピー性皮膚炎：

環境悪化や、断水のためスキンケアができなくなり、アトピー性皮膚炎が悪化する。

アレルギー患者がいる家庭が準備すると便利な物品や情報

1. 情報源

- 1) 災害時のこどものアレルギー疾患対応パンフレット
(日本小児アレルギー学会ホームページからダウンロード可能)
- 2) 災害援助を専門とする NPO や患者会の連絡先；電話番号、ホームページ、メールアドレス
- 3) アレルギー対応の物品が備蓄されている場所や連絡方法

2. 医療・薬剤関連

- 1) かかりつけの病院、医院名、重要な所とその連絡先と簡単な地図
- 2) 病歴などを記録したメモ
- 3) 定期的に使用している薬剤の準備（疾患別に下記に記載）最低 1 週間分
- 4) 緊急時に使用する薬剤（疾患別に下記に記載）
- 5) お薬手帳

3. 日用品

- 1) 懐中電灯
- 2) 小型携帯ラジオ（警報ベルつきが便利）
- 3) 乾電池
- 4) 充電器；携帯電話用、スマートフォン用など
- 5) マスク
- 6) 軍手
- 7) リュックサック
- 8) 小銭：10 円玉（電話用）
- 9) 下着一式
- 10) 防寒着
- 11) ヘルメット
- 12) 筆記用具
- 13) タオル、ティッシュ、ウェットティッシュ（できるだけ刺激の少ないもの）ポリ袋、ジップロック
- 14) 紙おむつ、生理用ナプキン（子どもの下着の代わりや大きな傷の手当てにも使える）
- 15) ロウソク、マッチ、ライター
- 16) 石油ストーブ

4. 食料ならびに関連物品

- 1) ミネラルウォーター
- 2) 調味料：携帯用の塩、醤油、みそ
- 3) 乾燥野菜、乾燥果物
- 4) アルファ化米
- 5) ポリタンク
- 6) カセットコンロと携帯式ガスボンベ、
- 7) 電気炊飯器、電気鍋（無水調理が可能）、電気ポット、電気コンロ、電子レンジ、オーブントースター、ホットプレート（電気は比較的早期に回復するので便利）
- 8) 紙コップ、紙皿、わりばし
- 9) ラップ、アルミホイル

食物アレルギー患者がいる家庭が準備すると便利な物品や情報

1. アレルギー対応食品が備蓄されている場所の地図と連絡方法

2. 誤食時の緊急薬（抗ヒスタミン薬、経口ステロイド薬、エピペン®）最低 1 週間分

3. アレルギー対応食品の備蓄例（できるだけ日持ちのする食料品）

自分の子どもに必要な食料品を備蓄しておきましょう

- 1) 牛乳アレルギー患者：アレルギー用ミルク（表2）
- 2) 米アレルギー患者；低アレルギー米や低アレルギー米のレトルト食品
- 3) アレルギー対応アルファ化米
（特定原材料27品目未使用；災害備蓄用最長5年；米アレルギー患者は下記低アレルギー米を準備）
- 4) 米パン、米うどんなどのめん類
- 5) 缶詰類
- 6) ふりかけ、（カレーなど）レトルトのおかずやご飯（おかゆ）など
（お湯がないと使えないので清潔な水も一緒にポリタンクなどに保存）
- 7) お菓子（卵/牛乳/小麦など入っていない食品：加工品のアレルギー含有早見表から抜粋（表13））
スナック菓子、雑穀のお菓子、干しりんごなどのお菓子、あわもち、きびもち、ひえのフリーズドライや雑穀のお餅類

4. 食物アレルギーであることを周囲に知らせるアピールカードやサインプレート

5. 合併するアレルギー疾患への対応

気管支喘息患者に対して

- 1) 長期管理薬の備蓄；吸入ステロイド薬、ロイコトリン受容体拮抗薬など。最低1週間分。
- 2) 発作時の緊急時薬（ β_2 刺激薬など）；電気が使えなくなるので内服薬の備蓄は必須
- 3) 加圧式定量噴霧吸入器、スプレーやドライパウダー吸入器（停電になっても使用可能）
- 4) インタール吸入液、メプチン吸入液（アンプル）
- 5) 電動吸入器使用の場合、付属のバッテリー、シガーソケット、電池で電源をとれる物
- 6) 布団シーツ・カバー
- 7) マスク

アトピー性皮膚炎患者に対して

- 1) 外用薬の備蓄；保湿剤、ステロイド軟膏、タクロリムス軟膏など
- 2) 常用している薬剤の備蓄；抗ヒスタミン薬
- 3) 常用している石鹸
- 4) 普段使用している下着、衣類
- 5) 布団シーツ・カバー
- 6) スキンケア用品；ポリバケツに水を備蓄、電気ポットなど

【表13】鶏卵・牛乳・小麦タンパク質のいずれも含まない加工食品

商品名	メーカー (株式会社)	規格	1個当たり 重量目安	含有レベル		
				鶏卵	牛乳	小麦
* やわらか若鳥から揚げ	味の素	12個	27.2g/個	0	0	0
** オイスターソース	味の素	1本	18g/大さじ1	0	0	0
** ほんだし	味の素	56g	8.15g/袋	0	0	0
** さばみそ煮	宝幸	1缶	190g/缶	0	0	0
** さば水煮	宝幸	1缶	190g/缶	0	0	0
** peaches 白桃	宝幸	1缶	250g/缶	0	0	0
* アンティエ レモン&パセリ	日本ハム	140g(4本×2)/袋	18g/本	0	0	0
* 皮なしウイニー Winny	日本ハム	10本/袋	8g/本	0	0	0
* シャウエッセン	日本ハム	127g/袋	21g/本	0	0	0
* 角煮トンボロー 柔らか三段煮込	日本ハム	125g(5個)/袋	25g/個	0	0	0
* 焼肉 たれ 甘口	日本ハム	1本	220g/本	0	0	0
* 無塩せき 森の薫り ロース	日本ハム	5枚/パック	11.6g/枚	0	0	0
* 無塩せき 森の薫り あらびきウインナー	日本ハム	85g/袋	14.2g/本	0	0	0
* 無塩せき 森の薫り ハーフベーコン	日本ハム	6枚/袋	8.0g/枚	0	0	0
* これは便利 しっとりまるやかロース生ハム	日本ハム	4枚/パック	5g/枚	0	0	0
** サラダ うす焼き	亀田製菓	94g/袋	1.9g/枚	0	0	0
* 海からサラダスティック	ニッスイ	10本	7.11g/本	0	0	0
* じゃがビー うすしお味	カルビー	33本	1.2g/本	0	0	0
** アヲハタ 55ジャム オレンジママレード	アヲハタ	1瓶	150g/瓶	0	0	0
離乳食						
* おやさいりんご ほうれん草&かぼちゃ (9か月)	キュービー	3袋/袋	4g/袋	0	0	0
** ももとりんごのフルーツジュレ(12か月頃から)	キュービー	1カップ	70g/カップ	0	0	0
** ハッピーレシビ ささみと野菜のリゾット (7か月)	キュービー	1袋	80g/袋	0	0	0
** すまいるカップ まぐろと野菜の炊き込みごはん (9か月)	キュービー	1カップ	120g/カップ	0	0	0
調味料						
** キュービーエッグケア (マヨネーズタイプ)	キュービー	1本	205g/本	0	0	0

食物アレルギー患者さんのためのアレルゲン不使用食品

(各人の食物アレルギー原因食品が含まれていないことを表示で確認してから購入してください。)

ミルクアレルギー用粉ミルク

- ・ニューMA-1 (森永乳業) 0120-303-633
- ・MA-mi (森永乳業) 0120-303-633
- ・ミルフィー (明治) 0120-358-369
- ・エレメンタルフォーミュラ (明治)
0120-358-369
- ・ペプディエット (雪印ビーンスターク)
0120-241-537

アレルギー特定原材料等 27 品目不使用

(えび、かに、小麦、そば、卵、乳、落花生、あわび、いか、いくら、オレンジ、カシューナッツ、キウイフルーツ、牛肉、くるみ、ゴマ、さけ、さば、大豆、鶏肉、バナナ、豚肉、まつたけ、もも、やまいも、りんご、ゼラチン)

エスビー食品株式会社 0120-120-671

<http://www.sbfoods.co.jp/>

- ・カレーの王子さま 顆粒
- ・シチューの王子さま 顆粒
- ・スープの王子さま 顆粒
- ・ハヤシの王子さま 顆粒
- ・みんなのとりけるカレー 顆粒
- ・カレーの王子さま 1kg 顆粒 (業務用)
- ・アレルゲンフリー カレーフレークN (業務用)
- ・アレルゲンフリー シチューフレークN (業務用)
- ・カレーの王子さま レトルト

アルファード食品株式会社 0120-014-852

- ・アルファード化米
- ・安心米 白飯
- ・安心米 わかめご飯
- ・安心米 ひじきご飯
- ・安心米 山菜おこわ
- ・安心米 きのこ
- ・安心米 白がゆ
- ・安心米 梅

アレルギー特定原材料 7 品目不使用

(えび、かに、小麦、そば、卵、乳、落花生を使用しない)

キューピー 0120-14-1122

<https://www.kewpie.co.jp/babyfood/products/>

- ・おかゆ (だし仕立て)
- ・野菜だし仕立てのおかゆ
- ・かぼちゃとさつまいも
- ・にんじんとポテト
- ・北海道産コーン
- ・緑のお野菜とさつまいも
- ・かぼちゃとにんじん
- ・ももと白ぶどう
- ・トマトとりんご
- ・3種のくだもの
- ・りんご
- ・野菜の炊き込みごはん
- ・野菜入りチキンライス
- ・なめらかコーンドリア
- ・4種の根菜と鶏ささみ
- ・角切り野菜ミックス
- ・ミックスフルーツ
- ・ももとりんごのジュレ
- ・さけと野菜の雑炊
- ・鶏五目ごはん
- ・鶏とごぼうの炊き込みごはん
- ・レバー入りポテトドリア風
- ・まぐろと野菜のリゾット
- ・にこにこボックス まろやか和風セット
- ・にこにこボックス あじわい和風ランチ
- ・にこにこボックス 八宝菜ランチ
- ・すまいるカップ まぐろと野菜の炊き込みごはん
- ・すまいるカップ たつぷり野菜のチキンライス
- ・すまいるカップ 牛肉のすき焼き風ごはん
- ・すまいるカップ かれいと野菜の炊き込みごはん
- ・すまいるカップ 根菜わかめごはん
- ・すまいるカップ まぐろと野菜の彩りピラフ
- ・すまいるカップ すき焼き丼
- ・すまいるカップ 鮭と野菜の和風煮込み

- ・すまいるカップ 筑前煮（やわらか鶏と根菜入り）
- ・すまいるカップ ごろごろ野菜の肉じゃが
- ・すまいるカップ 鮭と野菜のかぼちゃクリーム煮
- ・すまいるカップ たっぷり野菜の牛すき焼き
- ・ハッピーレシピ にんじんとかぼちゃのおかゆ
- ・ハッピーレシピ 白身魚と野菜の雑炊
- ・ハッピーレシピ ささみと野菜のリゾット
- ・ハッピーレシピ やわらか鶏の雑炊
- ・ハッピーレシピ 鶏レバーと野菜のトマト煮
- ・ハッピーレシピ 鮭のポテトクリーム煮
- ・ハッピーレシピ まぐろと大根のわかめごはん
- ・ハッピーレシピ チキンライス（鶏レバー入り）
- ・ハッピーレシピ 鮭と野菜のあんかけごはん
- ・ハッピーレシピ やわらか鶏の五目ごはん
- ・ハッピーレシピ 鶏レバーと野菜のうま煮
- ・ハッピーレシピ 里芋の鶏そぼろ煮
- ・ハッピーレシピ チキントマトシチュー
- ・ハッピーレシピ 牛そぼろ野菜あんかけ
- ・ハッピーレシピ チキンのかぼちゃシチュー
- ・ハッピーレシピ まぐろと野菜のトマト煮
- ・ハッピーレシピ 牛そぼろと豆腐のすき煮
- ・ハッピーレシピ まぐろと大根の煮物
- ・ハッピーレシピ 野菜のミネストローネ風（レバー・牛肉入り）
- ・ハッピーレシピ きんぴら風煮物
- ・ハッピーレシピ レバー入り野菜のトマトリゾット
- ・ハッピーレシピ まぐろと根菜の炊き込みごはん
- ・おやさいぼーる さつまいも
- ・おやさいぼーる かぼちゃ
- ・おやさいぼーる とうもろこし
- ・野菜入りソフトおせんべい
- ・おやさいりんぐ ほうれん草&かぼちゃ
- ・おやさいりんぐ トマト&にんじん
- ・おやさいりんぐ にんじん&かぼちゃ
- ・ももとりんごのフルーツジュレ
- ・マンゴーともものフルーツジュレ
- ・いちごとぶどうのフルーツジュレ
- ・にんじんとりんごのフルーツジュレ
- ・トマトとりんごのフルーツジュレ
- ・3種のくだものフルーツジュレ
- ・野菜ミックスのフルーツジュレ
- ・野菜&くだものスプレッド にんじんとりんご
- ・野菜&くだものスプレッド トマトとりんご

日本ハム 0120-312053

<http://www.nipponham.co.jp/shokutaku/>

- ・みんなの食卓[®] 「ロースハム」
- ・みんなの食卓[®] 「ベーコン」
- ・みんなの食卓[®] 「ハンバーグ」
- ・みんなの食卓[®] 「ミートボール」
- ・みんなの食卓[®] 「お米で作ったまあるいパン」
- ・みんなの食卓[®] 「米粉のパンケーキ（メープル）」
- ・みんなの食卓[®] 「米粉パン」
- ・みんなの食卓[®] 「焼豚」
- ・みんなの食卓[®] 「ごちそうハンバーグ」
- ・みんなの食卓[®] 「お米で作ったしにくいパン」
- ・みんなの食卓[®] 「お米で作った食パン」
- ・みんなの食卓[®] 「小さなシャウエッセン」
- ・みんなの食卓[®] 「ポークウインナー」
- ・みんなの食卓[®] 「野菜スープ」

イオン株式会社 0120-28-4196

<https://www.topvalu.net/yasashi-gohan/>

- ・発芽玄米パスタと野菜のホワイトソースで
つくるカルボナーラセット
- ・発芽玄米パスタと野菜のトマトクリームソースで
つくるトマトクリームパスタセット
- ・発芽玄米ショートパスタと野菜のホワイトソースで
つくるグラタンセット
- ・野菜と米ピューレでつくったポークカレー
- ・豚肉と野菜・米ピューレでつくったミートソース
- ・野菜と米ピューレでつくったホワイトシチュー
- ・野菜と米ピューレでつくったホワイトソース
- ・野菜と米ピューレでつくったトマトクリーム
ソース
- ・野菜と米ピューレでつくったトマトたっぷり
ブラウン風ソース
- ・野菜と米ピューレでつくったペーストタイプ
のカレールー
- ・発芽玄米でつくったショートパスタ
- ・発芽玄米でつくったリングイネタイプ
- ・発芽玄米でつくったスパゲッティタイプ
- ・おこめでつくったやきそば麺
- ・おこめでつくったミックス粉
- ・おこめでつくったケーキミックス粉

アレルギー特定原材料 26 品目不使用

(えび、かに、小麦、そば、卵、乳、落花生、あわび、いか、いくら、オレンジ、カシューナッツ、キウイフルーツ、牛肉、くるみ、ゴマ、さけ、さば、大豆、鶏肉、バナナ、まつたけ、もも、やまいも、りんご、ゼラチン)

* 27 品目中豚肉が含まれています

株式会社永谷園 0120-919-454

<http://www.nagatanien.co.jp/product/detail/125/>

- ・アンパンマンミニパックカレーポークあまくち
- ・アンパンマンミニパックハヤシ ポーク
- ・アンパンマンミニパックミートソース ポーク
- ・アンパンマンミニパック 野菜あんかけ丼

卵、乳、小麦、そば、落花生、大豆不使用

株式会社永谷園 0120-919-454

<http://www.nagatanien.co.jp/product/detail/125/>

- ・A-Label (エー・ラベル) 鮭ふりかけ
- ・A-Label (エー・ラベル) おかかふりかけ
- ・A-Label (エー・ラベル)
あたためなくてもおいしいカレー 甘口 5年保存
- ・A-Label (エー・ラベル)
あたためなくてもおいしいカレー 中辛 5年保存
- ・アンパンマンカレールー
- ・アンパンマンミニパックカレーポークあまくち
- ・アンパンマンミニパックハヤシ ポーク
- ・アンパンマンミニパックミートソース ポーク
- ・アンパンマンミニパック 野菜あんかけ丼
- ・くまのプーさんお茶づけ
- ・それいけ! アンパンマンお茶づけ
- ・それいけ! アンパンマンまぜこみごはんの素
鮭わかめ
- ・それいけ! アンパンマンまぜこみごはんの素
緑黄色野菜
- ・快盗戦隊ルパンレンジャー VS 警察戦隊パトレンジャー
カレーポークあまくち
- ・快盗戦隊ルパンレンジャー VS 警察戦隊パトレンジャー
ミニパックカレー ポークあまくち
- ・妖怪ウォッチカレー ポークあまくち

エスビー食品株式会社 0120-120-671

<http://www.sbfoods.co.jp/>

- ・カレーの王子さまルータイプ

アレルギー特定原材料 7品目、大豆不使用

エスビー食品株式会社 0120-120-671

<http://www.sbfoods.co.jp/>

- ・カレーの王子さま レトルト
- ・カレーのお姫さま レトルト
- ・ハヤシの王子さま レトルト

謝 辞

皆様のお蔭で多数の患者様から集められた事例が、整理され「食物アレルギーひやりはつと事例集」を改訂することが出来ました。心から深謝します。

この冊子が食物アレルギーの患者さんやそのご家族の方、さらには、園、学校、レストランなど、食品を扱う施設で働く多くの方に役立つことを期待します。

事例収集に協力して頂いた組織

NPO法人アレルギー支援ネットワーク

藤田保健衛生大学小児科免疫アレルギーリウマチ研究会

安藤仁志	飯海 潔	市川陽子	犬尾千聡	宇理須厚雄	大久保悠里子	大沢 香
大高早希	大脇さよこ	岡本 薫	小倉和郎	各務美智子	金森俊輔	川口博史
川田康介	久保とし子	小澤 徹	児玉 央	小松原亮	近藤 久	近藤康人
榊原三平	鈴木聖子	高松伸枝	田中健一	柘植郁哉	辻 幸余	津田こずえ
鶴田光敏	和田映子	土岐由香里	徳田玲子	中島陽一	中原 務	成瀬徳彦
野村孝泰	畑川恵子	早川洋一	平田典子	堀場史也	増田 進	松浦真路
松山温子	三松高一	宮田隆夫	宮谷真正	森田 豊	藪田憲治	山田一恵
山脇一夫	湯川牧子	森 雄司	水谷公美	川井 学	河野透哉	齋藤彩子

加藤えり那

作成協力

尾辻健太（沖縄協同病院 小児科）

表紙デザイン

小倉和郎（おぐら小児科 院長）

監修

宇理須厚雄（うりすクリニック）

編集委員

編集長 近藤康人（藤田医科大学 ばんだね病院 小児科 教授・アレルギーセンター 副センター長）

委 員 近藤 久（医療法人久愛会近藤小児科医院 院長）


山田一恵（山田医院 院長）

和田映子（医療法人道雄会和田クリニック 院長）

鈴木聖子（すずこどもクリニック 院長）

田中健一（田中小児科医院 副院長）

成瀬徳彦（なるせこどもアレルギークリニック 院長）



平成 29 年度消費者庁支出委任費
研究代表：近藤康人

2019 年 3 月 29 日
藤田医科大学 小児科
免疫アレルギーリウマチ研究会 作成